



PANIGALE

オーナーズマニュアル

日本語

PANIGALE V2

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。

所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで(書面による)許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

概要 7

安全性ガイドライン 7

本マニュアルで使用されている警告シンボル 8

用途 9

ライダーの義務 10

ライダーの教育 11

服装 11

安全のための"ベストプラクティス" 12

燃料の補給 14

最大積載時の運転 15

車両への積載に関する注意 15

危険物 - 警告 16

車両識別番号 18

エンジン識別番号 19

インストルメントパネル(ダッシュボード) 20

インストルメントパネル 20

取扱説明書内で使用される頭字語および略語 23

技術用語集 23

ブラウズボタンおよび機能ボタン 26

パラメーターの設定および表示 27

主な機能とサブ機能 30

エンジン回転数表示 32

車両スピード 33

ギア 34

時計 35

エンジンクーラント温度 36

ライディングモード (RIDING MODE) 37

DWC 表示 39

ABS 表示 44

DTC 表示 49

DQS 表示 55

EBC 表示 57

DDA 表示 60

機能メニュー 61

TOT 62

TRIP 1 63

CONS. AVG 1 64

SPEED AVG 1 65

TRIP TIME 1 66
TAIR 67
TRIP FUEL 68
TRIP 2 69
CONS. 70
PLAYER (OFF / ON) 71
LAST CALLS 76
HEATING GRIPS 77
SETTING MENU 79
SETTING MENU - Riding Mode 81
SETTING MENU - Riding Mode - Engine 82
SETTING MENU - Riding Mode - DTC 83
SETTING MENU - Riding Mode - ABS 84
SETTING MENU - Riding Mode - DWC 85
SETTING MENU - Riding Mode - EBC 86
SETTING MENU - Riding Mode - DQS 87
SETTING MENU - Riding Mode - Default 88
SETTING MENU - Riding Mode - All Default 89
SETTING MENU - Pin Code 90
SETTING MENU - Lap 95
SETTING MENU - Backlight 98
SETTING MENU - Date and Clock 99
SETTING MENU - Units 102
SETTING MENU - Service 106
SETTING MENU - Tire Calibration 107
SETTING MENU - DRL 110

SETTING MENU - Bluetooth 111
SETTING MENU - DDA 116
SETTING MENU - Turn indicators 118
SETTING MENU - Info 119
ラップタイム (LAP Time) 120
インフォテインメント 124
ライトコントロール 129
DRL モード表示 134
サイドスタンドのステータス表示 135
メンテナンス表示 (SERVICE) 136
エラー表示 139
注意および警告 140
キー 145
イモビライザーシステム 146
PIN CODE による車両の解除 147

運転時に必要なコマンド 148
コマンド類の配置 148
イグニッションスイッチ / ステアリングロック 149
ハンドルバー左側スイッチ 150
クラッチレバー 151
ハンドルバー右側スイッチ 152
スロットルグリップ 153
フロントブレーキレバー 154

リアブレーキペダル 155
ギアチェンジペダル 156
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整 157

主要構成部品 / 装備 159
車両上の配置 159
燃料フィラープラグ 160
シートの取り外しおよび取り付け 161
サイドスタンド 163
Bluetooth コントロールユニット 164
ステアリングダンパー 166
フロントフォーク調整 167
リアショックアブソーバーの調整 169

運転の方法 171
慣らし運転の方法 171
走行前の点検事項 173
エンジンの始動 176
車両の発進 178
ブレーキ操作 178
ABS システム 179
車両の停止 180
パーキング 181

燃料の補給 182
付属アクセサリー 184

主な整備作業とメンテナンス 185
フェアリングの取り外し 185
クーラントレベルの点検および補充 186
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検 187
ブレーキパッドの摩耗点検 189
バッテリーの充電 190
冬季のバッテリー充電およびメンテナンス 194
トランスマッisionチェーン張力の点検 196
チェーンの潤滑 198
ハイビーム/ロービーム電球の交換 203
リターンインジケーター 203
ヘッドライトの光軸調整 204
リアビューミラーの調整 206
チューブレスタイヤ 207
エンジンオイルレベルの点検 209
車両の清掃 211
スパークプラグの清掃と交換 213
長期間の保管 214
重要注意事項 215

メンテナンスプログラム 216

メンテナンスプログラム：ディーラーでおこなうメンテナンス 216
メンテナンスプログラム：お客様がおこなうメンテナンス 220

定期点検メモ 235
定期点検メモ 235

テクニカル仕様 221

重量 221

サイズ 222

補給 223

エンジン 224

タイミングシステム 225

性能データ 226

スパークプラグ 226

燃料供給 226

ブレーキ 226

トランスミッション 227

フレーム 228

ホイール 228

タイヤ 228

サスペンション 228

エキゾーストシステム 229

カラーバリエーション 229

エレクトリカルシステム 230

概要

安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様を ドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しめることと思います。

Ducati モーター・ホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。

お客様のモーターサイクルは、Ducati モーター・ホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。

本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。

お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムのすべての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセ

ンターで実施していただくことを強くお薦めしますページ 216 参照。

Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。

すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しております。車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。車両や部品の一部であっても改造または変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかつたり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルをご使用になられますようお願ひいたします。

モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載されているガイドラインに正しく従ってください。正しい使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳

しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ



警告

これらの注意事項が守られない場合、ライダー や他の人に重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。



重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。



参考

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

用途

本モーターサイクルはアスファルト舗装、または平らで整備された路面状態の道路においてのみ使用してください。未舗装道路やオフロードでは本モーターサイクルを使用することはできません。



警告

オフロード走行に使用すると車両のコントロールを失い、車両の損傷、身体の傷害または死亡事故にいたるおそれがあります。



警告

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。



警告

ライダー、荷物、オプションパーツを含む車両総重量が 400 kg (881.85 lb) を超えないようにしてください。



重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

ライダーの義務

運転者は運転免許証を受けていなければなりません。

警告

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。

警告

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないようにしてください。

警告

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

!**警告**

現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

警告

現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

警告

事故が起ったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

警告

ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

警告

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットはページ 10 に記載されている要件を満たしていかなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5 本指のものを着用してください。

- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- ジェケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付いているものを着用してください。

重要

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆつたりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。

重要

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

安全のための"ベストプラクティス"

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

■ 重要

! 慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。

この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーター・ホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

■ 警告

! 運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本冊子が定める点検を必ず実施してください(ページ 178 を参照)。

■ 警告

! これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーに重大な傷害を招くおそれがあります。

■ 警告

! エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。

排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。
走行中は適切な姿勢を保ってください。

■ 重要

! ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

■ 重要

! 走行中、ライダーは必ず足をペダルに乗せてください。

■ 重要

! 私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などの交差点では十分に注意してください。

■ 重要

! 相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入りて走行することは避けてください。

! 重要

右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行つてください。

! 重要

モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

! 重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

! 警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

! 警告

モーターサイクルの傍から離れる際は、必ずイグニッションキーを抜き取り、他人が勝手に使用できない場所にキーを保管してください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。

エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。

給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。

給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

!**警告**

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料(E10)のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

!**警告**

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹼で洗ってください。

!**警告**

燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。

車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。

!**警告**

最大許容重量を超えないようにしてください。
また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意

!**重要**

積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

!**重要**

車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

!**重要**

バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

!**重要**

車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

!**警告**

タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。
「タイヤ」の段落を参照してください。

危険物 - 警告

使用済みエンジンオイル

!**警告**

使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹼で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

!**警告**

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

!**警告**

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。

!**警告**

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかかるないようにしてください。

これらの部品はクーラントが発火するのに十分な熱を持っている場合があります。そのため、見えない炎で火傷を負うおそれがあります。クーラント(エチレングリコール)は皮膚刺激を起こすことがあります。また飲み込むと有害です。お子様の手の届かないところに保管してください。エンジンが熱いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。クーラントは加圧された状態にあり、火傷を引き起こす原因となることがあります。

クーリングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

バッテリー



警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

車両識別番号



これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム N.

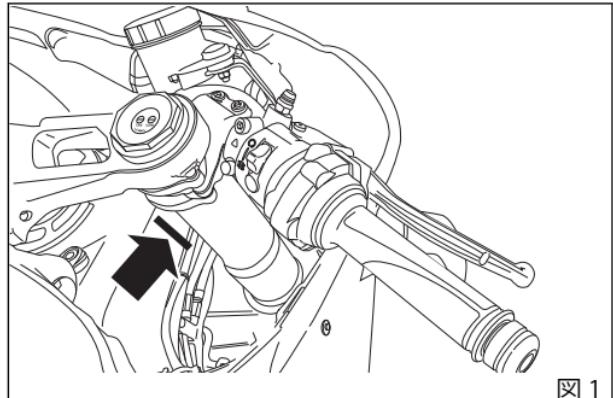


図 1

エンジン識別番号



これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

エンジン識別番号は車体フロント側、スターターモーターとジェネレーターカバー付近のホリゾンタルシリンダ下側に記載されています。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン N.

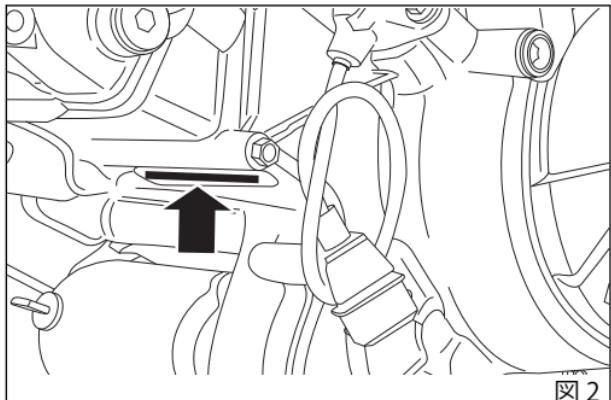


図 2

インストルメントパネル(ダッシュボード)

インストルメントパネル

- 1) ディスプレイ
- 2) ニュートラルランプ N (緑)
- 3) 一般的エラー警告灯 △ (琥珀色)
- 4) ハイビーム表示灯 ⚡ (青)
- 5) リザーブ燃料警告灯 □ (琥珀色)
- 6) ターンインジケーター表示灯 ⇄ (緑)
- 7) エンジンオイル圧警告灯 ⚡ (赤)

!**重要**

エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

- 8) DTC/DWC ステータスランプ (琥珀色)
 - ランプ OFF : DTC/DWC 機能作動中

- ランプ ON 点滅 : DTC/DWC は起動しているが、性能が制限されている
 - ランプ ON : コントロールユニット不具合のため、DTC/DWC は解除されているか作動していない
- 9) "エンジン診断 - MIL" ランプ ⚡ (琥珀色)
 - エンジンマネジメントエラーが発生すると警告灯が点灯します。急な加速や追い越し運転は避け、Ducati 正規サービスセンターまでゆっくりと走行し、故障の修理をご依頼ください。
 - 警告灯が点滅するときは、排出ガスに重大なエラーが発生しているため、触媒コンバーターを損傷するおそれがあることを通知しています。可能であれば Ducati 正規サービスセンターまで車両の運搬を依頼し、サービスセンターに故障の修理をご依頼ください。いずれの場合も、急な加速や追い越し運転は避けてゆっくりと走行してください。
 - 10) ABS ランプ (ABS) (琥珀色)
 - ランプ OFF : ABS 機能作動中
 - ランプ ON 点滅 : ABS は自己診断中あるいは起動しているが、性能が制限されている
 - ランプ ON : ABS コントロールユニット不具合のため、ABS が解除されているか作動していない
 - 11) DTC/DWC 介入 (琥珀色)
 - ランプ消灯 : DTC 介入なし

- ランプ点灯：DTC 介入

12) サイドオーバーレブ(赤)

これらの警告灯は警告灯 13 の点灯と連動して点灯し、リミッターが介入したことを探知します。

13) OVER REV / イモビライザー停止(赤)

オーバーレブ：

- ランプ消灯：リミッターの介入なし
- ランプ点灯：リミッター介入



参考

エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

イモビライザー：

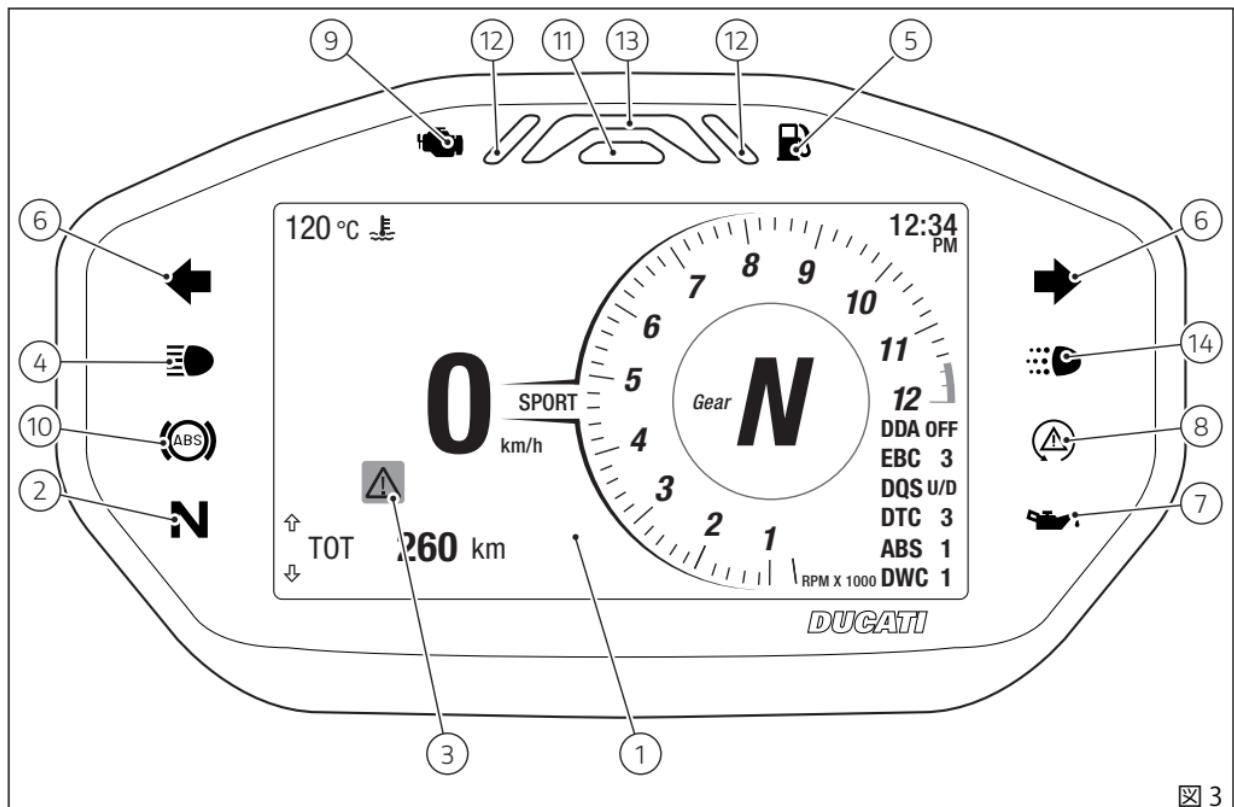
- ランプ消灯：車両 Key-ON 状態、または 12 時間以上 Key-OFF 状態
- ランプ点滅：車両 Key-OFF 状態

14) DRL ランプ(緑)(中国、カナダ、日本バージョンには装備されません)



重要

ディスプレイに“TRANSPORT MODE”的文字が表示されている場合は、直ちにドゥカティ正規ディーラーにご連絡ください。正規ディーラーにてこの項目を削除し、バイクの完全な機能の保証を受けてください。



取扱説明書内で使用される頭字語および略語

ABS
アンチロックブレーキシステム

DDA
ドゥカティデータアナライザー

DQS
ドゥカティクイックシフト

DRL
デイタイムランニングライト

DTC
ドゥカティトラクションコントロール

DWC
ドゥカティウィリーコントロール

EBC
ドゥカティエンジンブレーキコントロール

GPS
グローバルポジショニングシステム

技術用語集

アンチロックブレーキシステム (ABS)

Panigale V2 が搭載する ABS は、設定レベルに応じた異なるストラテジーを適用して車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。ストラテジーのアクティビティプレゼンスと介入レベルは選択レベルに準じ

ます。ABSには3通りの介入レベルが用意されており、それぞれライディングモードと連動しています。

さらに、Panigale V2 が搭載する ABS は「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。コーナリング機能は全 ABS レベルで作動します。

ABS 設定レベルに応じて、リアホイールのリフトアップ制御を有効にでき、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

ドゥカティデータアナライザー (DDA+)

DDA+はドゥカティデータアナライザーの最新モデルで、GPS 信号を読み取り "バーチャルフィニッシュライン"を作成します。システムはライダーの操作なしに自動的にラップの終了を検知し、ストップウォッチ測定を中断します。GPS 信号を使用することでサーキットのマップ上に走行軌跡だけでなく、スロットル開度、スピード、エンジン回転数、ギア、エンジン温度、DTC 介入といった車両の主要パラメーターを表示することができます。

ドゥカティクイックシフト (DQS)

UP/DOWN 機能を備える DQS システムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。

ペダルの作動機構に内蔵された双方向マイクロスイッチからなり、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。

システムはシフトアップとシフトダウンで動作が異なります。シフトアップシステムでは点火進角と燃料噴射に作用し、シフトダウン時にはスロットルバルブオープニングを制御します。

ドゥカティトラクションコントロール (DTC)

ドゥカティトラクションコントロール(DTC)はリアホイールのスリップ制御を行い、8つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル8はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用サーキット走行向けのレベル1は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

ドゥカティウィリーコントロール (DWC)

ドゥカティウィリーコントロール(DWC)はウィリー制御を行い、8つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レ

ベル8ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行います。熟練ライダー専用のレベル1ではウィリー防止を最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。

エンジンブレーキコントロール (EBC)

エンジンブレーキ調整システム (EBC) はアンチホッピングクラッチと連動して機能し、急激なシフトダウンの際のリアホイールのブロックを防止します。

3レベルのオペレーションシステムを装備し、EBCは3つのライディングモードに組み込まれています。

パワーモード

パワーモードは、ライダー自身のライディングスタイルと路面状況に合わせて出力レベルとパワーデリバリーを選択できるエンジンマッピングです。

Panigale V2には3つのパワーモードがあり、それぞれがライディングモードと連動しています。

- LOW、穏やかなパワーデリバリー
- MEDIUM、穏やかなパワーデリバリー
- HIGH、瞬間的なパワーデリバリー

Riding Mode

Panigale V2ではライダーは3つの初期設定(ライディングモード)からライディングのスタイルや道路状況に最も適したモードを選択することができます。ライデ

ィングモードでエンジン出力(パワーモード)、ABS、
DTC、DQS、EBC、DWCの各介入レベル、インストル
メントパネルの表示を瞬時に変更することができます。

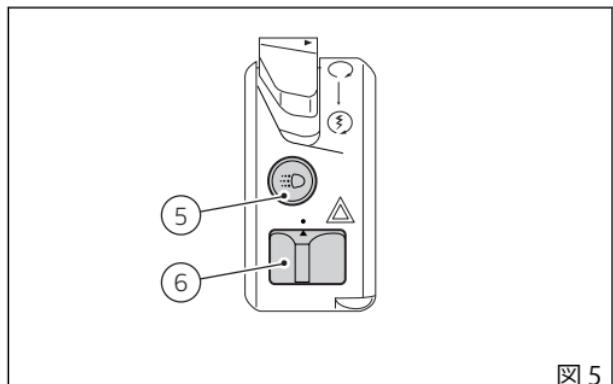
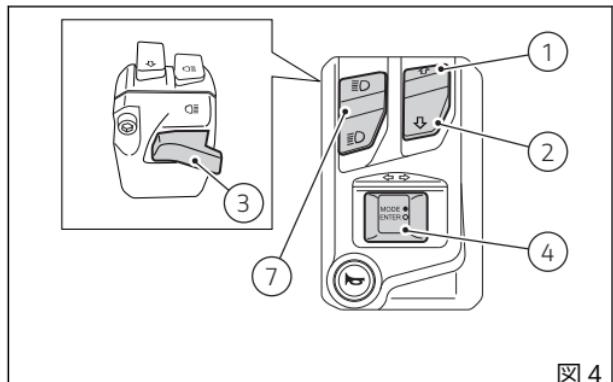
Panigale V2 で使用できる設定は、RACE、SPORT、
STREET です。ライダーはそれぞれのライディングモ
ードの初期設定を自由に変更することができます。

ブラウズボタンおよび機能ボタン

- 1) コントロールボタン UP "↑"
- 2) コントロールボタン DOWN "↓"
- 3) フラッシュシャーランプ / LAP ボタン
- 4) ENTER / ターンインジケーター作動ボタン "○"
- 5) DRL ボタン (アクセサリー)
- 6) ハザードボタン
- 7) ロービーム / ハイビームライトボタン

UP ボタン (1)、DOWN ボタン (2)、ENTER ボタン (4) は、インストルメントパネルのブラウジング、機能の操作、メニュー操作に使用します。

本書内では、UP ボタン (1) および DOWN ボタン (2) を「ブラウズボタン」と呼びます。



パラメーターの設定および表示

インストルメントパネルが起動すると、画面にDUCATIロゴが表示され、各LEDランプの点検が順番に実行されます。点検が終了すると、インストルメントパネルには、KEY-OFF前に使用していたモード(RACE、SPORT、STREET)のメイン画面が表示されます。点検中に車両速度が5 km/h(3 mph)を超えると、インストルメントパネルは点検を中断し、メイン画面を表示します。

3種類のメイン画面があり、それぞれの画面は対応する次のライディングモードに連動しています。RACE、SPORT、STREETです。

各画面は、ディスプレイ中央に表示されているライディングモード名と色、エンジン回転数グラフのフレームカラーが次のように異なります。

- ライディングモード RACE は赤色 (A)
- ライディングモード TSPORT の DAY モードはブラック、NIGHT モードはホワイト (B)
- ライディングモード STREET はグレー (C)

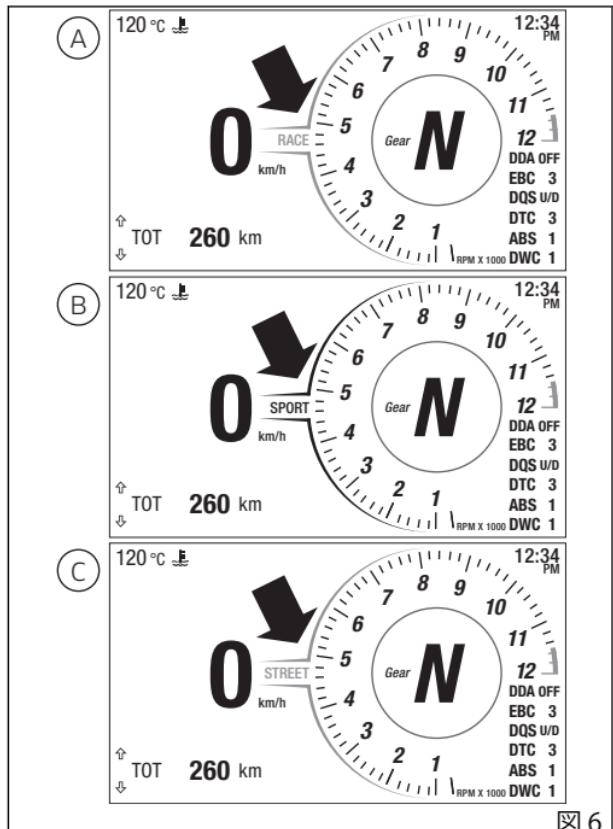
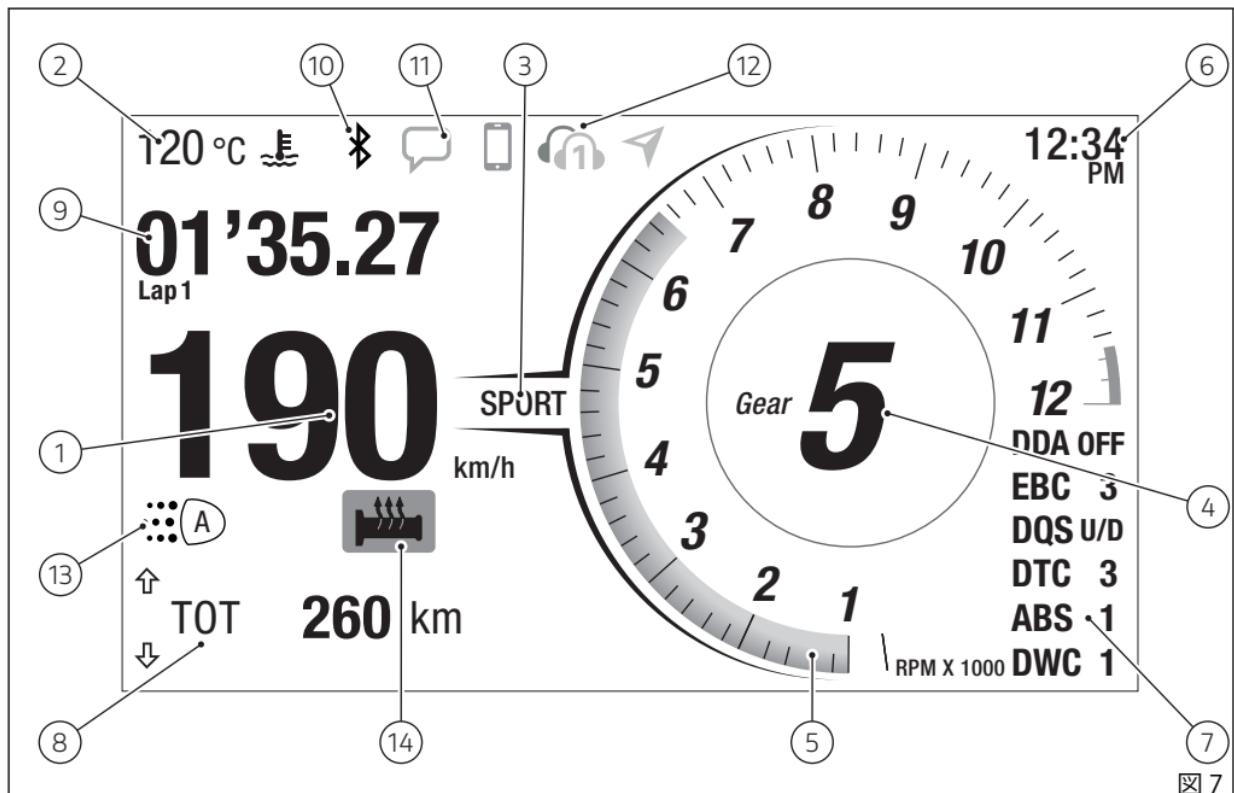


図 6

- すべてのメイン画面には以下の情報が表示されます
(図 7)。
- 1) 車両スピード
 - 2) エンジンクーラント温度
 - 3) 設定ライディングモード (Riding Mode)
 - 4) ギア表示
 - 5) タコメーター
 - 6) 時計
 - 7) 設定ライディングモードに連動する値のパラメーター表示
 - 8) 機能メニュー
 - 9) ラップタイム (起動時のみ) または音楽プレーヤー (起動時のみ)
 - 10) Bluetooth 表示 (Bluetooth が搭載されており、起動している時のみ)
 - 11) 不在着信、またはメッセージ受信表示 (Bluetooth が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
 - 12) 接続デバイス表示 (Bluetooth が搭載されており、起動している時のみ)
 - 13) DRL ステータス (中国、カナダ、日本バージョンには DRL は装備されません)。
 - 14) ヒーテッドグリップ (装備している場合)
- 注意 / 警告表示 (Warning)
- サイドスタンドの状態 (Side Stand)
- SERVICE 表示

以下の機能が有効な時は、これらの詳細情報が表示されます。



主な機能とサブ機能

メイン画面に表示される機能：

メイン機能：

- 車両スピード
- エンジン回転数表示
- エンジンクーラント温度
- 時計
- ギア表示
- 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 設定ライディングモードのパラメーター：DWC、
ABS、DTC、DQS、EBC、DDA
- 機能メニュー
- TOT - トリップメーター
- TRIP 1 - トリップメーター 1
- CONS. AVG 1 - 平均燃費
- SPEED AVG 1 - 平均スピード
- TRIP TIME 1 - トリップタイム
- T AIR - 外気温
- TRIP FUEL - 燃料リザーブトリップメーター
- TRIP 2 - トリップメーター 2
- CONS. - 瞬間燃費
- PLAYER (OFF / ON) - 音楽プレーヤー操作 -
Bluetooth モジュール(アクセサリー)が搭載され
ており、少なくとも 1 台のスマートフォンが接続
されている場合のみ

- LAST CALLS - Bluetooth モジュール(アクセサリ
ー)が搭載されており、少なくとも 1 台のスマ
ートフォンが接続されている場合のみ
- HEATING GRIPS - ヒーテッドグリップ管理、搭載
されている場合のみ(アクセサリー)
- SETTING MENU

サブ機能：

- ラップタイム LAP
- インフォテインメント(アクセサリー)
- サービスメンテナンス表示
- DRL ステータス表示(アクセサリー)
- エラー
- 注意および警告
- サイドスタンドの状態表示

SETTING MENU のうち以下の機能はユーザーに
による変更が可能です。

- Riding Mode - ディングモード
- PIN CODE - 登録および変更
- Lap - ラップタイムの起動および管理
- Backlight - バックライトの調節
- Date and Clock - 日付と時計の設定
- Units - 単位の設定
- Service - 次回サービスの情報

- Tire Calibration - タイヤと減速比のキャリブレーション
- DRL - モード設定 (アクセサリー)
- Bluetooth - Bluetooth デバイス管理 (アクセサリー)
- DDA - データ管理
- Turn indicators - インジケーターのモード設定
- Info - 情報

エンジン回転数表示

エンジン回転数は軌跡が色付きのタコメーターで表示されます。DAY モードではグレー、NIGHT モードではホワイトで表示されます。

エンジン回転数表示の軌跡が琥珀色に変わると、シフトアップするタイミングであることを示します。

リミッターが作動すると、ランプ

(オーバーレブ 12 および 13、図 3) が点灯し、軌跡が赤色に点滅します。

回転数が 1,000 rpm を下回っている場合は、軌跡は表示されません。

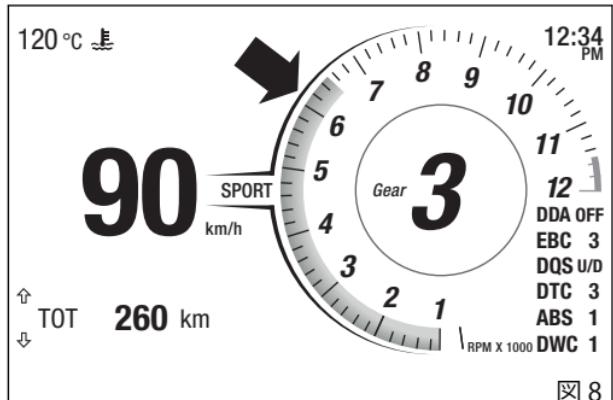


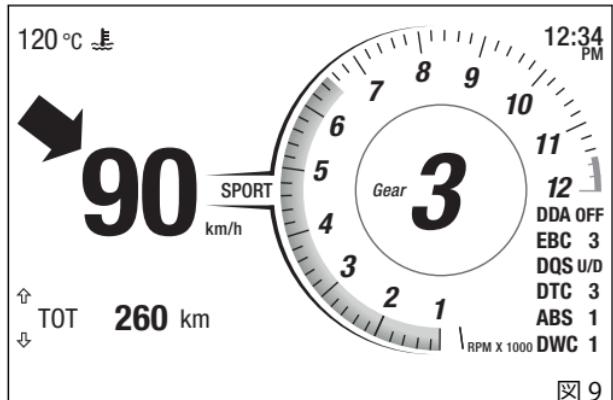
図 8

車両スピード

速度は 5% 増加した速度値と設定単位(km/h または mph)で表示されます。

以下の場合には 3 本の点線 "—" と単位が表示されます。

- 走行速度 299 km/h (186 mph) 以上
- スピードセンサーに異常がある場合 ("—" 点滅)



ギア

挿入ギア(1-6)はタコメーター中央に表示されます。ニュートラルの時は"N"の文字が表示され、ニュートラルランプ(ランプ2、図3)が点灯します。

ギアセンサーホーネーの場合は点線“-”が表示され、ニュートラルランプが点滅します。

参考

線“-”が点灯し、ニュートラルランプが消えている場合は、ギアが機械的に安定した位置にない可能性があります。その場合は、ギアが正しく表示されるまで、ギアを操作してください。

参考

エンジン回転数表示の軌跡が琥珀色に変わると、シフトアップするタイミングであることを示します。

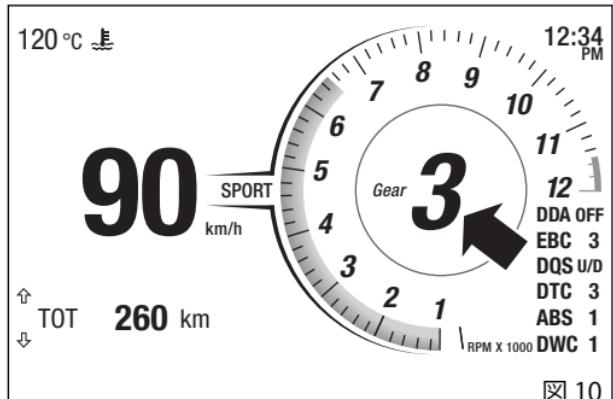


図 10

時計

時刻は「HH:MM (時:分)」形式と、その後に“AM”または“PM”で表示されます。

電源供給が中断された場合(Battery Off)は、次回の起動時に4本の点線"---"が点灯します。また、中央のコロンが点滅し、“AM”の文字が表示されます。
SETTING MENU から時計を設定してください。

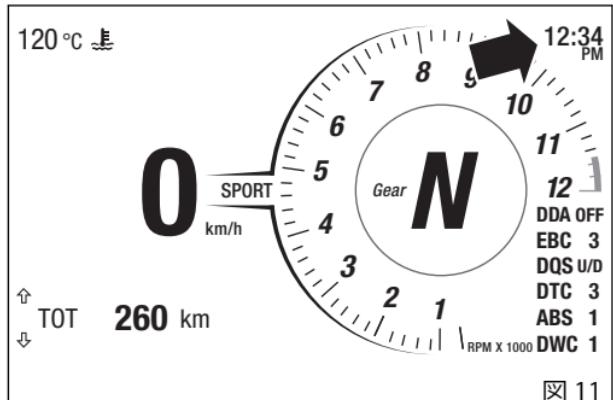


図 11

エンジンクーラント温度

温度は設定した単位(° C または ° F)で表示されます。エンジン温度の表示範囲は 40 ° C ~ +120 ° C (+104 ° F ~ +248 ° F) です。

データが以下の場合 :

- 40 ° C (-40 ° F) 以下の場合、3 本の点線 "---" が点滅表示されます。
- 39 ° C (-38 ° F) ~ +39 ° C (+102 ° F) の場合、"LO" の文字が表示されます。
- +121 ° C (+250 ° F) 以上の場合、"HI" の文字が点滅表示されます。

クーラント温度センサーエラーの場合、設定単位と共に 3 本の点線 "---" が点滅表示されます。

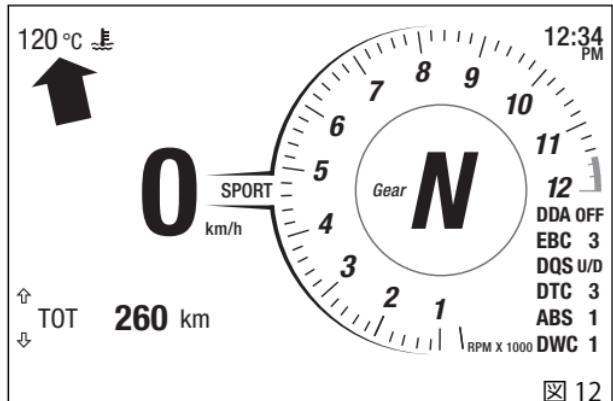


図 12

ライディングモード (RIDING MODE)

3通りのライディングモードは、RACE、SPORT、STREETです。

設定されているライディングモード名が、ディスプレイ中央の速度とタコメーターの間に表示されます。ライディングモード名とタコメーターは、それぞれのライディングモードの色で表示されます。

- RACE は赤色 (A)
- SPORT の DAY モードはブラック、NIGHT モードはホワイト (B)
- STREET はグレー (C)

各ライディングモードのパーソナライズ可能なパラメーターは、ENGINE、DTC、ABS、DWC、EBC、DQS です。

各ライディングモードのパラメーターは工場出荷時に設定されますが、SETTING MENU からパーソナライズすることができます。

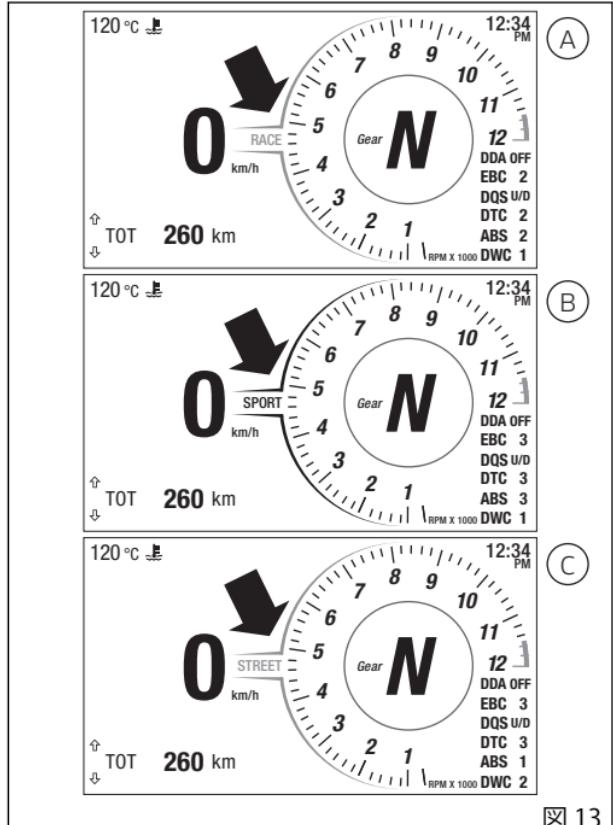


図 13

ライディングモードを変更するには、

- ENTER ボタンを 1 秒間長押しします。
選択可能なライディングモードをスクロールできる画面が表示され、各パラメーターと設定値が表示されます。
- ブラウズボタンを使用して、希望のライディングモードを選択します。
- ENTER ボタンを押して決定します。

変更を行わずにライディングモードの変更を終了するには、“Exit”を選択して ENTER ボタンを押します。

新しいライディングモードが決定されると、インストルメントパネルは以下の検証を行います。

- 走行速度 5 Km/h (3 mph) 以下でスロットルグリップが開いている場合、“Close throttle”(スロットルを開じてください)の文字が表示されます。スロットルグリップが閉じられたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻ります。
- 走行速度 5 Km/h (3 mph) 以下でスロットルグリップは閉じているが、ブレーキがかけられている場合、“Release brakes”(ブレーキを放してください)の文字が表示されます。ブレーキが放されたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻ります。

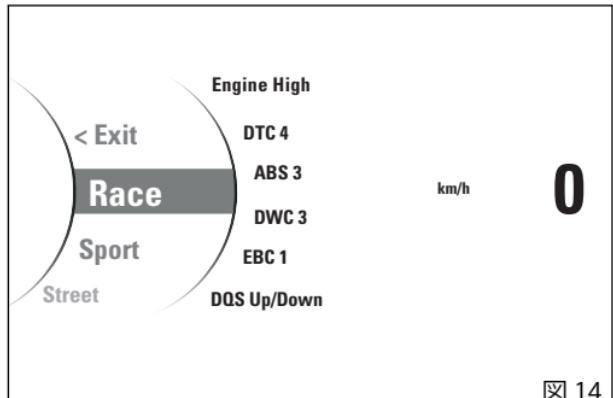


図 14

- 上記の両方の状態にある場合は、“Close throttle and release brakes”(スロットルを開じて、ブレーキを放してください)の文字が表示されます。両方の条件が満たされたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻ります。

上記のいずれかの条件が表示されてから 5 秒以内にライディングモード変更を有効にする条件が満たされなかった場合は、選択手順は中止されます。インストルメントパネルは設定を変更せずにメイン画面に戻ります。

DWC 表示

DWC の現在のレベルを表示します。

レベルは SETTING MENU 内のライディングモード機能からパーソナライズ可能です。

DWC が ON の時に機能制限モードである場合は点滅表示され、さらに DTC/DWC ステータスランプ(ランプ 8、図 3)が点灯します。

DWC エラーの場合は、"Err" の文字が赤色で表示され、さらに DTC/DWC ランプ(ランプ 8、図 3)が点灯します。(図 3)



DTC を "OFF" に設定した場合、DWC も自動的に "OFF" に設定されます。



システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

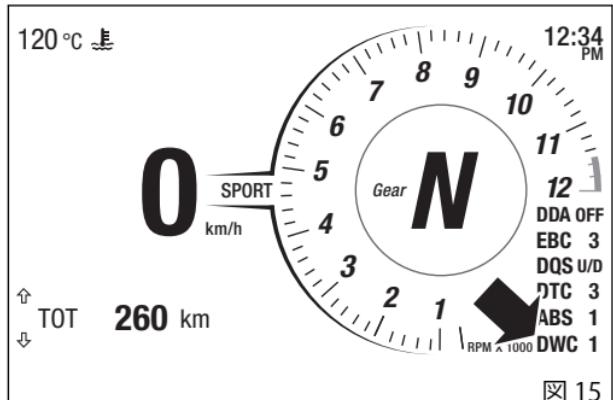


図 15



警告

DWC はライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や

道路交通法など各種規制範囲を超えたる、合理的に許容されるスピードを超えたるような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDWC介入レベルと、ユーザーが選択可能な"ライディングモード"のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DWC レベル	用途		DEFAULT
OFF		DWC システム解除	NO
1	HIGH PERFORMANCE	熟練ライダー向けストリートおよびサーキットでの使用。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	NO
2	PERFORMANCE	熟練ライダー向けストリートおよびサーキットでの使用。システムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には介入を行います。	ライディングモード "RACE" のデフォルトレベル
3	SPORTIVE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
4	SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	ライディングモード "STREET" のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項

!**警告**

選択可能な全レベルにおいて、標準装備の最終減速比および標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、DWCシステムの最適な動作が保証されるものです。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

DWCのレベル4を選択すると、システムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。レベル4からレベル1の順にDWCシステムの介入レベルが小さくなります。レベル1、2ではウィリーをしやすくなっていますが、同時にウィリー時の減速を行います。これらのレベルの使用は、自らウィリーを制御することができる熟練ライダーがサーキットで使用する場合にのみ推奨されます。その場合システムはウィリーの発生を助けるというよりも、ウィリーが発生する速度を抑えることでライダーを補助します。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- ライダーの経験

- レイアウト/行程(低速ギアでの立ち上がり、もしくは高速ギアでの立ち上がり)

ライダーの経験

使用的するレベルはウィリーを自ら制御するライダーの経験度と密接に関連しています。レベル1、2を適切に利用するためには熟練した技術が求められます。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に低速ギアで立ち上がる速度の低いカーブが存在する場合、より低いレベルを選択する必要があります。逆に高速サーキットなどではより高いレベルを選択することができます。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するため、最初の数周はレベル4に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを3、2と変えながら最適なDWCレベルに達するまで調整します(タイヤを温めるため、各レベルごとに数周します)。

一般道での使用時のアドバイス

DWCを起動した後、レベル4を選択し、好みのスタイルで運転します。DWCが介入しすぎると感じる場合は、レベルを3、2と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。

行程タイプが変化したため設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快

適なレベルに調整します(例：レベル2ではDWCが介入しすぎると感じる場合はレベル1に、レベル2ではDWCの介入が全くないと感じる場合はレベル3に変更します)。

ABS 表示

ABS の現在のレベルを表示します。

レベルは SETTING MENU 内のライディングモード機能からパーソナライズ可能です。

ABS が自己診断中は、ABS ランプ(ランプ 10、図 3)が点滅します。

ABS が機能制限モードである場合は、現在のレベルが点滅表示され、さらに ABS ランプ(ランプ 10、図 3)が点滅します。

ABS エラーの場合は、"Err" の文字が赤色で表示され、さらに ABS ランプ(ランプ 10、図 3)が点灯します。(図 3)



警告

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

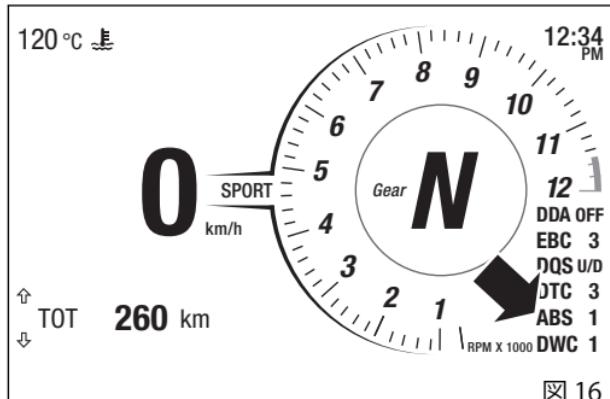


図 16

アンチロックブレーキシステム(ABS)は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮するために開発されたものです。

ABS は電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させることでホイールを回転させ続け、路面とのグリップを最適に維持します。

続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消さ

れるまで、このサイクルを繰り返します。ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗を感じられます。フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの制御は別々に行われます。

Panigale V2 が搭載する ABS は、設定レベルに応じた異なるストラテジーを適用して車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。ストラテジーのアクティブプレゼンスと介入レベルは選択レベルに準じます。ABS には3通りの介入レベルが用意されており、それぞれライディングモードと連動しています。

さらに、Panigale V2 が搭載する ABS は「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。コーナリング機能は全 ABS レベルで作動します。ABS 設定レベルに応じて、リアホイールのリフトアップ制御を有効にでき、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

ABS のレベル 1 では、システムはフロントブレーキディスクにのみ作用し、サーキット走行においてさらに高いパフォーマンスを保証します。

ABS のレベル 2 では、システムがフロントとリアの両方に作用し、さらに「ブレーキング時のスライド制御」が作動します。一定の起動条件下で、ライダーの

安全を最大限に確保しながらも、ABS システムは車両のヨーイングまたはスライドを可能にするリアの大幅なスリップを許可し、コーナーに高速で進入できるようになります。フロントブレーキを激しくかけている時に、リアブレーキも操作した場合にこのコントロールが作動します。このシステムの作動中、リーンアングルに応じて安全なレベル内に維持するため、ABS は車両のスリップまたはスライドレベルを監視します。車両のスリップまたはスライドレベルが高くなりすぎると、ABS は通常機能に戻り車両を再調整して安全を確保します。

! 警告

2つあるブレーキコマンドの片方だけを使用すると、車両のブレーキ性能が低下します。

2つあるブレーキコマンドの片方だけを使用すると、車両のブレーキ性能は一部しか発揮されません。

急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。後輪が浮き上がり(リフトアップ)、車両のコントロールを失うおそれがあります。

雨天時や滑りやすい路面の走行時はブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に

下記の表は、各ライディングタイプに適したABSレベルと、ユーザーが選択可能な "ライディングモード" のどれにデフォルト設定されているかを示します。

レベル	スタイル	用途	DEFAULT
1	TRACK	このレベルは上級ライダー向けサーキット走行専用に設定されています。 このモードでは、ABSはフロントホイールにのみ作用し、リアホイールのロックは許容されます。リフトアップ制御およびコーナリング機能は作動しません。	-

優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

2	SPORT	<p>このレベルはグリップの良い路面での走行用に設計されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用します。コーナリング機能が作動しますが、リフトアップ制御機能は作動しません。</p> <p>このキャリブレーションにおいてはブレーキ力が優先され、同時に高い安定性を確保します。</p> <p>このレベルでは「ブレーキング時のスライド制御」も作動します。</p>	ライディングモード RACEのデフォルトレベル
3	ALL/ URBAN/WET CONDITION	<p>このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、安全かつ安定したブレーキングを可能にするよう設定されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用し、コーナリング機能およびリフトアップ制御機能が作動します。</p>	ライディングモード SPORT、STREETの デフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項

選択可能な全レベルにおいて、標準装備のブレーキシステムおよび標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、ABSシステムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ：

フロント 120/70 ZR17 M/C (58W) - リア 180/60 ZR17 M/C (75W) TL Pirelli Diablo Rosso II。

標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

レベル3を選択すると、ABSシステムは非常に安定したブレーキングとリフトアップ制御を行い、コーナリング機能によりカーブ走行時を含むあらゆるブレーキングにおいて高い車体安定性を維持します。

レベル2を選択すると、ABSシステムはより制動力を優先させ、同時に最適な安定性を確保します。レベル2ではABSコーナリング機能が作動します。また、レベル2では「ブレーキング時のスライド制御」機能が作動します(このレベルでのみ利用できます)。

ABSシステムのレベル1は熟練ライダー向けに開発されています。このレベルでは制動力が最も重視され、安定性とリフトアップ制御は損なわれます。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- 1) タイヤ/路面のグリップ(タイヤタイプ、タイヤの磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
- 2) ライダーの経験と感覚：熟練ライダーは制動距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには、急なブレーキングでも車体の安定性が維持できるようレベル3の使用が推奨されます。

DTC表示

DTCの現在のレベルを表示します。

レベルはSETTING MENU内のライディングモード機能からパーソナライズ可能です。

DTCが機能制限モードである場合は点滅表示され、さらにDTC/DWCランプ(ランプ8、図3)が点灯します。DTCエラーの場合は、"Err"の文字が赤色で表示され、さらにDTC/DWCランプ(ランプ8、図3)が点灯します。

DTCを"OFF"に設定すると、DWCも自動的に"OFF"に設定され、DTC/DWCランプ(ランプ8、図3)が点灯します。(図3)

!**警告**

システム異常の場合には、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

ドゥカティトラクションコントロール(DTC)はリアホイールのスリップ制御を行い、8つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル8はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用サーキット走行向けのレベル1は許容

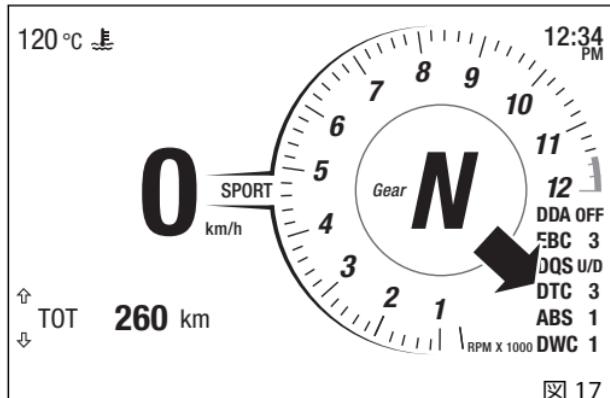


図 17

値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

!**警告**

DTCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時、サーキット走行時のどちらでも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えていたり、合理的に許容されるスピードを超えていたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDTC介入レベルと、ユーザーが選択可能な "ライディングモード" のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC レベル	ライディングタイプ	機能の特徴	DEFAULT
OFF		DTC システムは解除されています。	NO
1	TRACK プロフェッショナル	このレベルは熟練した上級ライダー向けサーキット走行専用に設定されています。 このモードにおいて DTC はスリップを許容します。	NO
2	TRACK	このレベルは熟練した上級ライダー向けサーキット走行専用に設定されています。 このモードにおいて DTC はスリップを許容します。	NO
3	TRACK	このレベルは上級ライダー向けサーキット走行用に設定されています。 このモードにおいて DTC はスリップを許容します。	ライディングモード "RACE" のデフォルトレベル
4	ROAD	このレベルは、ストリートおよびサーキット走行用に設定されています。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
5	ROAD	このレベルは、ストリートおよびサーキット走行用に設定されています。	

6	SAFE & STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、グリップの良好なストリート走行用に設定されています。	ライディングモード "STREET" のデフォルトレベル
7	RAIN	このレベルは濡れた路面でレインタイヤを装着するサーキット走行専用に設定されています。	NO
8	HEAVY RAIN	このレベルは濡れたアスファルトや滑りやすい路面でのストリート走行用に設定されています。 このレベルが最善に機能するためには、ENGINE LOW を使用してください。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

!**警告**

選択可能な全レベルにおいて、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着し、標準装備の最終減速比を装備している場合においてのみ、DTCシステムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Diablo Rosso Corsa II のサイズ：フロント 120/70ZR17、リア 180/60ZR17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低下することがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

最終減速比に関して、標準装備とは異なるギア比を使用する場合(サーキット走行においてのみ可)、システムを最適に動作させるために所定の自動調整機能を使用することが推奨されます。

レベル8を選択すると、DTCはリアタイヤのわずかなスピンにも介入します。レベル8とレベル1の間には、

その他に6つのレベルが存在します。DTCの介入度はレベル8から1に向かい減少します。

特徴の異なるタイヤでこのレベルを使用すると、システムの機能特性が異なることがあります。正しいレベルの選択は、3つの観点から行います。

- 1) グリップ(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
- 2) レイアウト/行程(同じような、または全く異なるスピードでのカーブ)
- 3) ライディングスタイル(より"スムーズ"に、またはより"シャープ"に)

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています(後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照)。グリップが弱い場合には、DTCが確実に介入するより高いレベルを使用する必要があります。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる介入レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当なDTC介入レベルが必要になります。

ライディングスタイルからのレベル選択

カーブ出口で早めに車体を起こし "シャープ" に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して "スムーズ" に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、タイヤを温める間の数周はレベル 6 に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを 6、5、4 と変えながら最適な DTC レベルに達するまで調整します。

過度な介入が起こる 1 つか 2 つの緩いカーブを除けば 納得のいくレベルである場合、直ぐに介入レベルの変更を考える前に、緩いカーブ出口で早めに車体を起こすようにし、少し "シャープ" なライディングスタイルで走行してみてください。

一般道での使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、レベル 8 に設定することをお勧めします。DTC が介入しすぎると感じる場合には、レベルを 5、4 と変えながら、最適なレベルに達するまで調整します。

グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更してもまだ設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します(例: レベル 5 では DTC が介入しすぎる

と感じる場合はレベル 4 に、レベル 5 では DTC の介入が全くないと感じる場合はレベル 6 に変更します)。

DQS 表示

DQS の現在のレベルを表示します。

レベルは SETTING MENU 内のライディングモード機能からパーソナライズ可能です。

DQS システムが性能制限モードにある場合は、点滅して通知されます。

DQS システムが解除されている場合は、“Off” の文字が表示されます。

エラーの場合は、レベルの代わりに “Err” の文字が赤色で表示されます。

UP/DOWN 機能を備える DQS システムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。

ペダルの作動機構に内蔵された双方向マイクロスイッチからなり成り、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。

システムは、ギアチェンジとシフトダウンで別々に作用します。

DQS 機能を最大限に活用するためのヒント：

- ドゥカティクイックシフトでは、このシステムを搭載しない車両と同様にギアチェンジペダルの操作を必要とします。

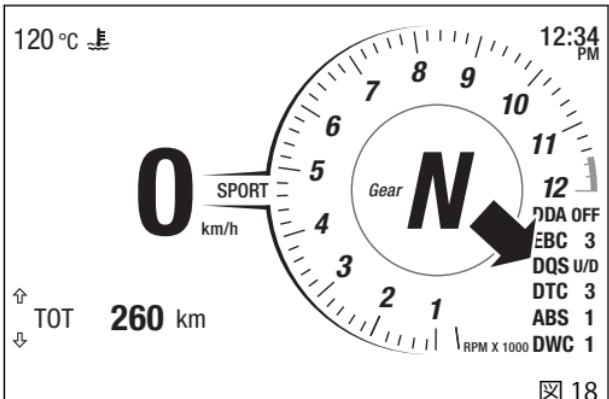


図 18

ドゥカティクイックシフトはギアチェンジを自動で行うためのシステムではありません。

ギアをチェンジする時（シフトアップまたはシフトダウン）は、ギアチェンジペダルを停止している位置からシフトしたい方向に動かしてください。その際、スプリングの反発力に抵抗してペダルを一定距離動かし、ギアが完全に締結されるまでその位置を維持してください。ギアチェンジが完了したら、ドゥカティクイックシフトで次のギアチェンジができるようにペダルを完全に放してください。ドゥカティクイックシフトのリクエスト時にギアチェンジペダルをストロークエンドま

で確実に動かさないと、ギアが完全に入らない場合があります。

- クラッチレバーを操作する場合には、ドゥカティクイックシフトのアシストは作動しません。クラッチレバーを引いたとき、ドゥカティクイックシフトは起動しません。
- スロットルが完全に閉じている場合にのみ、ドゥカティクイックシフトはシフトダウンを実行します。
- 万ードゥカティクイックシフトのストラテジーが作動しない場合でも、クラッチレバーを操作してギアチェンジを完了することができます。
- ギアチェンジペダルを上下さいどれかの方向に 131 秒以上押し続けると(誤って操作した場合でも)、不正なエラーとしてコントロールユニットに記録され、ドゥカティクイックシフトの機能が停止することがあります。こうした場合にシステムを再起動するには、ペダルを放してインストルメントパネルを一旦切り、5 秒待ってからもう一度起動してください。
- ドゥカティクイックシフトは、エンジン回転数 2,500 rpm 以上で作動するように設計されています。
- ドゥカティクイックシフトを使ったシフトダウン機能は、すべてのギアにおいて定義された回転数の限界値以下ののみ作動します。これは、シフト

ダウンした時にエンジンの最高回転数を超えてしまうのを防ぐためです。

EBC 表示

EBCの現在のレベルを表示します。

レベルはSETTING MENU内のライディングモード機能からパーソナライズ可能です。

エラーの場合は、レベルの代わりに"Err"の文字が赤色で表示されます。

エンジンブレーキコントロール(EBC)は走行中アクセルが完全に閉じた時に掛かるエンジンブレーキ制御を行います(ブレーキを掛けているかいないかに関わらず、シフトダウン時やギアは変えずにアクセルだけを戻した時)。このシステムは独立してスロットルバルブを調整し、走行中のホイールからエンジンへのバックトルクを一定に保ちます。

このエンジンブレーキ調整システムでは、エンジンブレーキが最大になるレベル1設定から、レベルを上げるごとにエンジンブレーキが徐々に軽減します。

システムの影響はエンジンの高回転域で特に顕著で、回転数が下がっていくにつれ徐々に小さくなっています。

ライディングモードのEBC介入表：

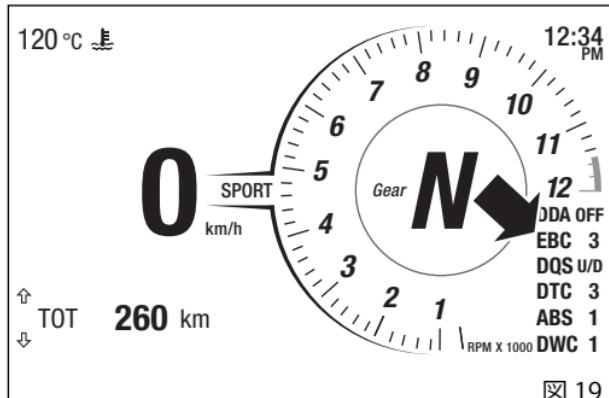


図 19



警告

EBCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

EBC	特徴	DEFAULT
1	このレベルではエンジンブレーキは最大になります。	ライディングモード RACE、SPORT、STREETのデフォルトレベル
2	このレベルではエンジンブレーキは小さくなります。 このレベルは、減速時のエンジンブレーキを小さくしたいライダーに適します。	NO
3	このレベルではエンジンブレーキは最小になります。 このレベルは、減速時のエンジンブレーキを最小限に抑えたいライダーに適します。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

選択可能な全レベルにおいて、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着し、標準装備の最終減速比を装備している場合においてのみ、EBCシステムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Diablo Supercorsa SP V3のサイズ：フロント 120/70ZR17、リア 200/55 200/60ZR17になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

最終減速比に関して、標準装備とは異なるギア比を使用する場合(サーキット走行においてのみ可)、システムを最適に動作させるために所定の自動調整機能を使用することが推奨されます。

レベル3を選択すると、EBCはエンジンブレーキの機能を最小限に抑えます。レベル3からレベル1の順にエンジンブレーキレベルが大きくなります。レベル1でエンジンブレーキレベルは最大になります。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- 1) グリップ(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
- 2) レイアウト/行程(類似カーブのみ、またはカーブが全く異なる)
- 3) ライディングスタイル

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています。

レイアウトタイプからのレベル選択

同じようなブレーキングで走行できるレイアウト/行程の場合(すべて非常に激しい、またはすべて非常に緩やか)、それぞれのブレーキングで満足できる干渉レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なブレーキングがレイアウト/行程にある場合、EBCシステムの妥当な介入レベルが必要になります。

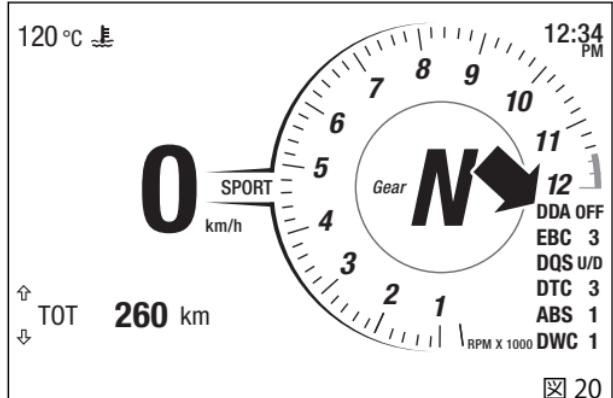
DDA 表示

DDA の現在のステータスを表示します。

SETTING MENU 内の DDA 機能から、ステータスの変更と記録データの管理が可能です。

参考

DDA が車両に搭載されている場合にのみ、この表示を利用できます。



機能メニュー

ブラウズボタンを使用して、メイン画面にメニュー内の機能をスクロール表示することができます。

選択可能な設定は、

- TOT - オドメーター
- TRIP 1 - トリップメーター 1
- CONS. AVG 1 - 平均燃費
- SPEED AVG 1 - 平均スピード
- TRIP TIME 1 - トリップタイム
- T AIR - 外気温
- TRIP FUEL - 燃料リザーブトリップメーター
- TRIP 2 - トリップメーター 2
- CONS. - 瞬間燃費
- PLAYER (OFF / ON) - 音楽プレーヤー操作 –
Bluetooth モジュール(アクセサリー)が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ
- LAST CALLS - Bluetooth モジュール(アクセサリー)が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ
- HEATING GRIPS - ヒーテッドグリップ、搭載されている場合のみ(アクセサリー)
- SETTING MENU

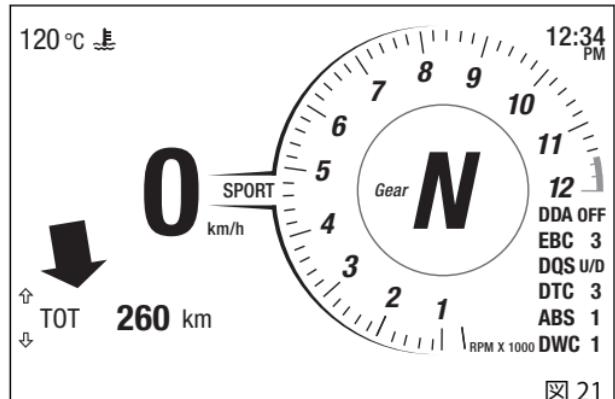


図 21

はブラウズボタンに相当します。丸印 ○ の表示は、ENTER ボタンを押して表示された機能を操作できることを示します。例えばトリップメーター TRIP 1 のリセットです。

各種機能がスクロール表示できる時は、メニューの左側に UP ↑ および DOWN ↓ 矢印が現れます。矢印

TOT

オドメーターは、設定されている単位(キロメートルまたはマイル)で車両の総走行距離を表示します。オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。

参考

オドメーター機能で点線"-----"が点滅表示される場合は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

参考

インストルメントパネルを起動すると、この機能が10秒間表示され、その後インストルメントパネル停止前に設定されていた機能に戻ります。

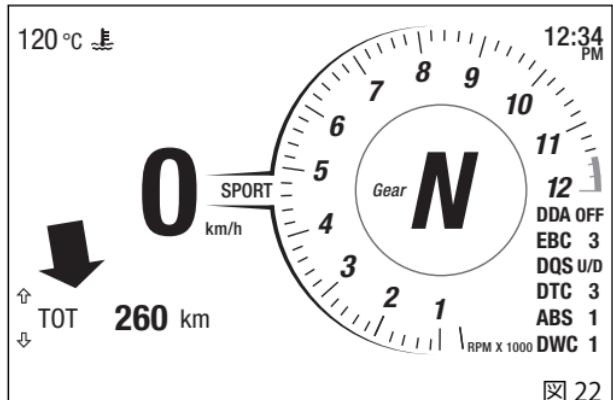


図 22

TRIP 1

TRIP 1 機能は、車両の部分走行距離を表示します。データが最大値 9999.9 を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再び 0.0 からカウントを始めます。

機能のリセット：

- ブラウズボタンを押して “TRIP 1” を表示します。
- ENTER ボタンを押します。
- カウンターの代わりに “RESET?” (リセットしますか) の文字が表示されます。
- UP ボタンまたは DOWN ボタンを押してキャンセルか、ENTER ボタンを押して決定します。

以下のような場合は自動的にリセットされます。

- CONS. AVG 1 機能をリセットした場合。
- SPEED AVG 1 機能をリセットした場合。
- TRIP TIME 1 機能をリセットした場合。
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)。
- SETTING MENU からシステムの測定単位を手動で変更した場合。



参考

TRIP 1 機能をリセットすると、CONS. AVG 1、SPEED AVG 1、TRIP TIME 1 の各機能もリセットされます。

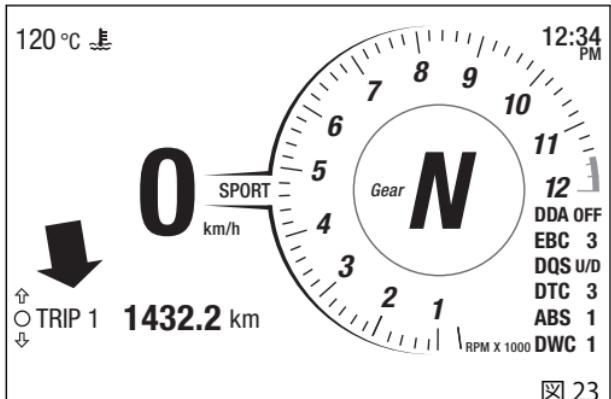


図 23

CONS. AVG 1

CONS. AVG 1 機能は、最後に機能がリセットされてから計算された車両の平均燃費を表示します。
データは設定された単位(km/L、L/100km、mpg UK、mpg US)で表示されます)。

機能のリセット：

- ブラウズボタンを押して“CONS. AVG 1”を表示します。
- ENTER ボタンを押します。
- カウンターの代わりに“RESET?”(リセットしますか)の文字が表示されます。
- ENTER ボタンを押して決定するか、UP ボタンまたは DOWN ボタンを押してキャンセルします。

以下のような場合は自動的にリセットされます。

- TRIP 1 機能をリセットした場合。
- SPEED AVG 1 機能をリセットした場合。
- TRIP TIME 1 機能をリセットした場合。
- 電源供給が中断された時(Battery Off)。
- SETTING MENU からシステムの測定単位を手動で変更した場合。

参考

CONS. AVG 1 機能をリセットすると、TRIP 1、SPEED AVG 1、TRIP TIME 1 の各機能もリセットされます。

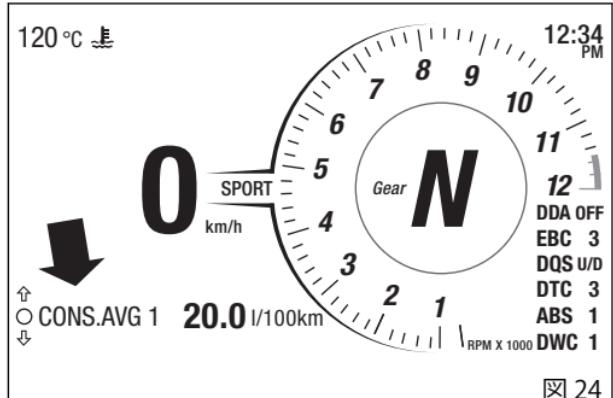


図 24



参考

平均燃費は、停車中でもエンジンがかかっている時間は計算されます。

SPEED AVG 1

SPEED AVG 1 機能は、最後に機能がリセットされてから計算された車両の平均スピードを表示します。

機能のリセット：

- ブラウズボタンを押して“SPEED AVG 1”を表示します。
- ENTER ボタンを押します。
- カウンターの代わりに“RESET?”(リセットしますか)の文字が表示されます。
- ENTER ボタンを押して決定するか、UP ボタンまたは DOWN ボタンを押してキャンセルします。

以下のような場合は自動的にリセットされます。

- TRIP 1 機能をリセットした場合。
- CONS. AVG 1 機能をリセットした場合。
- TRIP TIME 1 機能をリセットした場合。
- 電源供給が中断された時(Battery Off)。
- SETTING MENU からシステムの測定単位を手動で変更した場合。

参考

SPEED AVG 1 機能をリセットすると、TRIP 1、CONS. AVG 1、TRIP TIME 1 の各機能もリセットされます。

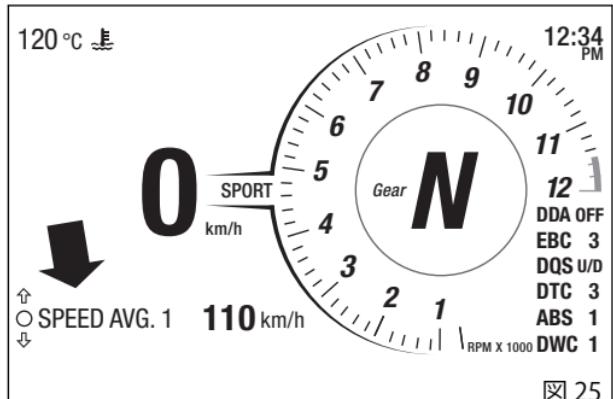


図 25



参考

平均スピードのリセット後10秒間は、3本の点線“---”が表示されます。

TRIP TIME 1

TRIP TIME 1 機能は、最後に機能がリセットされてから計算された車両の走行時間(時:分)を表示します。データが最大値 511:00 を超えると、カウンターは自動的にリセットされます。

機能のリセット：

- ブラウズボタンを押して“TRIP TIME 1”を表示します。
- ENTER ボタンを押します。
- カウンターの代わりに“RESET?”(リセットしますか)の文字が表示されます。
- ENTER ボタンを押して決定するか、UP ボタンまたは DOWN ボタンを押してキャンセルします。

以下のような場合には、TRIP TIME 1 のデータが自動的にリセットされます。

- TRIP 1 機能をリセットした場合。
- CONS. AVG 1 機能をリセットした場合。
- SPEED AVG 1 機能をリセットした場合。
- 電源供給が中断された時(Battery Off)。
- SETTING MENU からシステムの測定単位を手動で変更した場合。

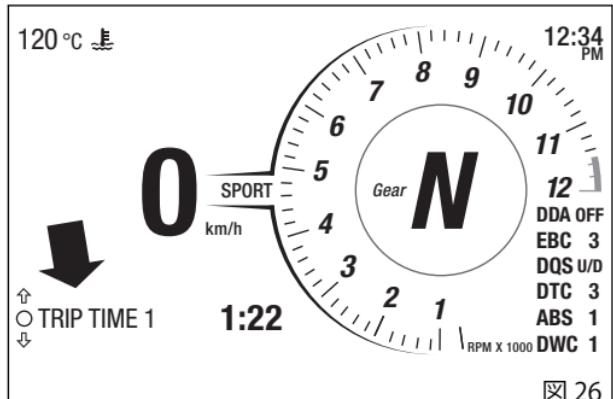


図 26



参考

TRIP TIME 1 機能をリセットすると、TRIP 1、CONS. AVG 1、SPEED AVG 1 の各機能もリセットされます。



参考

停車中でもエンジンがかかっている時間は、走行時間として計算されます。

T AIR

T AIR 機能は外気温度(°C または °F)を表示します。
単位は SETTING MENU から変更できます。

温度データは -39 °C ~ +124 °C (-38 °F ~ +255 °F)
の間で表示されます。

温度が -39 °C (-38 °F) 未満あるいは +125 °C
(+255 °F) を超える場合には点線 "---" が表示されま
す。



参考

エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響
を与える場合があります。

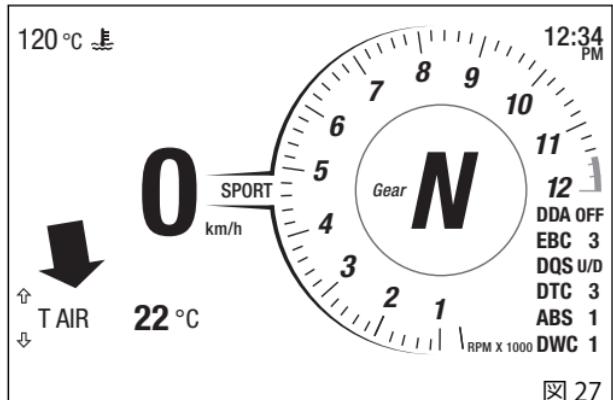


図 27

TRIP FUEL

TRIP FUEL 機能は、車両がリザーブ走行に入ると有効になり、燃料リザーブランプ点灯時点からの走行距離を表示します。

リザーブ走行状態でなくなると、この機能は停止します。

以下のような場合には、リザーブ走行距離データがリセットされます。

- データが最大値(9999.9)を超えた場合。
- SETTING MENU から単位を変更した場合。
- バッテリー接続を切り離した場合。

参考

車両がリザーブ走行に入ると、その時点で表示されている機能に関係なく、TRIP FUEL 機能が自動的に表示されます。

ただし、ブラウズボタンを使用して、別の機能もスクロール表示することはできます。

参考

SETTING MENU 内にいる場合や PIN Code を入力して車両のロック解除を行っている場合は、TRIP FUEL 機能は表示されません。

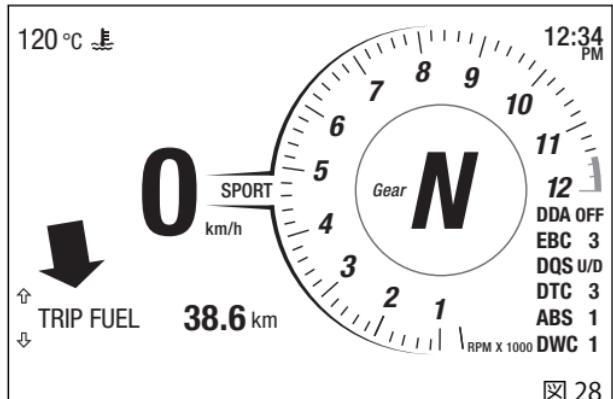


図 28

参考

TRIP FUEL 機能の表示中にリザーブ走行が終了すると、インストルメントパネルは TOT 機能の表示に戻ります。

TRIP 2

TRIP 2 機能は、車両の部分走行距離を表示します。データが最大値 9999.9 を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再び 0.0 からカウントを始めます。

カウンターのリセット：

- ブラウズボタンを押して “TRIP 2” を表示します。
- ENTER ボタンを押します。
- カウンターの代わりに “RESET?” (リセットしますか) の文字が表示されます。
- ENTER ボタンを押して決定するか、UP ボタンまたは DOWN ボタンを押してキャンセルします。

以下のような場合には、TRIP 2 カウンターが自動的にリセットされます。

- 電源供給が中断された時 (Battery Off)。
- SETTING MENU からシステムの測定単位を手動で変更した場合。

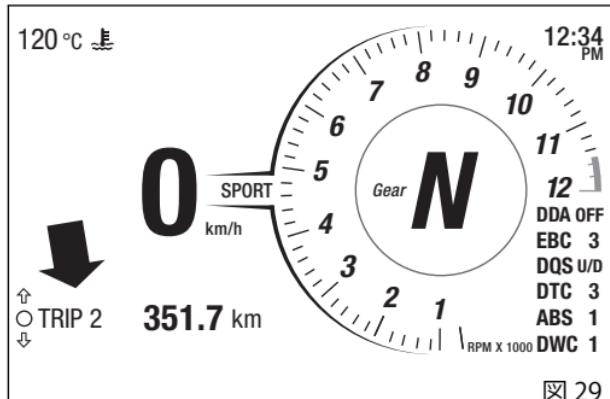


図 29

CONS.

CONS. 機能は瞬間燃費を表示します。

データは設定された単位(km/L、L/100 km、mpg UK、mpg US)で表示されます)。

参考

瞬間燃費は、車両が起動し、動いている場合にのみ計算されます。

瞬間燃費が算出されない場合は、3本の点線"---"がデータの代わりに表示されます。

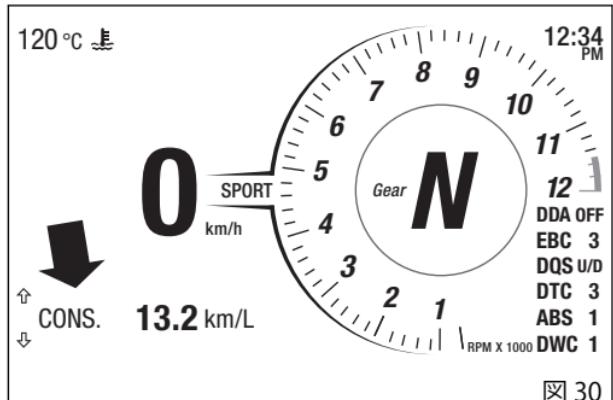


図 30

PLAYER (OFF / ON)

この機能は音楽プレーヤー操作を有効、無効にします。

Bluetoothコントロールユニットを搭載し、スマートフォンが接続されている場合にのみ利用できます。機能を“OFF”または“ON”に設定します。

!**重要**

インストルメントパネルに Bluetooth 接続しているスマートフォンの接続を解除するか電源を切ると、この機能はリスト内に表示されなくなります。スマートフォンがインストルメントパネルに Bluetooth 接続された時に、再び表示されます。

!**参考**

スマートフォンの他にライダーヘルメットインターフォンが接続されている場合は、音楽はヘルメットのイヤホンを通して再生されます。

!**参考**

LAP 機能が起動している時に音楽プレーヤーを起動(PLAYER ON)すると、LAP 機能が OFF モードに設定され中断されます。

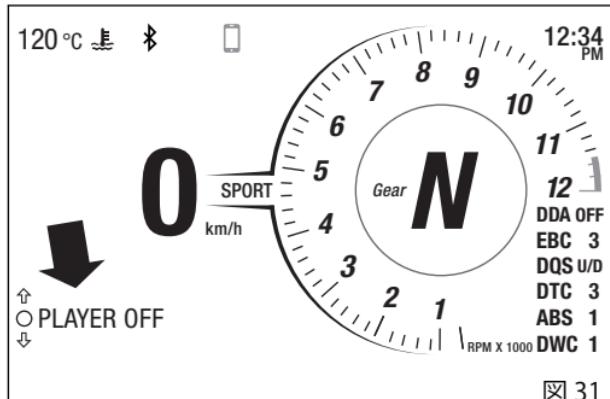


図 31

!**参考**

音楽プレーヤーが起動(PLAYER ON)し、スマートフォンから曲を再生している時に LAP 機能を起動すると、曲の再生が中断され、機能が停止(PLAYER OFF)します。

音楽プレーヤー操作の起動

音楽プレーヤー操作が“OFF”に設定されている場合(図31)、ENTERボタンを押すとプレーヤー操作が起動します。

音楽プレーヤー操作が起動中は、接続しているスマートフォンで再生中の曲のタイトル(A)、可能な操作(B)、“EXIT”的表示とその前に下向きの黒色矢印(C)がディスプレイに表示されます。

参考

完全な曲名は一度だけ右から左にスクロールで表示され、その後は曲名の最初の数文字だけが表示されます。曲タイトルが利用できない場合は、“NOT AVAILABLE”的文字が表示されます。

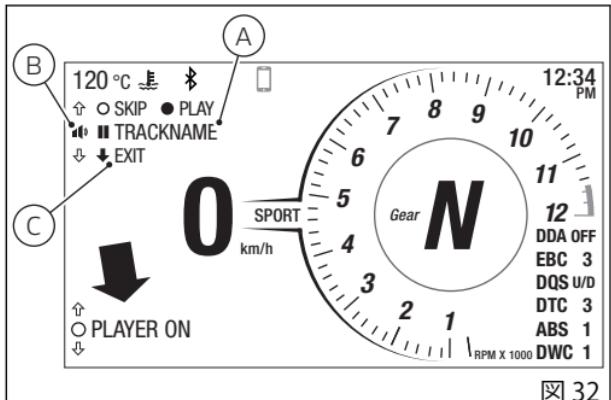
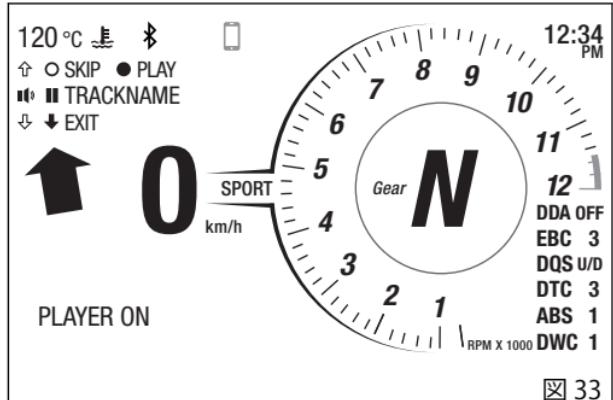


図32

音楽プレーヤー操作

操作が起動している時、UP ボタン、DOWN ボタン、ENTER ボタンは音楽プレーヤー操作専用ボタンになります。具体的には：

- Play / Pausa (再生 / 一時停止) : ENTER ボタンを 2 秒間押し続けます。
- 次の曲に "SKIP" (スキップ) : ENTER ボタンを押します。
- 音量を上げる "+" : UP ボタンを押します。
- 音量を下げる "-" : DOWN ボタンを押します。
- 音楽プレーヤー操作から出る : DOWN ボタンを 2 秒間押しします。



起動中の音楽プレーヤー操作から出る(ON)
曲の再生中など音楽プレーヤーを起動したままプレーヤー操作から出るには(図33)、DOWNボタンを2秒間押します。

これにより、UPボタン、DOWNボタン、ENTERボタンの機能が音楽プレーヤー操作ではなく、通常のインストルメントパネル操作に戻ります。

機能を起動すると、メニュー内に“PLAYER ON”的表示が現れます。再生中の曲名の下には、黒色の上向き矢印と“PLAYER CONTROL”的文字が表示されます(図34)。



プレーヤーの起動中であれば、機能を変更しても(例:TRIP 1)、再生中の曲名はディスプレイに表示され続けます。

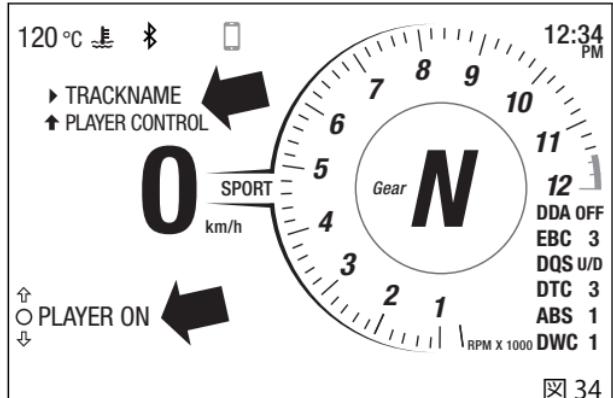


図34

音楽プレーヤー操作に戻る(ON)

音楽プレーヤー操作に戻るには、PLAYER ON機能を表示し(図34)、UPボタンを2秒間押してください。

UP、DOWN、ENTERボタンの機能が、音楽プレーヤー操作に戻ります(図33)。

音楽プレーヤー操作の停止

曲の再生を中止して音楽プレーヤーを停止するには、
PLAYER ON 機能を選択し(図 34)、ENTER ボタンを押
します。

機能は“PLAYER OFF”表示になります(図 31)。

LAST CALLS

この機能は不在着信、発信、着信の履歴を表示します。Bluetoothコントロールユニットを搭載し、スマートフォンが接続されている場合にのみ利用できます。

ENTERボタンを押して履歴一覧を表示します(図35)。この機能に入ると、ディスプレイに“WAIT..”の文字が数秒間表示され、続いて最後の通話相手の名前と番号が表示されます(図36)。

発信、受信、不在着信の履歴は最大7件まで表示されます。

ブラウズボタンを使用して、履歴一覧をスクロールすることができます。一覧から選択した電話番号/名前に発信するには、ENTERボタンを押します。詳しくは“インフォテインメント”の章を参照してください。通話履歴が何もない場合は、ディスプレイに“EMPTY”的文字が表示されます。この場合には機能の終了だけが可能です。

機能を終了して前の画面に戻るには、DOWNボタンを2秒間押します。

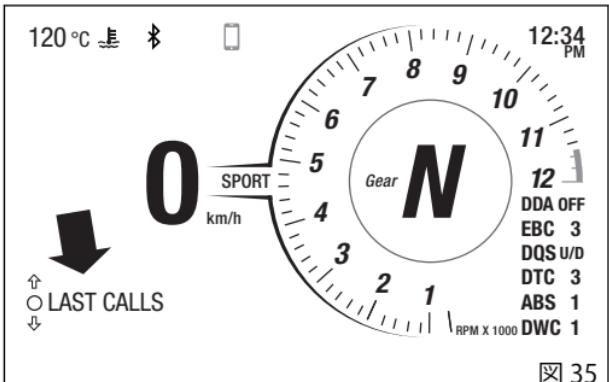


図35

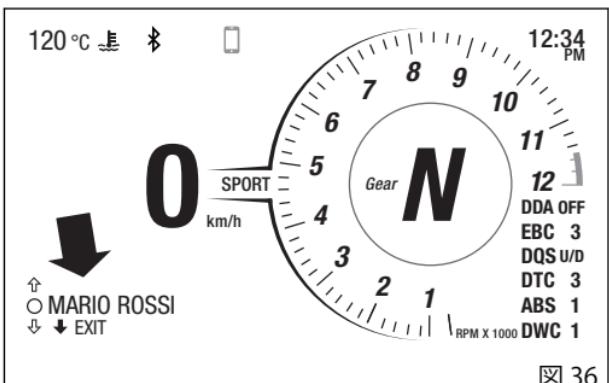


図36

HEATING GRIPS

ヒーテッドグリップを装備している場合にのみ表示され、ヒーテッドグリップの調整が可能です。

レベルの設定：

- ブラウズボタンを押して“HEATING GRIPS”を表示します(図37)。
- ENTERボタンを押します。
- 現在のレベルが表示されます(図38)。ブラウズボタンを使用して、設定可能なレベル(OFF、LOW、MEDIUM、HIGH)をスクロールできます。
- ENTERボタンを押して新しいレベルを決定するか、DOWNボタンを数秒間長押ししてキャンセルします。

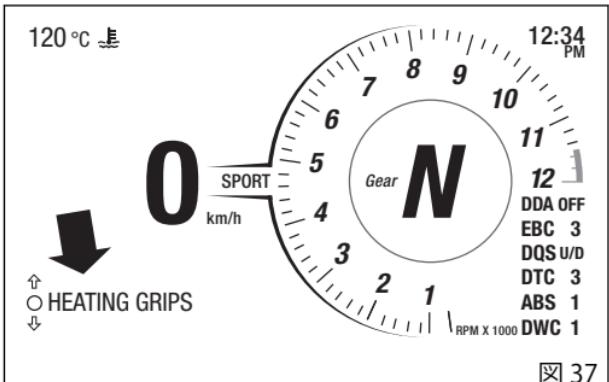


図37

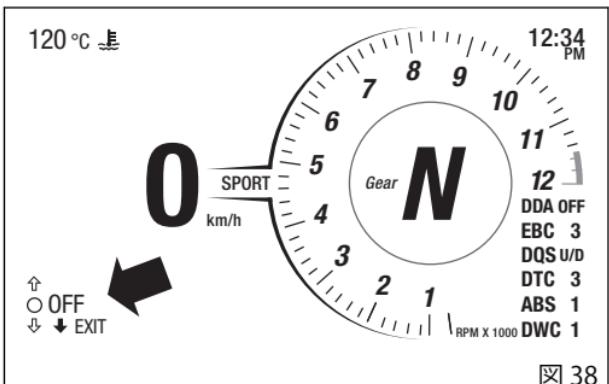


図38

"OFF"以外のレベルを選択した場合は、メイン画面にヒーテッドグリップのマークが現れます。このマークが点灯すると、ヒーテッドグリップの加熱準備ができる事を示します。

ヒーテッドグリップが実際に作動する(加熱される)のは、エンジン稼働中に一定の回転数が維持されている場合のみです。

ヒーテッドグリップが実際に作動すると、設定されているレベルに対応する色にアイコンの色が変わります。

- LOW = 緑
- MEDIUM = オレンジ
- HIGH = 赤

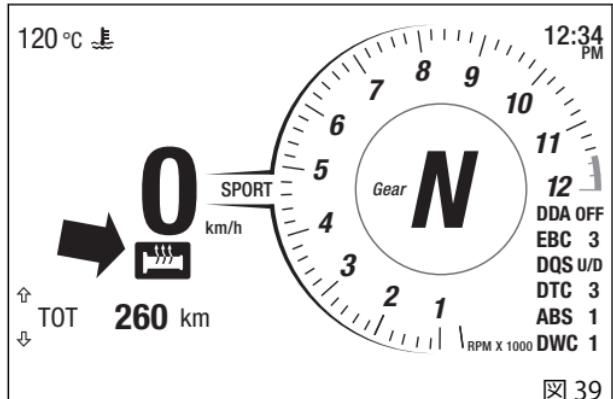


図 39

SETTING MENU

このメニューではいくつかの車両機能の ON/OFF および設定を行います。

安全上の理由により、車両の実速度が 5 km/h (3 mph) 以下の場合に限り、このメニューに入ることができます。

SETTING MENU が表示されている時に車両速度が 5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは自動的にメイン画面表示に戻ります。

メニューに入るには、ブラウズボタンで "SETTING MENU" を選択し、ENTER ボタンを押します。



重要

安全のために、このメニューは車両が停止している状態で使用してください。

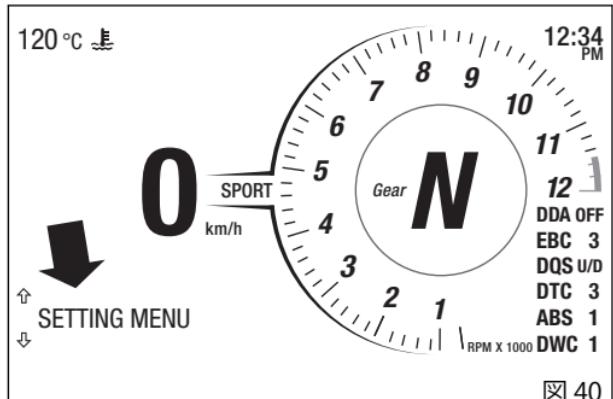


図 40

SETTING MENUに入ると、ディスプレイの表示モードが変わります。

メニューには以下の機能が表示されます。

- Riding Mode
- Pin Code
- Lap
- Backlight
- Date and Clock
- Units
- Service
- Tire Calibration
- DRL Control – DRL を搭載している場合のみ
- Bluetooth – Bluetooth モジュールを搭載している場合のみ
- DDA – DDA が接続されている場合のみ
- Turn indicators
- Info

ブラウズボタンを使用して、これらの機能をスクロールすることができます。

目的の機能を表示してから、ENTERボタンを押してサブメニューを表示します。

サブメニューを終了するには、"Back" を選択してENTERボタンを押します。

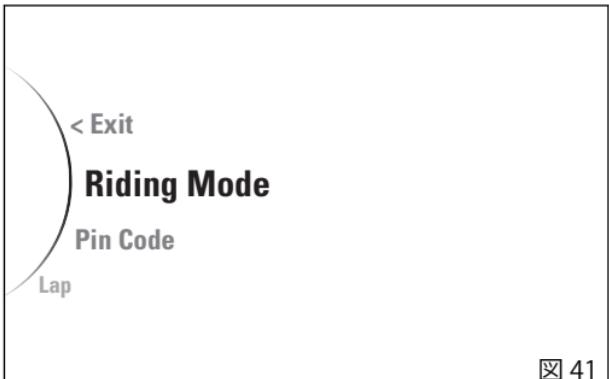


図 41

SETTING MENU を終了するには、"EXIT" を選択してENTERボタンを押してください。

SETTING MENU - Riding Mode

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- メニュー内には次の項目が表示されます。
"Race"、"Sport"、"Street"、"All Default" (いずれかのライディングモードのひとつ以上のパラメータが初期設定値と異なる場合のみ表示されます)
- 目的の項目を選択し、ENTER ボタンを押します。

各ライディングモードで以下のパラメーターをパーソナライズすることができます。Engine、DTC、ABS、DWC、EBC、DQS。

設定値は、車両をオフにした後も保持されます。



警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、"Default" 機能を使用してパラメーターを修復してください。

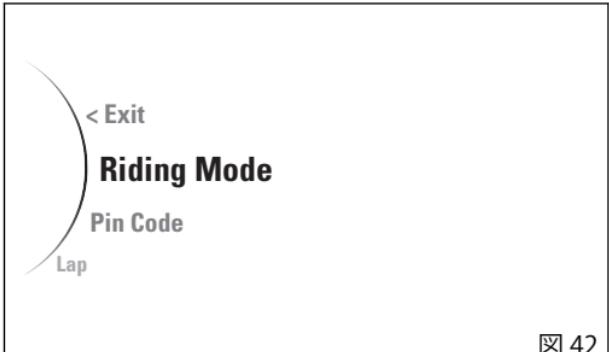


図 42

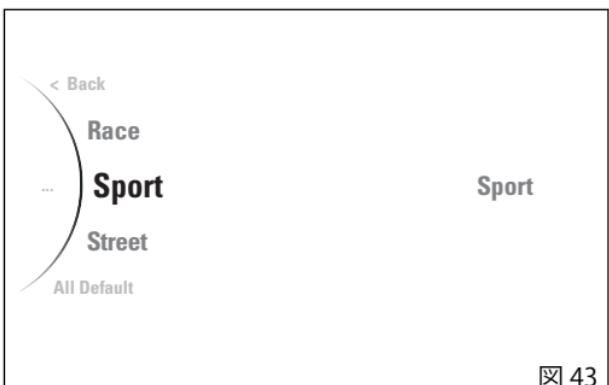


図 43

SETTING MENU - Riding Mode - Engine

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Engine" を選択し、ENTER ボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な項目 "High"、"Medium"、"Low" が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます。

さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。

ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

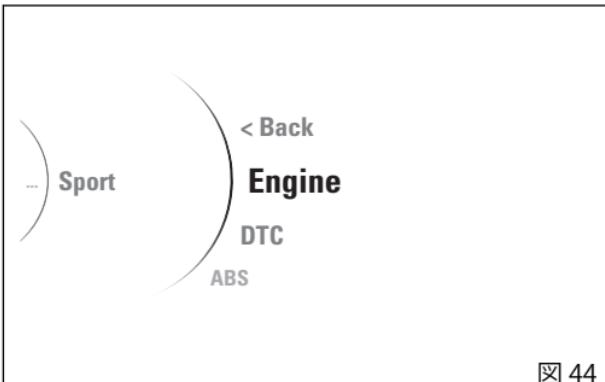


図 44

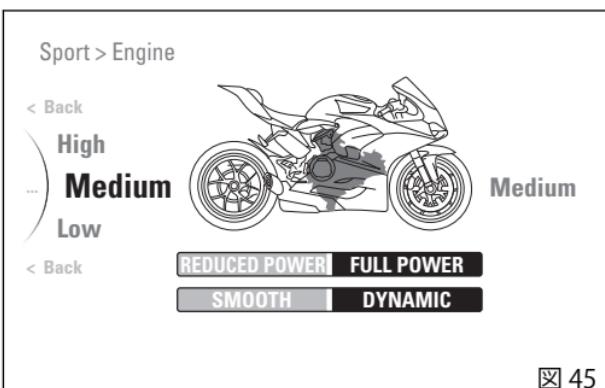


図 45

SETTING MENU - Riding Mode - DTC

この機能では一つのライディングモードのDTCシステム介入レベルの設定、またはシステムの解除を行うことができます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTERボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTERボタンを押します。
- "DTC" を選択し、ENTERボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定(レベル "1"~"8"、"Off")が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます。

さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。

ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTERボタンを押して決定します。

参考

DTCを "Off" に設定すると、DWCも自動的に "Off" に設定されます。

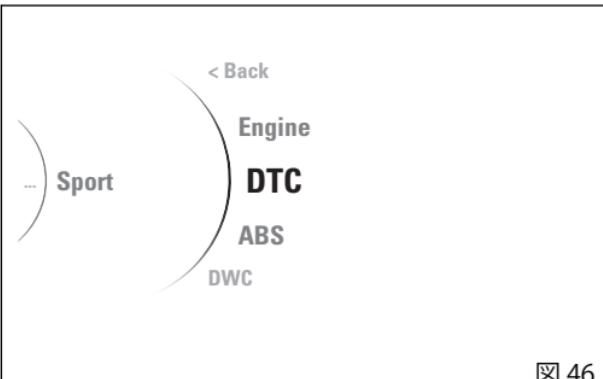


図 46

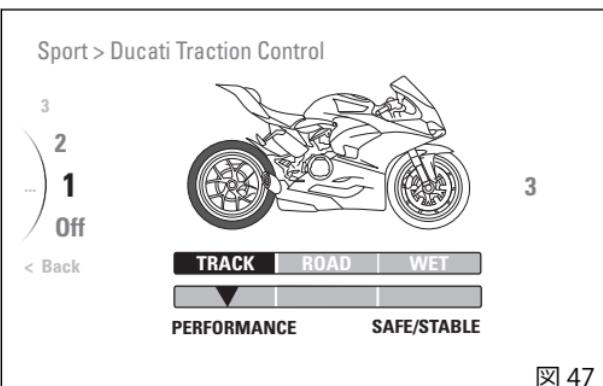


図 47

SETTING MENU - Riding Mode - ABS

この機能では一つのライディングモードのABSシステム介入レベルの設定を行うことができます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTERボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTERボタンを押します。
- "ABS" を選択し、ENTERボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定(レベル“1”～“3”)が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます。

さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。

ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTERボタンを押して決定します。

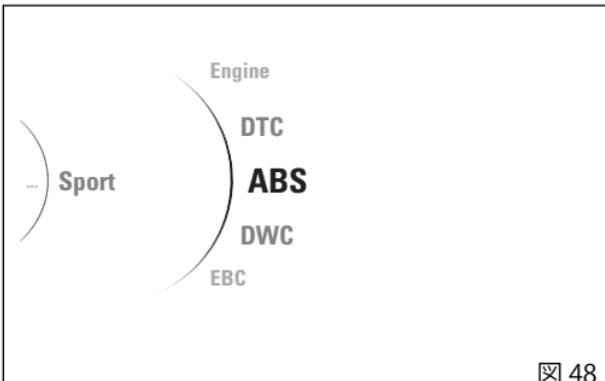


図 48

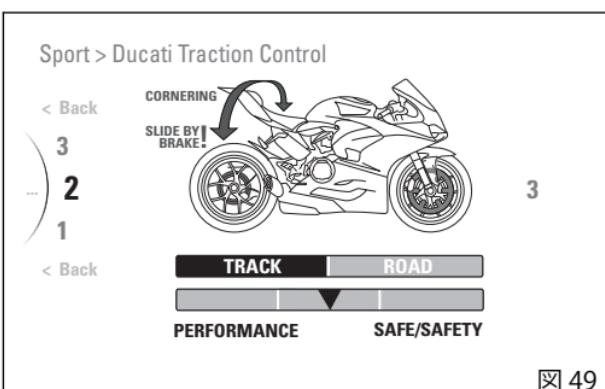


図 49

SETTING MENU - Riding Mode - DWC

この機能では一つのライディングモードのDWCシステム介入レベルの設定、またはシステムの解除を行うことができます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTERボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTERボタンを押します。
- "DWC" を選択し、ENTERボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定(レベル "1"~"4"、"Off")が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます。

さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。

ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTERボタンを押して決定します。

参考

DTCが"On"に設定されている場合は、DWCは強制的に"On"設定になり、パラメーターを変更することはできません。その結果、DWCメニューも利用できません。

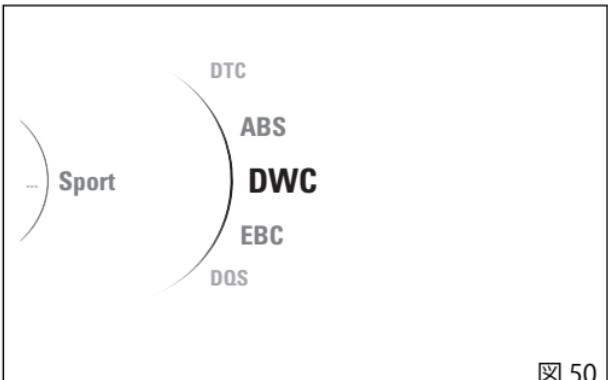


図 50

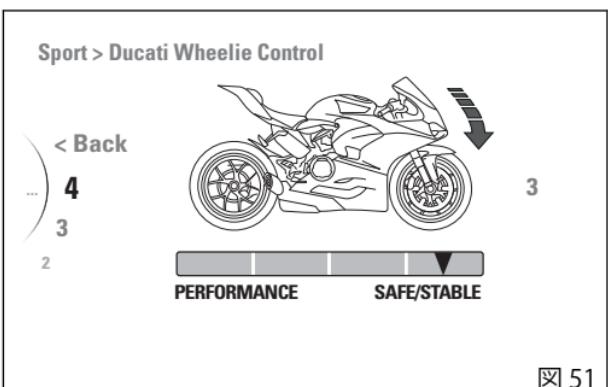


図 51

SETTING MENU - Riding Mode - EBC

この機能では一つのライディングモードのEBCシステム介入レベルの設定を行うことができます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTERボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTERボタンを押します。
- "EBC" を選択し、ENTERボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定(レベル“1”～“3”)が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます。

さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。

ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTERボタンを押して決定します。

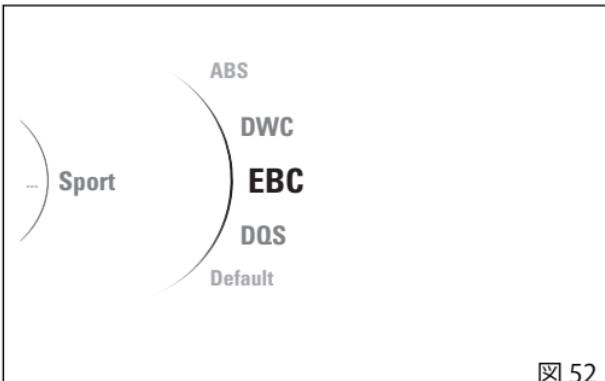


図 52

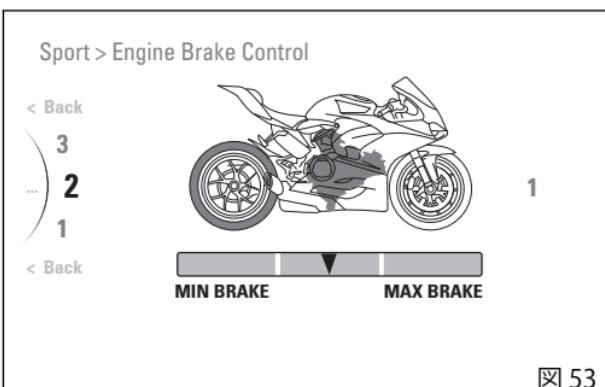


図 53

SETTING MENU - Riding Mode - DQS

この機能では一つのライディングモードの DQS システム介入レベルの設定、またはシステムの解除を行うことができます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- "DQS" を選択し、ENTER ボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定("Up/Down"、"Off")が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます。

さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭が表示されます。

ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

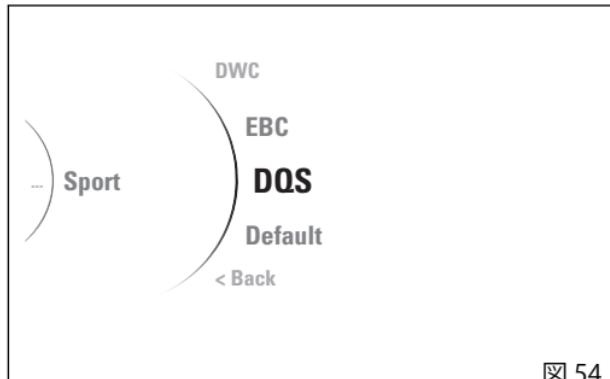


図 54

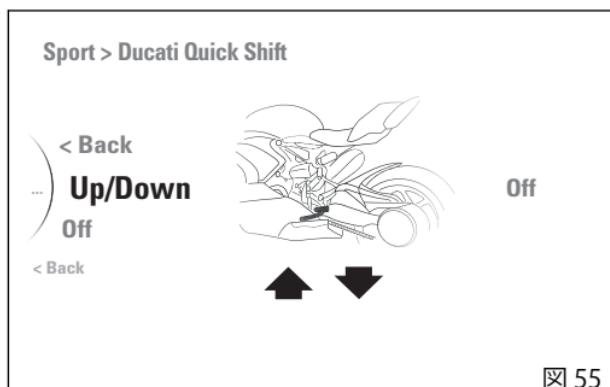


図 55

SETTING MENU - Riding Mode - Default

この機能では、ひとつのライディングモードの全パラメーターを初期設定値に回復することができます。工場出荷時の初期設定値から、ひとつ以上のパラメータ一値が変更されている場合にのみ表示されます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Default" を選択し、ENTER ボタンを押して、すべてのパラメーターを初期設定値に戻します。

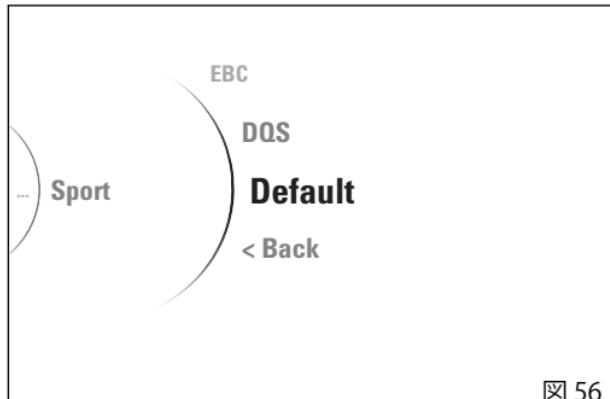


図 56

SETTING MENU - Riding Mode - All Default

この機能では、すべてのライディングモードの全パラメーターを初期設定値に回復することができます。工場出荷時の初期設定値から、ひとつ以上のライディングモードでパラメーター値が変更されている場合のみ表示されます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "All Default" を選択し、ENTER ボタンを押して、すべてのパラメーターを初期設定値に戻します。

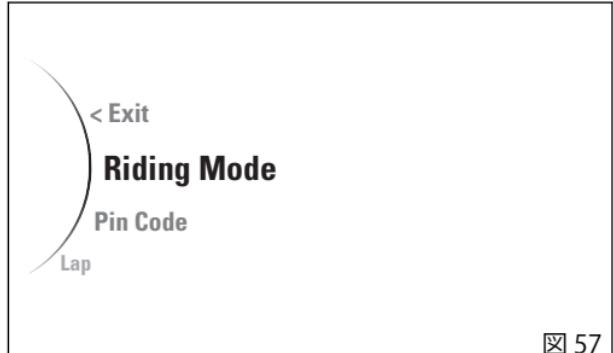


図 57

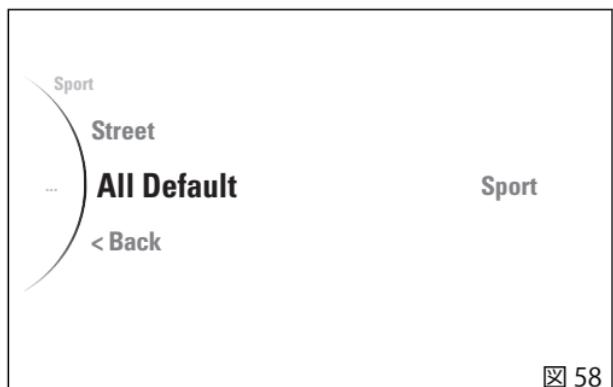


図 58

SETTING MENU - Pin Code

この機能でPIN CODEの有効化または変更を行います。PIN CODEは最初車両に登録されていませんので、ユーザーが4桁のPINをインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に車両を一時起動することができません。

不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"PIN CODEによる車両の解除"の手順に従います。



警告

PIN CODEの登録および保存は、車両の所有者が行います。PIN CODEがすでに登録されている場合は、Ducati正規ディーラーにPIN CODEのリセットをご依頼ください。その際Ducati正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで"Pin Code"を選択し、ENTERボタンを押します。

これまでにPIN CODEが登録されたことがない場合は、メニュー内に"New Pin"と表示され、PIN CODEの登録を行えます。PIN CODEがすでに登録されている場合は、メニュー内に"Modify Pin"と表示され、保存されているPIN CODEを変更することができます。

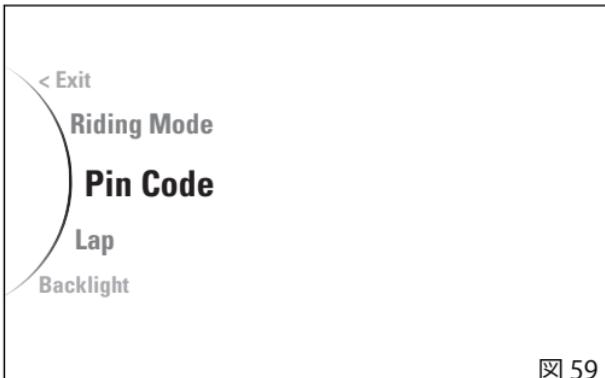


図 59

New Pin

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- “Pin Code”を選択し、ENTERボタンを押します。
- “New Pin”を選択し(図60)、ENTERボタンを押します。

画面に“New Pin”的表示と、新規PIN CODEを入力する4桁のスペースが表示されます(図61)。1桁目の数値の上下に2つの矢印が表示され、設定が可能であることを示します。コードの入力：

- UPボタン、DOWNボタンを押すと、数字が“0”～“9”的間で1ずつ増減します。
- ENTERボタンを押して数字を決定し、次の桁に移動します。
- 同じ方法で4桁すべてを入力します。



図60



図61

4桁目を入力してからENTERボタンを押すと、"Memory"の文字がオレンジ色で表示されます。もう一度ENTERボタンを押して、入力したコードを保存します。"Memorized"の表示が緑色で2秒間表示されます。

画面はPIN CODE機能の最初のメニューに戻り、"New Pin"の代わりに"Modify Pin"が表示されます。

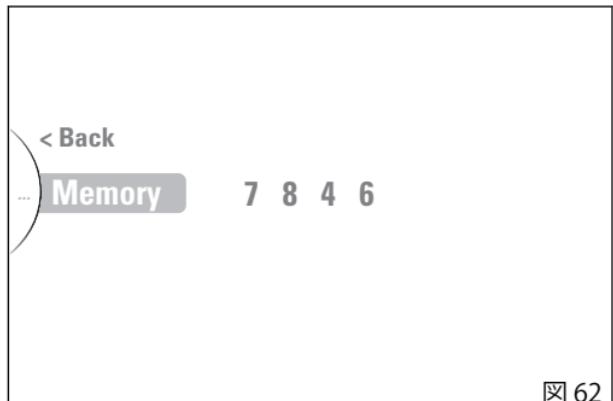


図 62

Modify Pin

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- "Pin Code" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Modify Pin" を選択し(図 63)、ENTER ボタンを押します。

画面に "Old Pin" の表示と、旧 PIN CODE を入力する 4 行のスペースが表示されます(図 61)。1 行目の数値の上下に 2 つの矢印が表示され、設定が可能であることを示します。コードの入力：

- UP ボタン、DOWN ボタンを押すと、数字が "0" ~ "9" の間で 1 ずつ増減します。
- ENTER ボタンを押して数字を決定し、次の行に移動します。
- 同じ方法で 4 行すべてを入力します。

4 行目を入力してから ENTER ボタンを押すと、以下のようになります。

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "Wrong" を赤色で 2 秒間強調表示します。その後、前の画面に戻り、もう一度コードを入力することができます。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "Correct" を 2 秒間表示し、その後新しい PIN CODE の入力画面に進みます。この場合は、

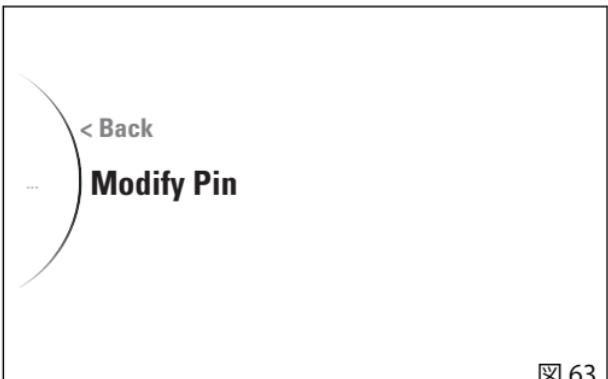


図 63

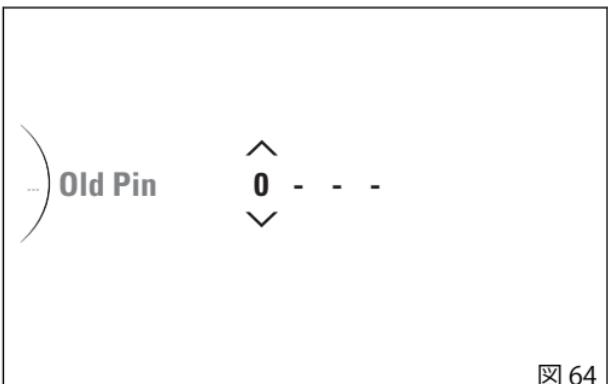


図 64

“New Pin”の項を参照して新規コードを入力してください。

SETTING MENU - Lap

この機能で LAP (ラップタイム) の起動/解除、記録されているラップタイムの閲覧が可能です。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Lap" を選択し、ENTER ボタンを押します。

このメニュー内には "On" または "Off"、"Lap Data"、"Erase All" (ラップが記録されている場合にのみ表示) が表示され、右側に機能の現在の状態が表示されます。

希望する表示を選択し、ENTER ボタンを押して機能を有効にします。

- "On" : LAP 機能を起動します。
- "Off" : LAP 機能を解除します。
- "Lap Data" : 記録されているラップを表示します。
- "Erase All" : 記録されている全ラップを消去します。

車両の起動時、Lap 機能は常に "Off" に設定されます。

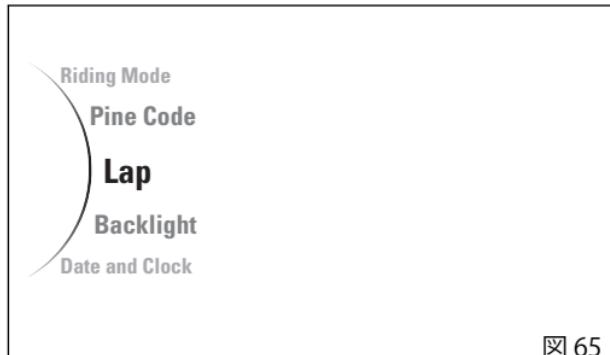


図 65

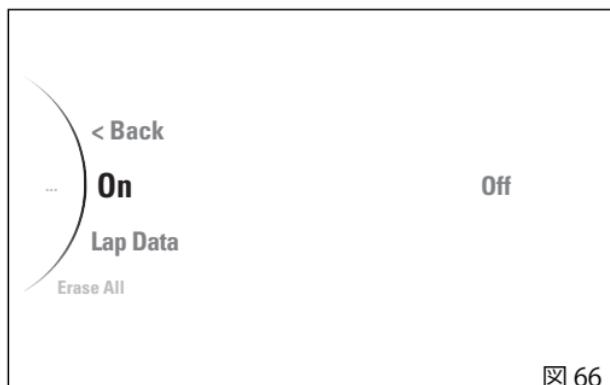


図 66

Lap Data

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Lap" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Lap Data" を選択し、ENTER ボタンを押します。

記録されているラップと選択したラップのデータが一覧で表示されます。

ブラウズボタンを使用して、ラップ一覧をスクロール表示できます。

各ラップごとに表示されるデータ：

- 記録タイム
- 最高速度
- 最高回転数
- 最大リーン角
- 最大ヨー角

"Best Lap" を選択すると、ベストラップのデータが表示されます。

ラップ記録が存在しない場合は、"No Lap" の文字が表示されます。

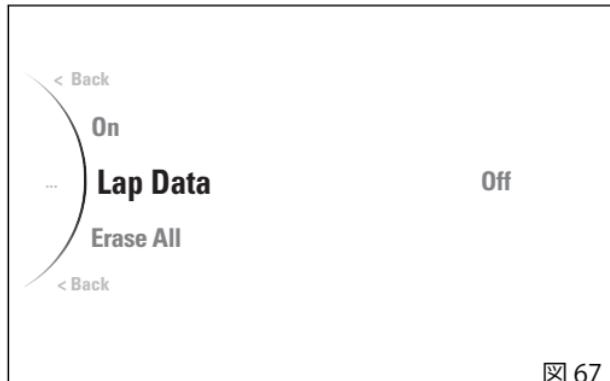


図 67

	Lap time	1'23"93
	MAX rpm	9600
	MAX speed	238 km/h
Lap 1	MAX Lean angle	8°
Lap 2	MAX YAW angle	15°

図 68

Erase All

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Lap" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Erase All" を選択し、ENTER ボタンを押して全ラップ記録を消去します。"Wait..." の文字が 1 秒間表示された後、"Erase Ok" の文字が 1 秒間表示されて消去が完了したことを見ます。



参考 Lap 機能の起動中に記録の消去手順を実行すると、インストルメントパネルは機能を解除します。

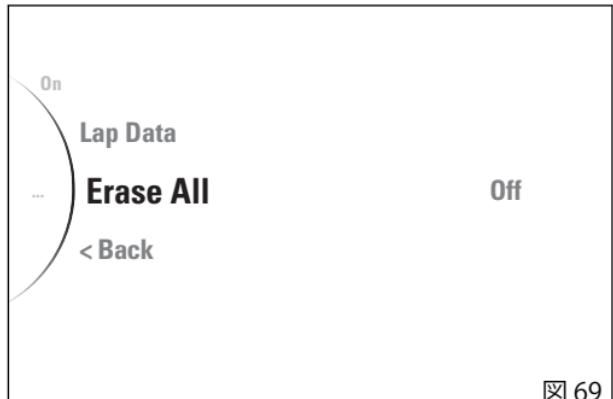


図 69

SETTING MENU - Backlight

この機能からディスプレイを Day モードまたは Night モードに設定できます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Backlight" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には "Day"、"Night"、"Auto" の項目が表示され、右側に機能の現在の状態が表示されます。

目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。

- 背景をホワイトに設定する "Day" モードは、周囲が十分に明るい場合に推奨されます。
- 背景をブラックに設定する "Night" モードは、周囲が暗い場合に推奨されます。
- "Auto" (デフォルト設定) モードは、周囲の明るさに応じて自動で背景色を設定します。



参考

バッテリーの接続を切り離した場合には、バックライトは "Auto" モードに設定されます。



図 70

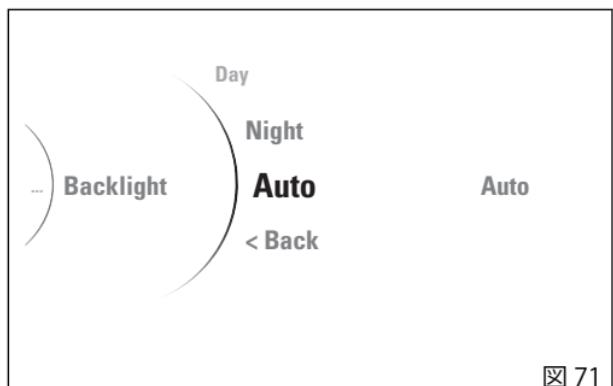


図 71

SETTING MENU - Date and Clock

この機能で日時を設定します。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Date and Clock" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には "Date"、"Clock" の項目が表示され、中央に現在設定されている日時が表示されます。目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。



日時が一度も設定されたことがない場合は、数値の代わりに点線 “-” が表示されます。

バッテリーの接続を切り離した場合は、新たに日時を設定する必要があります。

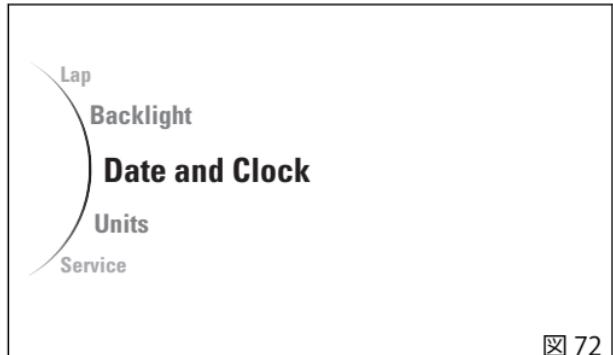


図 72

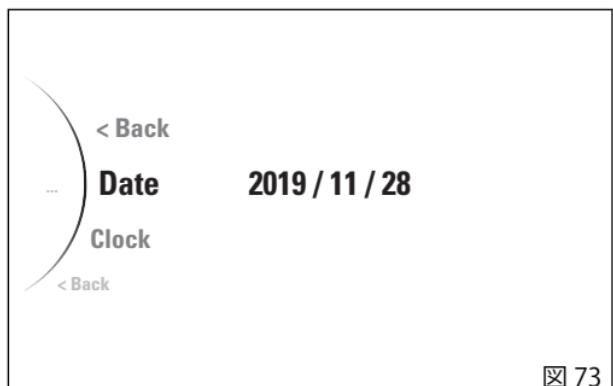


図 73

Date (日付の設定)

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Date and Clock" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Date" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 右側に "Set..." の文字が表示され、中央の「年」が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用して「年」を設定します。
- ENTER ボタンを押して「年」を決定します。
- 「月」が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用して「月」を設定します。
- ENTER ボタンを押して「月」を決定します。
- 「日」が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用して「日」を設定します。
- ENTER ボタンを押して、設定した日付を保存します。

日付が正しくない場合、インストルメントパネルは "Wrong" を3秒間表示した後、「年」の入力に戻ります。もう一度日付を設定してください。

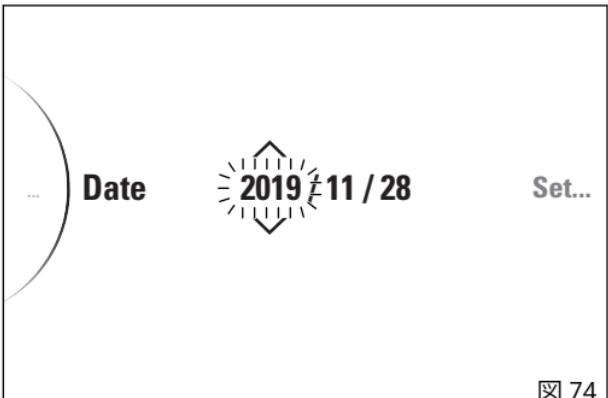


図 74

Clock (時刻の設定)

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Date and Clock" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Clock" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 右側に "Set..." の文字が表示され、中央の "AM" または "PM" が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用してパラメーターを設定します。
- ENTER ボタンを押して決定します。
- 「時」が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用して「時」を設定します。
- ENTER ボタンを押して決定します。
- 「分」が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用して「分」を設定します。
- ENTER ボタンを押して、設定した時刻を保存します。

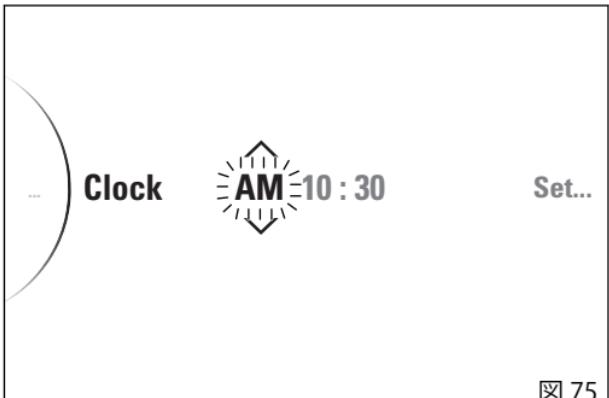


図 75

SETTING MENU - Units

この機能はインストルメントパネルの表示単位を設定します。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Units" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- メニュー内には次の項目が表示されます。
"Speed"、"Temperature"、"Consumption"、"All Default"(ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合のみ表示されます)
- 目的の項目を選択し、ENTER ボタンを押します。



参考

温度以外の単位を変更すると、TRIP 1、TRIP 2、CONS. AVG 1、SPEED AVG 1、TRIP TIME 1 の各機能が自動的にリセットされます。

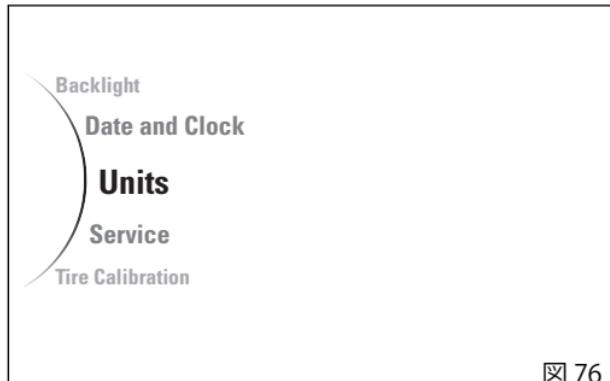


図 76

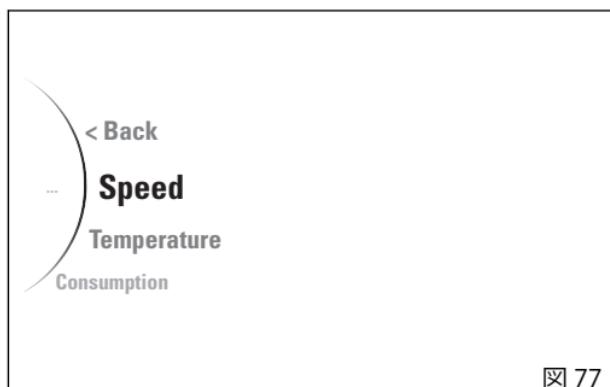


図 77

Speed

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Units" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Speed" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "km/h"、"mph"、"Default" (現在設定されている単位が初期設定単位と異なる場合にのみ表示されます) が表示されます。画面の右側には現在設定されている単位が表示されます。
- ブラウズボタンを使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す "Default" を選択します。
- ENTER ボタンを押して決定します。

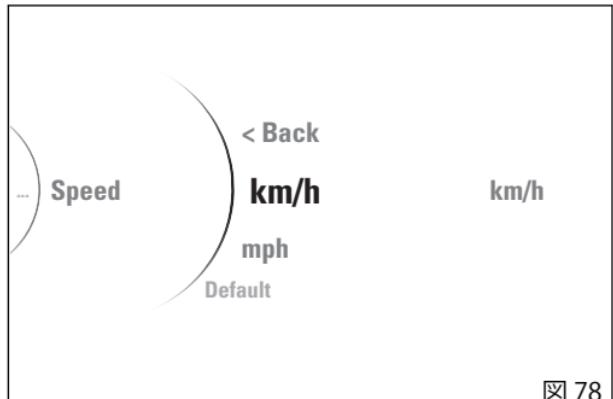


図 78

Temperature

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Units" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Temperature" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “° C”、“° F”、“Default”(現在設定されている単位が初期設定単位と異なる場合にのみ表示されます)が表示されます。画面の右側には現在設定されている単位が表示されます。
- ブラウズボタンを使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す “Default” を選択します。
- ENTER ボタンを押して決定します。

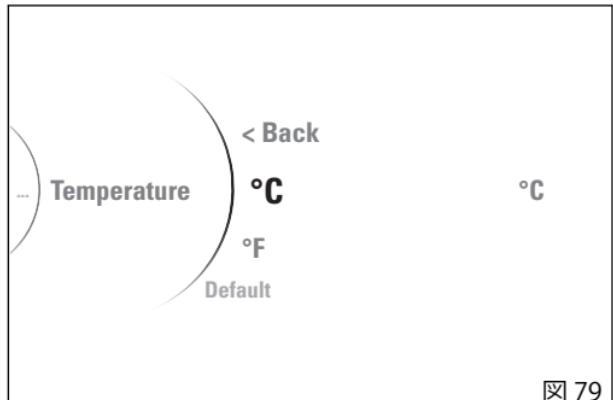


図 79

Consumption

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Consumption" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Temperature" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "l/100"、"km/l"、"mpg UK"、"mpg US"、"Default" (現在設定されている単位が初期設定単位と異なる場合にのみ表示されます) が表示されます。画面の右側には現在設定されている単位が表示されます。
- ブラウズボタンを使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す "Default" を選択します。
- ENTER ボタンを押して決定します。

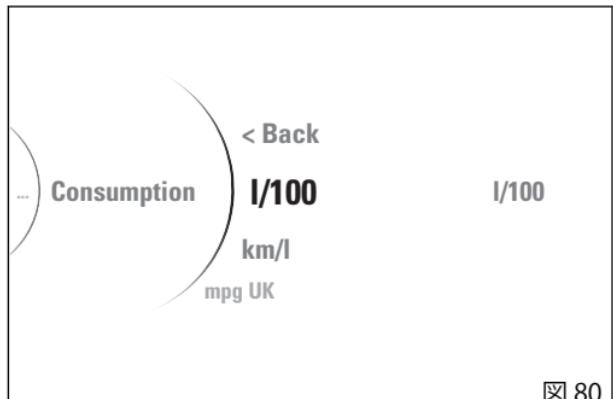


図 80

SETTING MENU - Service

この機能で今後のサービス情報を表示します。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Service" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- ディスプレイには、以下のサービスに関する情報が表示されます。
 - Oil Service (残りの走行距離)
 - Desmo Service (残りの走行距離)
 - Annual Service (日付)

この機能については変更は一切できません。ENTER ボタンを押して終了します。

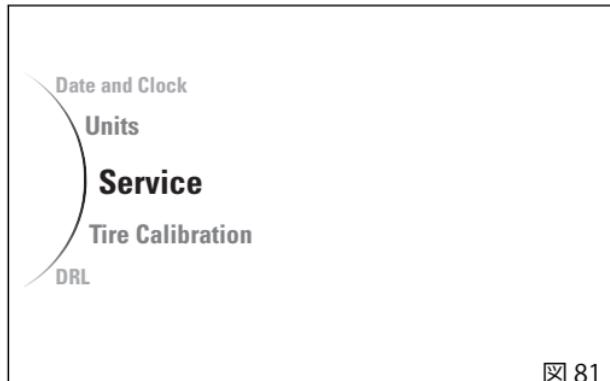


図 81



図 82

SETTING MENU - Tire Calibration

この機能でタイヤの円周長と最終減速比のキャリブレーションおよび自己学習の手順を行います。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Tire Calibration" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には "Start"、"Default" (キャリブレーションが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます) が表示されます。

目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。

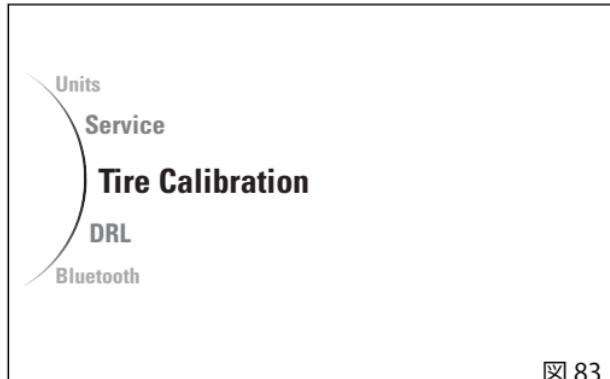


図 83

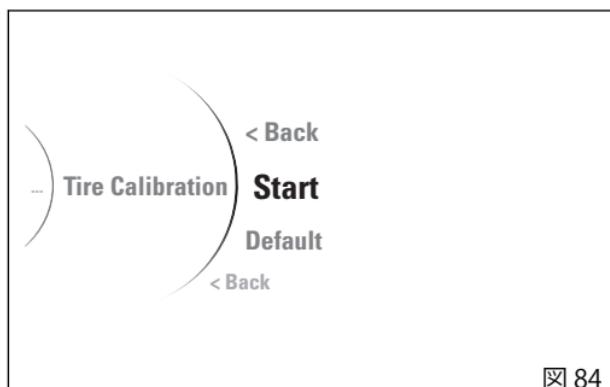


図 84

Start

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Tire Calibration" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Start" を選択し、ENTER ボタンを押します。

キャリブレーションプロセスを起動すると、インストルメントパネルには "Ready" の文字が点滅し、"Keep Speed" の文字が表示されます。加えて、自己学習を正常に完了するために維持するべき速度範囲とギアが表示されます。右側には参照しているライディングモード、実速度、ギアが表示されます。



重要

走行速度 48 Km/h (30 mph) ~ 52 Km/h (32 mph) を維持し、ギアを 2 速に入れた状態においてのみ自己学習プロセスを実施することができます。

速度とギアが指定の状態になると、システムのキャリブレーションが開始されます。上記すべての情報が表示され、"Ready" の代わりに "In progress" が表示されます。

スピードとギアが指定のパラメーターに 5 秒間維持された時にキャリブレーションが実行されます。

キャリブレーション手順を中止するには、UP ボタンを 2 秒間長押しします。この場合は、インストルメントパネルに上記の全情報が表示され、"In progress" の

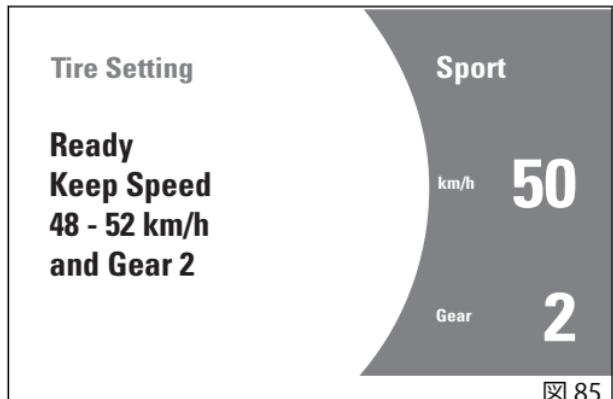


図 85

文字が "Aborted" の文字に変わります。そして数秒後に前のメニュー画面に戻ります。

自己学習プロセスが正常に終了すると、インストルメントパネルに“Completed”的文字が表示され、数秒後に前のメニュー画面に戻ります。

ユーザーがキャリブレーションを中止した場合は、インストルメントパネルに“Aborted”的文字が表示され、数秒後に前のメニュー画面に戻ります。

一方、キャリブレーションプロセスの途中でエラーや不具合が検出された場合は、インストルメントパネルに“Failed”的文字が表示され、数秒後に前のメニュー画面に戻ります。

参考

キャリブレーションプロセスの途中で走行速度が100 km/h (62 mph) を超えるか、もしくは車両をオフにすると、キャリブレーションは中断されます。

デフォルト

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Tire Calibration" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Default" を選択し、ENTER ボタンを押して初期設定値に戻します。
- "Default Please Wait..." の文字が表示されてから、"Default ok" の文字が2秒間表示され、前のメニュー画面に戻ります。

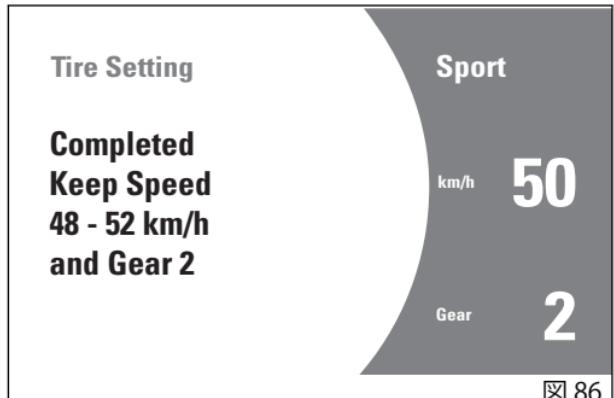


図 86

SETTING MENU - DRL

この機能では、DRL をオートモードかマニュアルモードに設定することができます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "DRL" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には "Auto"、"Manual" の項目が表示され、右側に機能の現在の状態が表示されます。

目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。



バッテリーの接続を切り離した場合には、自動的に "Auto" モードに設定されます。



図 87

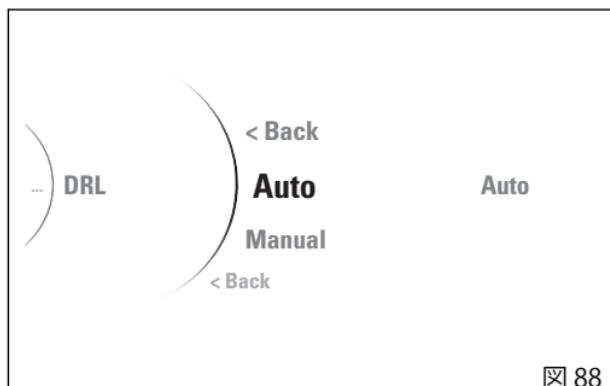


図 88

SETTING MENU - Bluetooth

この機能では、ペアリング済みのBluetoothデバイスの管理およびデバイスのペアリングが可能です。Bluetoothモジュールが車両に搭載されている場合のみ、この機能が表示されます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Bluetooth" を選択し、ENTERボタンを押します。

メニュー内には、ペアリング済みデバイスの表示・削除を行う "Associated Devices" の項目と、新規にデバイスをペアリングする "Pairing" の項目が表示されます。

目的の表示を選択し、ENTERボタンを押します。

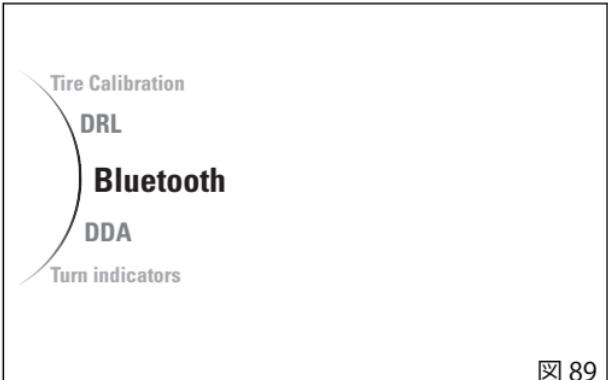


図 89

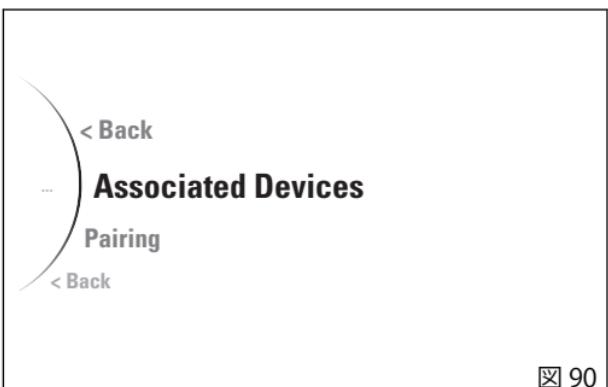


図 90

Associated Devices

ペアリング済みデバイスの表示と削除を行います。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Bluetooth" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Associated Devices" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- ペアリング済みデバイスのリストが表示されます。目的のデバイスを選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Delete" の文字が表示されます。これを選択して ENTER ボタンを押すと、選択したデバイスがリストから消去されます。
- 数秒間 "Wait..." の文字が表示され、その後前のメニュー画面に戻ります。

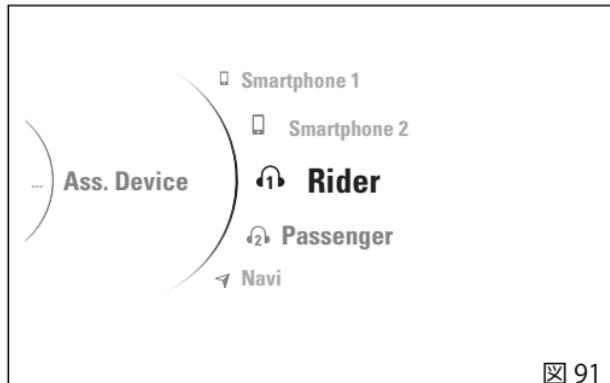


図 91

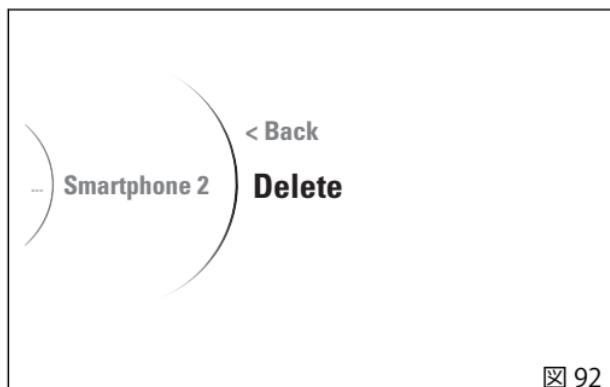


図 92

Pairing

新しいBluetoothデバイスをペアリングします。

インストルメントパネルは、4種類のBluetoothデバイスのペアリング/接続を最大5台(スマートフォン2台、ライダーへッドセット1台、パッセンジャーへッドセット1台、ナビゲーター1台)まで管理します。

参考

新規デバイスのペアリングを行う前に、デバイス側のBluetoothが起動していること、また他のBluetoothデバイスから検出可能になっていることを確認してください。デバイス本体の取扱説明書を必ずよくお読みください。

参考

ペアリング中に、デバイス(スマートフォンなど)上で確認が求められる可能性があります。詳しくはデバイス本体の取扱説明書をご覧ください。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入れます。
- ブラウズボタンで "Bluetooth" を選択し、ENTERボタンを押します。
- "Pairing" を選択し、ENTERボタンを押します。
- インストルメントパネルで管理される4種類のデバイスが表示されます。ペアリングするデバイスの種類を選択し、ENTERボタンを押します。

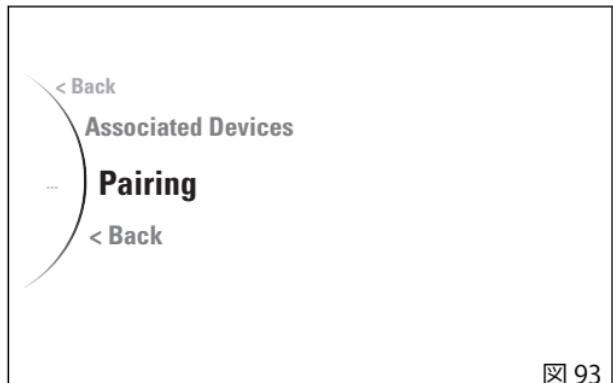


図 93

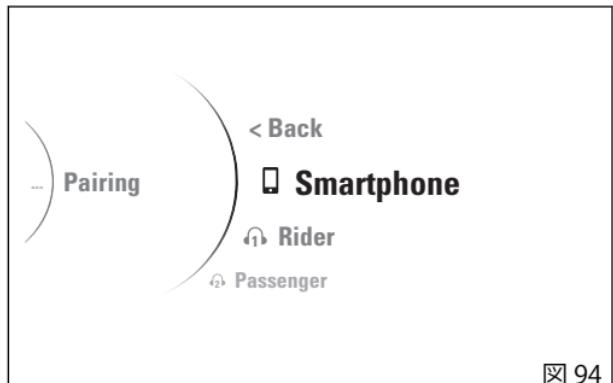


図 94

- インストルメントパネルが周囲の Bluetooth デバイス検索を開始します。“Wait...” の文字が表示され、検出されたデバイスが表示されます。
- 検索が終了すると、検出された全デバイスがリスト表示されます。ブラウズボタンで希望のデバイスを選択し、ENTER ボタンを押します。
- Bluetooth デバイス側の検証待ちの間、画面の右側に “Pairing...” の文字が表示されます。
ペアリングが正常に完了すると、インストルメントパネルは前のメニュー画面に戻ります。
“Pairing Error” の文字が表示された場合は、もう一度ペアリング手順を実行できます。

警告

以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット

参考

上記Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

警告

Bluetooth ヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります(スマートフォン、ヘッドセット)。

警告

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth ヘッドセット(音楽共有、マルチメディア再生など)の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン(Bluetooth 対応プロファイルによる)に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット(部品番号：981029498)" に付属しないヘッドセット。
- 必要な Bluetooth プロファイルに対応していないスマートフォン("Ducati キット 部品番号：981029498" に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも)



警告

外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット (部品番号：981029498) ではライダーヘルメットからパッセンジャーへルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます (詳しくは Ducati キット (部品番号：981029498) に付属のヘッドセット取扱説明書を参照)。



参考

Ducati キット (部品番号：981029498) は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

SETTING MENU - DDA

ここでは DDA 装置の起動および解除、メモリー占有率の表示、装置のメモリー削除を行うことができます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "DDA" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には "Off"、"On"、"Memory" の項目が表示され、右側に機能の現在の状態が表示されます。

目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。



Key-OFFする度に DDA システムはインストルメントパネルにより自動的に解除されます。

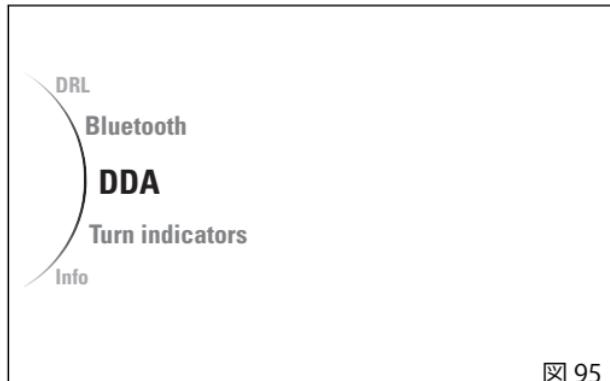


図 95

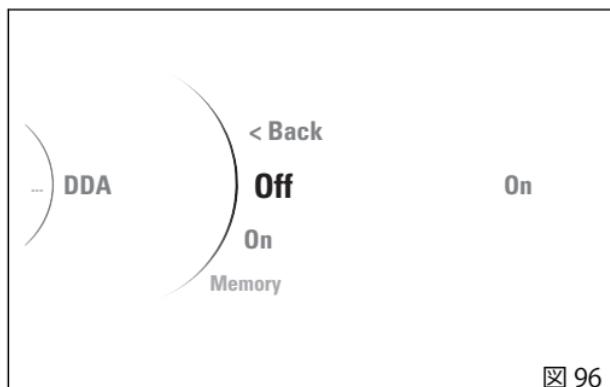


図 96

Memory

DDA が記録したデータの表示と削除を行います。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "DDA" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- "Memory" を選択し、ENTER ボタンを押します。

記録が存在しない場合、機能に入ると "Empty" の文字が表示されます。そうでない場合は、メモリの状態を表すパーセンテージとバー、"Erase" の項目が表示されます。メモリが一杯の場合は、"Full" の文字が表示されます。

すべての記録データを消去する場合は、"Erase" を選択し、ENTER ボタンを押します。

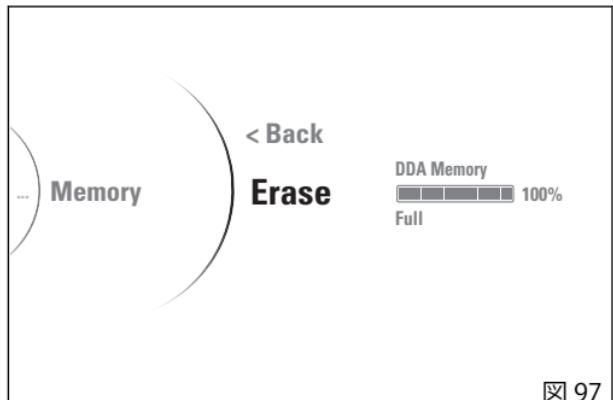


図 97

SETTING MENU - Turn indicators

この機能では、ターンインジケーター操作を自動モードまたは手動モードに設定することができます。

ターンインジケーター自動解除ストラテジーは、リーン角度、走行速度、走行距離から算出されたデータを基にしています。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Turn indicators" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には "Auto"、"Manual" の項目が表示され、右側に機能の現在の状態が表示されます。

目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。



参考

バッテリーの接続を切り離した場合には、自動的に "Auto" モードに設定されます。

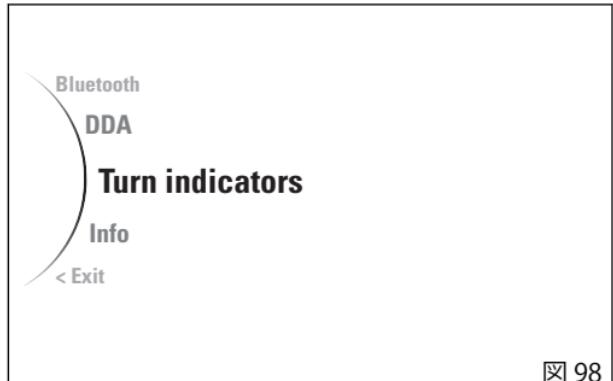


図 98

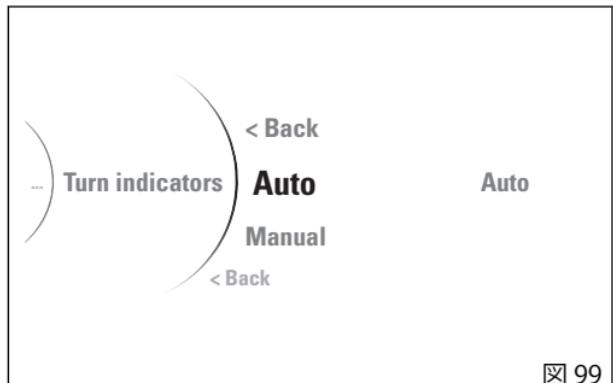


図 99

SETTING MENU - Info

この機能では車両のバッテリー電圧とデジタル表示のエンジン回転数を表示します。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Info" を選択し、ENTERボタンを押します。
- ディスプレイにバッテリーに関する情報とエンジン回転数がデジタル形式で表示されます。

この機能については変更は一切できません。ENTERボタンを押して終了します。

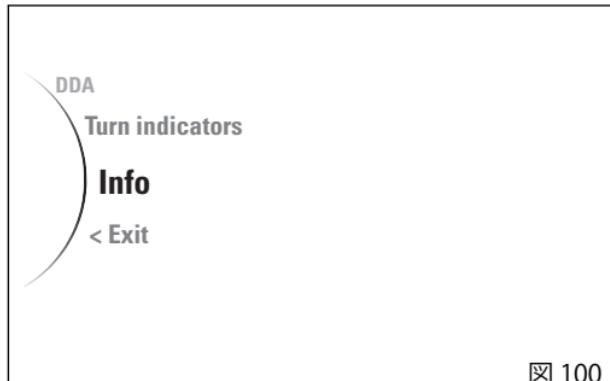


図 100

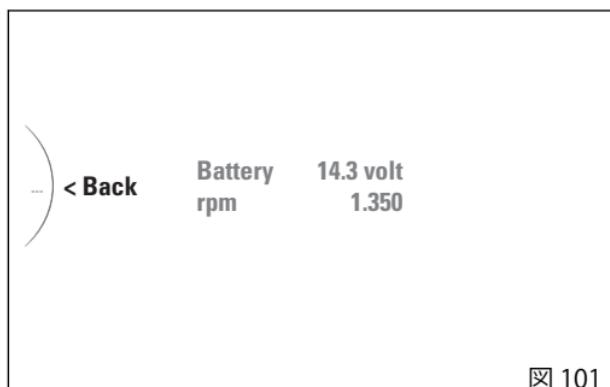


図 101

ラップタイム (LAP Time)

ラップ機能を起動するには、“SETTING MENU - Lap”的章を参照してください。

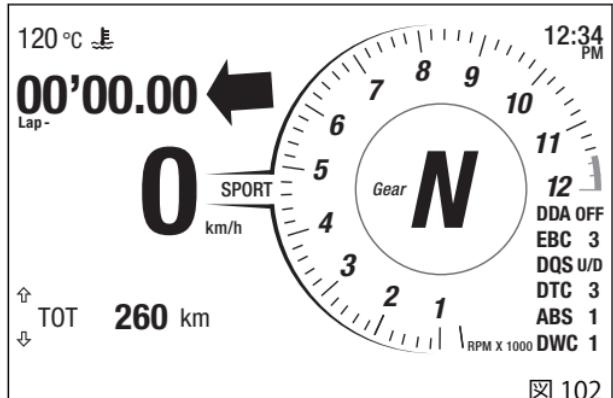
ラップ機能を起動すると、メイン画面にストップウォッチ “0'00.00” と、ラップタイム記録用のラップ数が表示されます。

最大 30 ラップまで記録が可能で、ラップごとに以下のパラメーターが記録されます。

- 記録タイム
- 最高速度
- 最高回転数
- 最大リーン角
- 最大ヨー角

記録が 30 番目のラップに達すると、それ以上ラップを記録することはできず、“Lap Full” の文字が表示されます。

別のラップを記録したい場合は、記録済みのラップタイムを消去する必要があります。消去手順は “SETTING MENU - Lap” の章をご覧ください。



GPS コントロールユニットなしのラップタイム記録

車両にGPSコントロールユニットを搭載していない場合は、LAP機能を起動してから、FLASHボタンを使用してストップウォッチの作動、ラップタイムの記録が可能です。

- FLASHボタンを一回押すと、ストップウォッチとラップ数が1秒間点滅し、ストップウォッチが作動します。
- もう一度FLASHボタンを押すと、直前に記録されたタイムとラップが1秒間点滅し、5秒間表示されます。その後、進行中のタイム測定とラップカウントに戻ります。

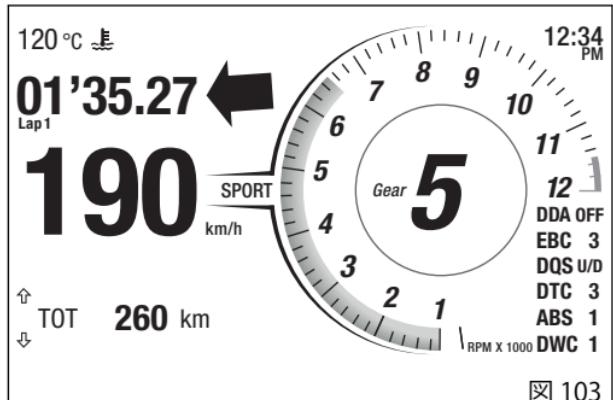


図 103

参考

新しいラップが記録されてから5秒以内にFLASHボタンを押しても、何も起こりません。

GPS コントロールユニットを使用したラップタイム記録

車両にGPSコントロールユニットを搭載している場合は、LAP機能の起動後、ラップ記録はインストルメントパネルによって自動管理されます。

画面にはストップウォッチとラップカウントに加えて、GPSマーク(図104)が現れます。

一周目のスタート時にFLASHボタンを押すと、ストップウォッチがスタートします。ストップウォッチとラップ数が1秒間点滅します。

同時に、GPSコントロールユニットを介してフィニッシュラインの座標が保存され、「フィニッシュライン」マーク(図105)が現れます。これ以降のすべてのラップはインストルメントパネルによって記録され、FLASHボタンを使用してストップウォッチを管理する必要はありません。

フィニッシュラインを通過するたびに、直前に記録されたタイムとラップが1秒間点滅し、5秒間表示されます。その後、進行中のタイム測定とラップカウントに戻ります。

フィニッシュラインの位置を変更するには、FLASHボタンをもう一度押します。それ以降のラップタイムは、新しいフィニッシュライン座標を基に算出されます。

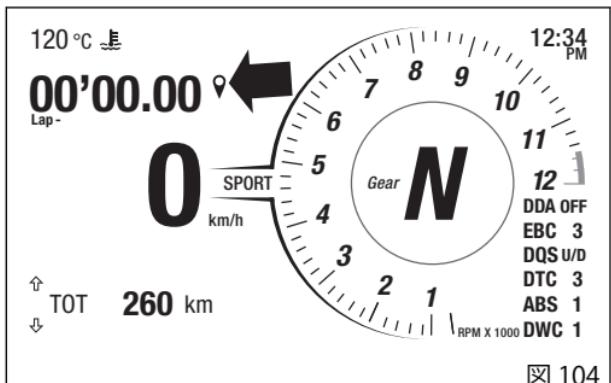


図 104

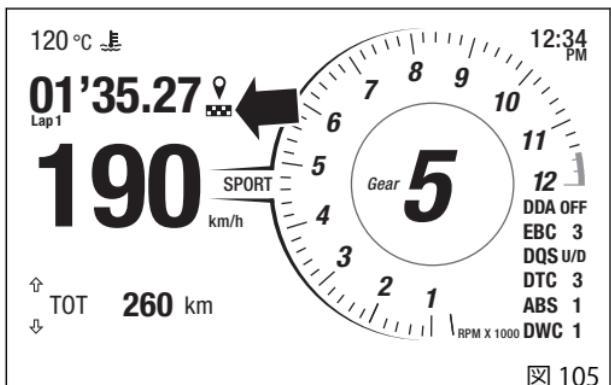


図 105

一度記録したフィニッシュライン位置は、GPSメモリから手動で消去することはできません。消去する唯一の方法は、記録したフィニッシュラインから 15 km (9 mi) 以上離れることです。

参考

新しいラップタイムが記録されるたびに、保存されている以前のラップタイムを上回っている場合は、ストップウォッチが 6 秒間点滅します。ベストラップの算出は、2 ラップ以上記録されている場合に行われます。

参考

ラップの記録中にタイムが「07'59.99」を超えると、ストップウォッチがリセットされ、再びカウントが始まります。

参考

以下のような場合には、ストップウォッチが止まりリセットされます。

- ラップ記録を開始してから 5 秒が経過しても、車両速度がゼロである場合
- ラップタイム記録中に車両をオフにした場合
- 記録中に走行速度が 5 km/h (3 mph) を下回った場合

参考

記録されているラップが存在しない場合は、ラップカウンターに “Lap -” と表示されます。

参考

LAP 機能が起動している時に音楽プレーヤーを起動(PLAYER ON)すると、LAP 機能が OFF モードに設定され中断されます。

参考

音楽プレーヤーが起動(PLAYER ON)し、スマートフォンから曲を再生している時に LAP 機能を起動すると、曲の再生が中断され、機能が停止(PLAYER OFF)します。

インフォテインメント

Bluetoothコントロールユニットを搭載している場合は、インストルメントパネルにBluetoothマークが表示されます。

インストルメントパネルに搭載されているインフォテインメントシステムから、Bluetooth接続されるスマートフォン、ライダーインターホーム、パッセンジャーインターホーム、衛星ナビゲーターの4種類のデバイスを管理することができます。Bluetoothデバイスのペアリングまたは削除については、“SETTING MENU - Bluetooth”の章を参照してください。接続後は以下のように表示されます。

- 1) 接続スマートフォン
- 2) 接続ライダーインターホーム
- 3) 接続パッセンジャーインターホーム
- 4) 接続ライダーインターホームとペアリング済みパッセンジャーインターホーム
- 5) ペアリング済みライダーインターホームと接続パッセンジャーインターホーム
- 6) 接続ライダーインターホームと接続パッセンジャーインターホーム
- 7) 接続 Ducati ナビゲーター

接続されているデバイスは水色のアイコンで表示されます。一方、接続されていないペアリング済みデバイスはグレーのアイコンで表示されます。

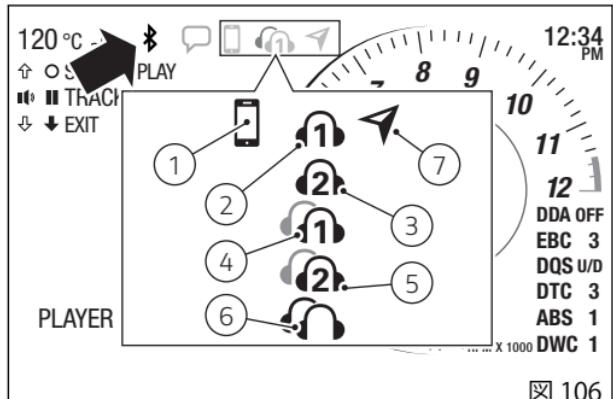


図 106

インストルメントパネルにスマートフォンを接続している場合は、音楽プレーヤーと通話履歴の操作が可能です。“PLAYER (OFF / ON)”と“LAST CALLS”的章をご覧ください。

次のような場合にインストルメントパネルがどのように作動するかを以下に示します。

- 着信
- 通話中
- 直前の電話番号にリダイヤル
- 不在着信
- 受信したメッセージ / E メール

着信

着信があると、ディスプレイは以下のように表示されます。

- "ACCEPT" の文字 (A)
- 発信元の名前 / 電話番号 (B)
- "DECLINE" の文字 (C)

着信に応答する場合は UP ボタンを押し、着信を拒否する場合は DOWN ボタンを押します。

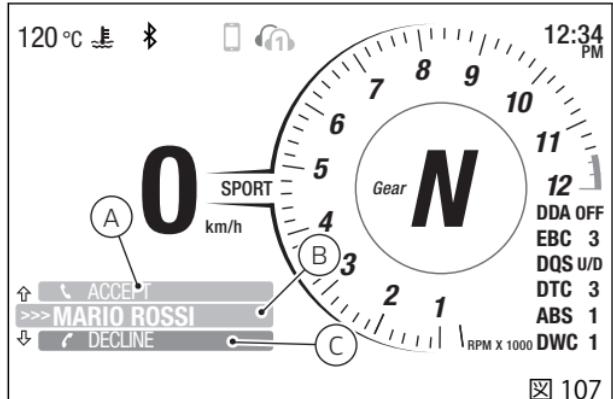


図 107

通話中

通話中は、インストルメントパネルに次のように表示されます。

- “ACTIVE” 表示 (A)
- 通話相手の名前 / 電話番号と、その前に着信を受けた場合は “>>>” マーク (B)、発信した通話の場合は “<<<” マーク
- “END CALL” の文字 (C)

DOWN ボタンを押して通話を終了します。



スマートフォンの他にライダーヘルメットインターフォンが接続されている場合は、通話中の会話はヘルメットのイヤホンとマイクを通して再生されます。

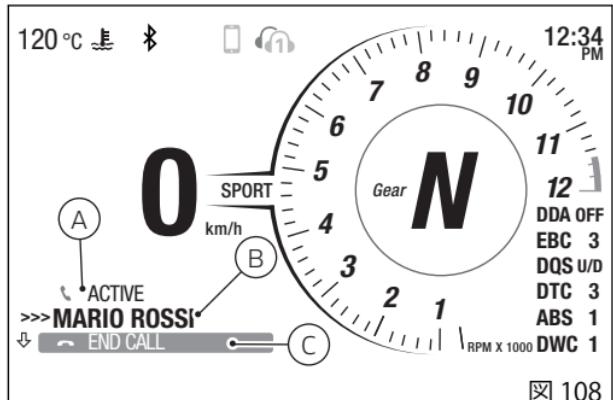


図 108

直前の電話番号にリダイヤル

通話を終了した場合、または不在着信、着信拒否した場合は、インストルメントパネルは RECALL 機能を5秒間有効にし、直前の電話番号にリダイヤルすることができます。

インストルメントパネルの表示：

- "RECALL" の文字 (A)
- 通話相手の名前 / 電話番号と、その前に "<<<" マーク (発信) または ">>>" マーク (着信) (B)

表示されている名前 / 電話番号にリダイヤルするには、UP ボタンを押します。

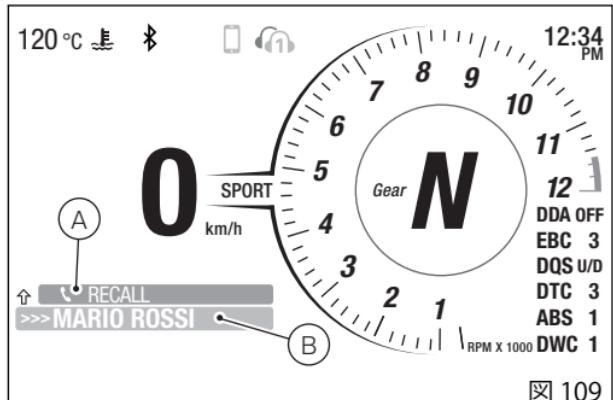


図 109

不在着信

不在着信があると、ディスプレイにマーク(A)が60秒間表示されます。マークは最初の3秒間点滅します。

参考

不在着信の相手番号は表示されません。

受信したメッセージ/Eメール

メッセージやEメールを受信すると、ディスプレイにマーク(A)が60秒間表示されます。マークは最初の3秒間点滅します。

参考

メッセージの相手先番号やEメールアドレスは表示されません。

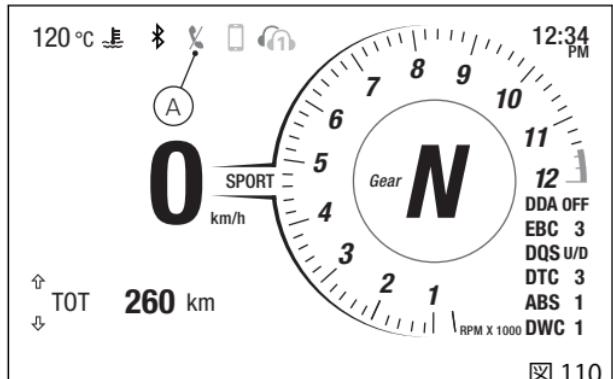


図 110

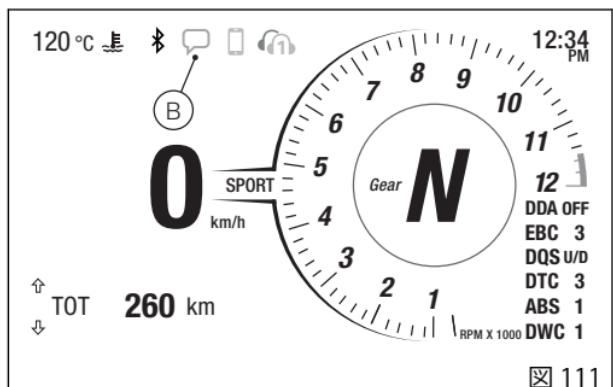


図 111

ライトコントロール

ロービーム/ハイビームライト

インストルメントパネル時、ロービームライトとハイビームライトは消灯したまま、パーキングライトのみが点灯します。

エンジンの始動後、ロービームライトが自動的に点灯します。ボタン(7)のポジション(B)とポジション(A)を切り替えて、ロービームライトとハイビームライトを切り替えることができます。ボタン(3)を押すとライトをフラッシュします。インストルメントパネルを起動してからエンジンをかけない場合でも、各ライトやフラッシュライトを作動させることはできます。ただし、ロービーム/ハイビームライトを手動で起動してから60秒以内にエンジンを始動しないと、ライトは消灯します。

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームライト、ロービームライトが点灯している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが始動した時点で再び点灯します。

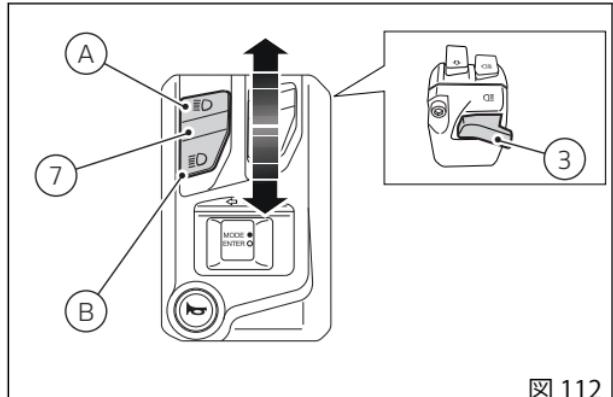


図 112

DRL の "Auto" モード — DRL 搭載バージョンのみ

SETTING MENU 内の "DRL" 機能から DRL を "Auto" に設定している場合は ("SETTING MENU - DRL" の章を参照)、インストルメントパネルが、検出された外光の明るさに基づいて、DRL とロービームライトの関係を次のように自動管理します。

- 十分な外光が検出されると(昼間)、DRL を点灯してロービームライトを消灯します。
- 十分な外光が検出できない場合(夜間)は、ロービームライトを点灯して DRL を消灯します。

DRL が AUTO モードに設定されている時は、図に示す表示灯が点灯します。

DRL を "Auto" モードに設定している時にボタン(5、図 5)を押すと、自動管理が解除されて通常のライト管理に戻ります。もう一度ボタン(5、図 5)を押すと、DRL が "Manual" 管理モードで再び起動します。この場合は、次のインストルメントパネル起動時に、DRL が再び "Auto" モードに設定されます。

!**警告**

外光の弱い状況下、特に霧や曇りの時に DRL を "Auto" モードで使用すると、非常に危険な場合があります。このような場合には、ロービームライトを手動で点灯するようにしてください。

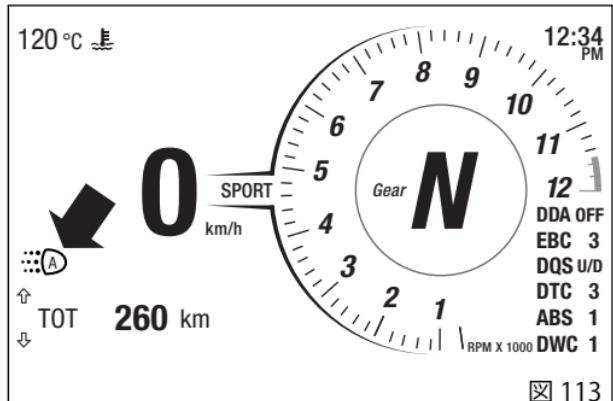


図 113

DRL の “Manual” モード — DRL 搭載バージョンのみ

SETTING MENU 内 “DRL” 機能から DRL をこのモードに設定している時は、インストルメントパネル起動時に DRL のステータスは変更されません。

DRL を停止または点灯するにはボタン (5、図 5) を押してください。



警告

外光の特に弱い状況下 (暗闇) で DRL を使用すると、運転中の視界を損なう危険があるだけでなく、対向車のドライバーにとって眩しく不快に感じさせることがあります。



参考

日中に DRL を使用することで、ロービームライトよりも優れた視界を確保することができます

ターンインジケーター

インストルメントパネルは、SETTING MENU内の“Turn indicators”機能の設定に基づいて、ターンインジケーターを手動モードまたは自動モードで制御します (“SETTING MENU - Turn indicators”的章をご覧ください)。ターンインジケーターを作動させるにはボタン(4、図5)を押します。

手動解除：いずれかのターンインジケーターを起動した後、ボタン(4、図5)で解除することができます。

自動解除：車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感じて、ターンインジケーターが自動的に消灯します。

ターンインジケーターの作動中、ターンインジケーターを作動させようとしてターンインジケーターボタンを再び押すと、自動解除機能は再度初期化されます。

警告

自動解除システムは、ライダーがターンインジケーターをより快適に操作できるように助ける、ライダースポーツ支援システムです。こうしたシステムは、ほとんどの運転において動作するように開発されていますが、ライダー自身がターンインジケーターの動作に注意を払わなくてよくなる機能ではありません(必要に応じて手動で作動/停止)。

ハザード機能(ターンインジケーターすべて点滅)

ハザード機能は、非常事態を知らせるために4つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。

ボタン(6、図5)を押してこの機能を起動します。

ハザード機能の作動中は、4つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルの該当するランプが同時に同期点滅します。

インストルメントパネルの起動時にハザード機能を作動させると、インストルメントパネルをオフにしてもハザード機能は作動を続け、120分後に自動で停止します。

車両がオフの時にハザード機能を起動することはできません。

参考

 ハザード機能の作動中にインストルメントパネルを起動しても、ハザード機能は作動を続けます。

参考

 パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。



参考

"ハザード"機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、"ハザード"機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

パーキング機能

インストルメントパネルをオフにした時にボタン(4, 図 5)を左ターンインジケーター位置に長押しすると、パーキングライドを点灯することができます。
インストルメントパネルをオフにしてから 20 秒以内であれば、パーキングライトを点灯できます。

DRL モード表示

この機能は DRL を搭載している場合にのみ利用でき、DRL が“AUTO”モードに設定されていることを示します。

SETTING MENU 内の DRL 機能から、DRL の操作モードを変更できます (“SETTING MENU - DRL” の章をご覧ください)。

DRL が“AUTO”モードに設定されている時は、図中に示すランプがインストルメントパネルに表示されます。

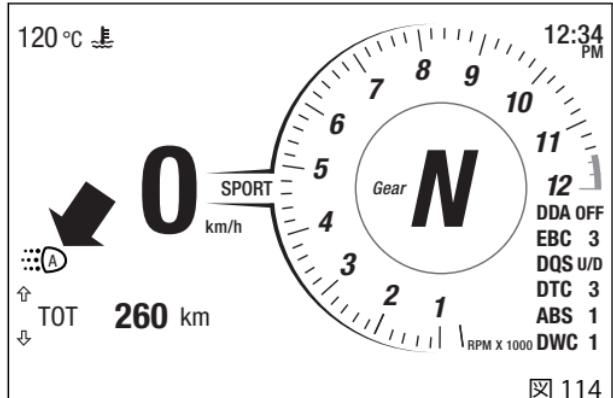


図 114

サイドスタンドのステータス表示

サイドスタンドが下りている/開いている場合には、赤色の背景に "SIDE STAND" アイコンがディスプレイに表示されます。

インストルメントパネルがサイドスタンドの状態に関するデータを受信しない場合、"SIDE STAND" アイコンが点滅して不明の状態を表します。

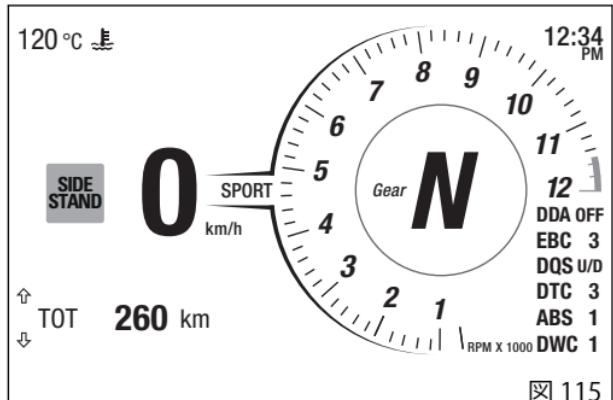


図 115

メンテナンス表示 (SERVICE)

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス(定期点検)を実施する必要があることをユーザーに通知します。

メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。

メンテナンス間隔の種類は図中に示す領域に表示されます。メンテナンスの種類には以下のものがあります。

- OIL SERVICE カウントダウン
- DESMO SERVICE カウントダウン
- ANNUAL SERVICE カウントダウン
- OIL SERVICE
- DESMO SERVICE
- ANNUAL SERVICE

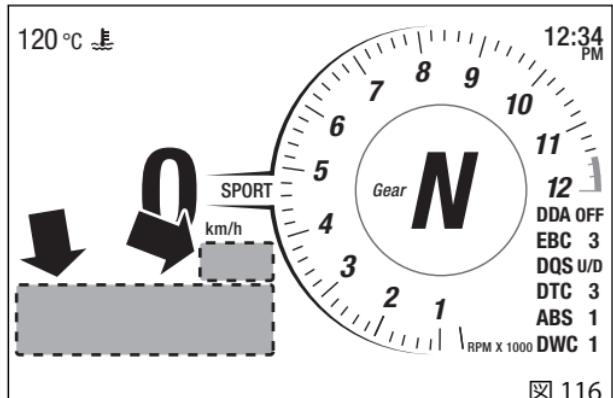


図 116

OIL SERVICE カウントダウン、ANNUAL SERVICE カウントダウン、DESMO SERVICE カウントダウン

サービスの設定期限が近づくと、車両を起動するたびに以下の表示が黄色で 5 秒間表示されます。

- OIL SERVICE カウントダウン (A) は、OIL SERVICE の実施まで残り 1,000 km (621 miles) になると起動します。
- ANNUAL SERVICE カウントダウン (B) は、ANNUAL SERVICE の実施まで残り 30 日になると起動します。
- DESMO SERVICE カウントダウン (C) は、DESMO SERVICE の実施まで残り 1,000 km (621 miles) になると起動します。

SETTING MENU 内の “Service” 機能から、サービス期限を表示することができます (“SETTING MENU - Service” の章をご覧ください)。

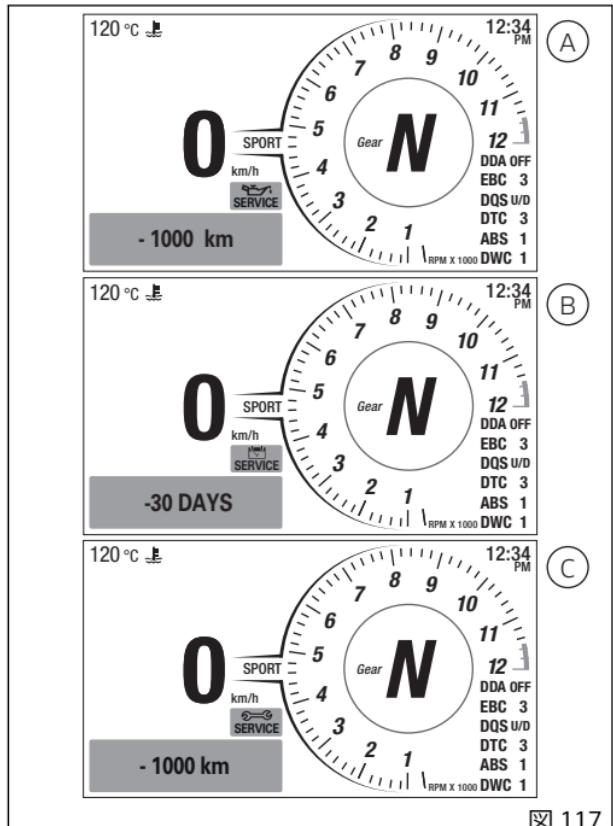


図 117

OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE

次のメンテナンス実施期限に達すると、必要なメンテナンスが通知されます。

- OIL SERVICE (A)
- ANNUAL SERVICE (B)
- DESMO SERVICE (C)

サービス表示は赤色で表示されます。その後 Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて "リセット" されるまで常時表示されます。

SETTING MENU 内の "Service" 機能から、サービス期限を表示することができます ("SETTING MENU - Service" の章をご覧ください)。

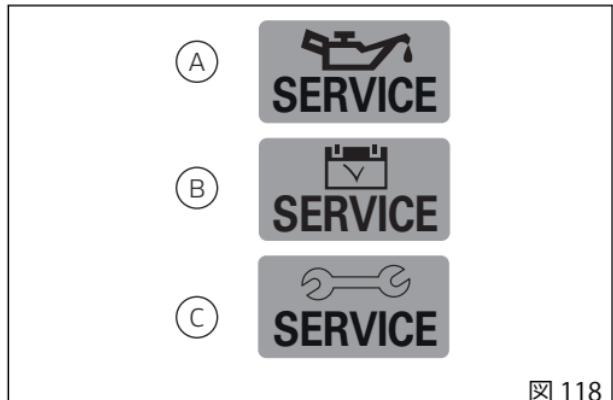


図 118

エラー表示

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。

車両をオンにした時にエラーがひとつでも検知されると、インストルメントパネルのディスプレイにMILランプ(A)(エンジンコントロールユニットに直接関連するエラー)、もしくは一般的エラー警告灯(B)(その他エラー全般)が点灯します。

車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルにはMILランプ(A)もしくは一般的エラー警告灯(B)が点灯します。

警告

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

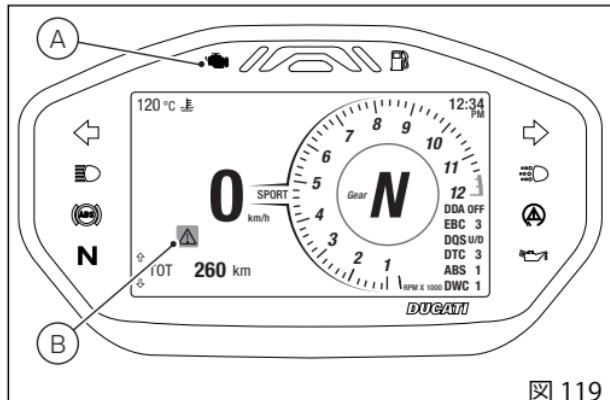


図 119

注意および警告

車両の使用中にユーザーに有用な情報を提供できるよう、インストルメントパネルは一連の注意と警告を管理します。

起動時に通知が存在する場合は、インストルメントパネルに警告またはアラームの表示が現れます。最初の5秒間は大きく表示され、その後小さく表示されます。複数の警告またはアラームが存在する場合は、3秒ごとに一つずつ順番に表示されます。

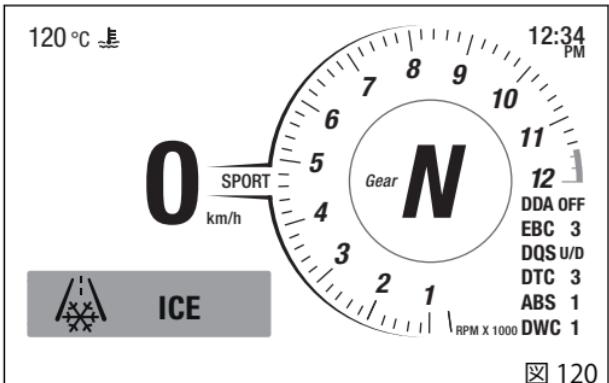


図 120

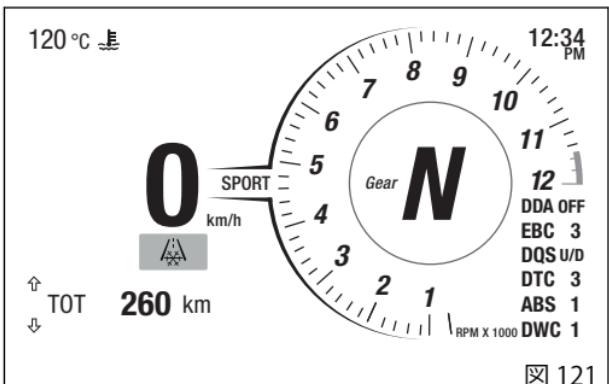


図 121

ICE (凍結)

この警告は、外気温が低いため路面凍結の危険があることを示します。

気温が 4° C (39° F)以下になると作動します。気温が 6° C (43° F)まで上ると警告は解除されます。



警告

この警告は、気温が 4° C (39° F)を超えている場合でも、凍結の可能性がないことを保証するものではありません。気温が低い時に日陰や橋の上を走行する際は、特に安全運転を心がけてください。



ICE



図 122

LOW BATTERY (バッテリー残量低下)

この警告は車両のバッテリー充電レベルが低下していることを示します。

バッテリー電圧が 11.0V 以下になると警告が表示されます。



警告が表示された場合は、専用機器を使用して早急にバッテリーの充電を行ってください。



図 123

INSERT DATE (日付を入力)

この警告は、SETTING MENU内の“Date and Clock”機能から日付を設定する必要があることを示します (“SETTING MENU - Date and Clock”的章をご覧ください)。

DDA FULL (DDA フル)

この警告は、DDAメモリーにこれ以上走行データを記録できることを示します (“SETTING MENU - DDA”的章をご覧ください)。

**INSERT
DATE**

**INSERT
DATE**

図 124

DDA FULL

**DDA
FULL**

図 125

ABS FRONT ONLY (ABS フロントのみ)

この警告は、ABS が前輪のブレーキングのみを制御する設定になっているため、運転には細心の注意を払う必要があることを示します。

警告

この場合、運転およびブレーキングに細心の注意を払うようにしてください。

NO KEY (キー不在)

この警告は、キーが認識できなかったことを示します。



図 126



図 127

キー

車両には2個のキーが付属しています。

キーには"イモビライザーシステムの暗号"が含まれています。

キーは通常時に使用し、以下の操作に必要です。

- 起動
- フィラープラグの開閉
- シートロックの解除

警告

キーは別々に保管し、車両を使用する際は2本のキーのどちらか一方を使用してください。

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducatiアシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。Ducatiアシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。Ducatiアシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。登録作業中に提示されなかつたキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくなるためです。

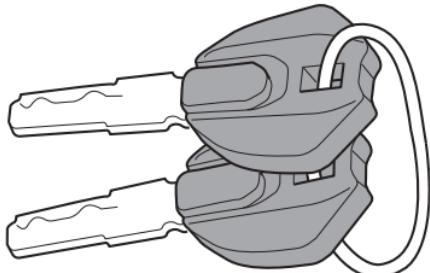


図 128



参考

車両の所有者を変更した場合は、必ず新規所有者にすべてのキーを譲渡してください。

イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをロックする電子システム(イモビライザー)が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。

各キーには電子装置が内蔵されており、スイッチ内に組み込まれた特殊アンテナが起動時に発する信号を変調します。

変調された信号は起動毎に異なる"パスワード"で構成され、これによってコントロールユニットはキーを識別します。正常に識別された場合にのみエンジンを始動することができます。

PIN CODE による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。

PIN CODE 機能が有効な場合は、インストルメントパネルに "Insert Pin" の文字と 4 枠の PIN CODE 入力スペース "0" と "—" が表示されます。

コードの入力：

- UP ボタン、DOWN ボタンを押すと、数字が "0"～"9" の間で 1 ずつ増減します。
- ENTER ボタンを押して数字を決定し、次の枠に移動します。
- 同じ方法で 4 枠すべてを入力します。

4 枠目を入力してから ENTER ボタンを押すと、以下のようになります。

- PIN CODE の検証中に問題が発生した場合は、インストルメントパネルに "Error" の文字が 2 秒間表示され、その後スタンダードスクリーンに戻ります。
- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "Wrong" を 2 秒間表示します。その後、前の画面に戻り、もう一度コードを入力することができます。

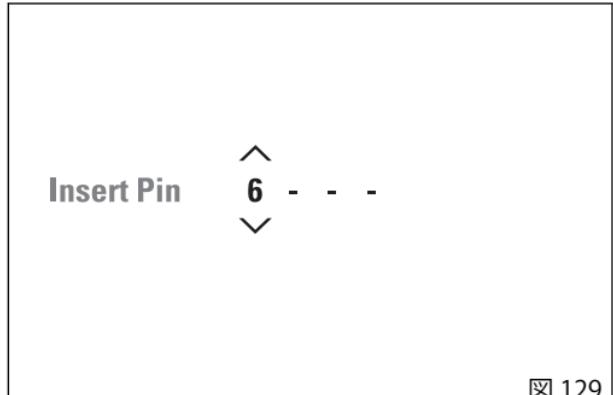


図 129

- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "Correct" を 2 秒間表示し、その後画面はスタンダードスクリーンに戻ります。



重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置

⚠ 警告

この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

- 1) インストルメントパネル
- 2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
- 3) 左側スイッチ
- 4) クラッチレバー
- 5) 右側スイッチ
- 6) スロットルグリップ
- 7) フロントブレーキレバー
- 8) リアブレーキペダル
- 9) ギアチェンジペダル

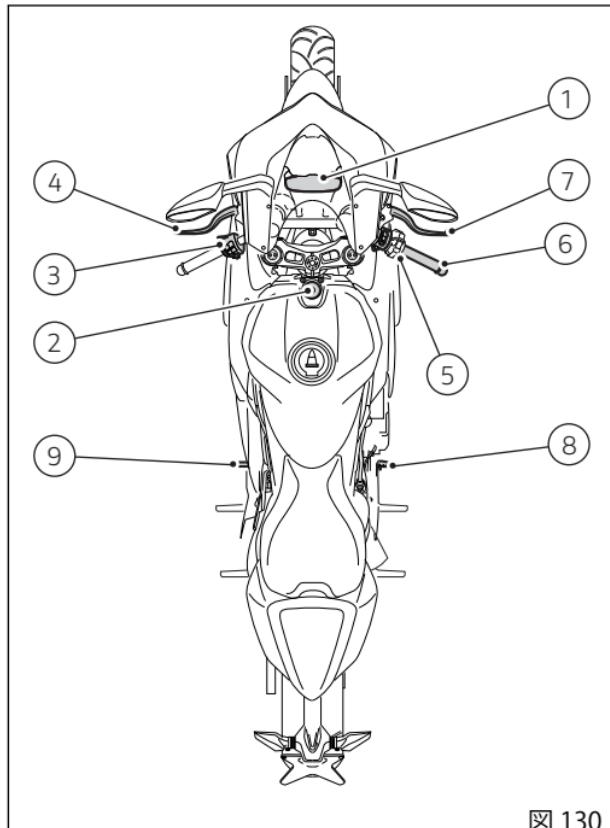


図 130

イグニッションスイッチ / ステアリングロック

燃料タンクの前にあり、3つのポジションがあります。

- A) ON : エンジンおよびランプを ON にする
- B) OFF : エンジンおよびランプを OFF にする
- C) LOCK : ステアリングロック状態

参考

キーを最後のポジションに合わせるには、キーを押してから回してください。(B)、(C) の位置でキーを引き抜くことができます。

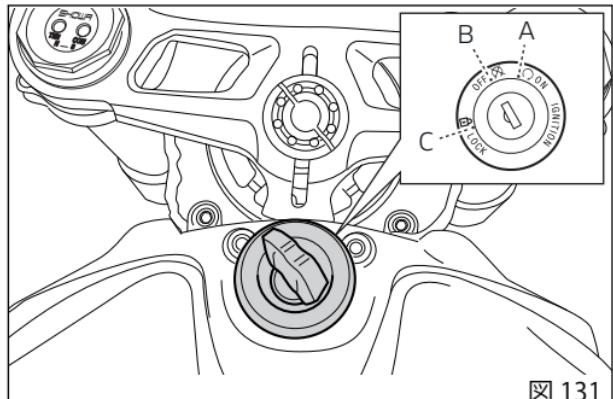


図 131

ハンドルバー左側スイッチ

- 1) ディマースイッチ、ビームの選択、2ポジション：
ポジション  = ロービームランプ点灯 (A)
ポジション  = ハイビームランプ点灯 (B)
- 2) ボタン  = フラッシャー (FLASH) およびインストルメントパネルコントロール (C)。
- 3) インストルメントパネルコントロールボタン、ポジション UP "▲" とポジション DOWN "▼"
- 4) ボタン  = 3ポジション、ターンインジケーター一ポタン：
中央 = OFF
ポジション  = 左折
ポジション  = 右折
ターンインジケーターを解除するには、中央に戻ってからコマンドボタンを押します。
- 5) ボタン  = 警告ホーン

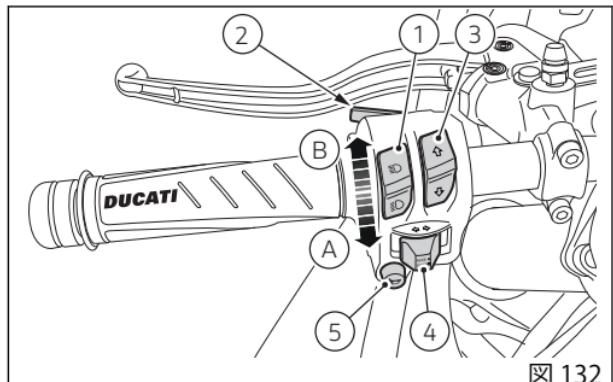


図 132

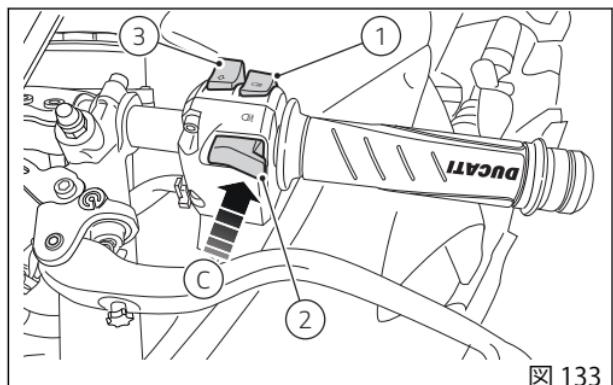


図 133

クラッチレバー

レバー(1)でクラッチの接続を操作します。レバーにはアジャスター(2)がついており、レバーとグリップとの間隔を調整することができます。レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。時計方向に回すとレバーはグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。レバー(1)を操作すると、エンジンの回転がトランスマッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。



警告

クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。



重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスマッションの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

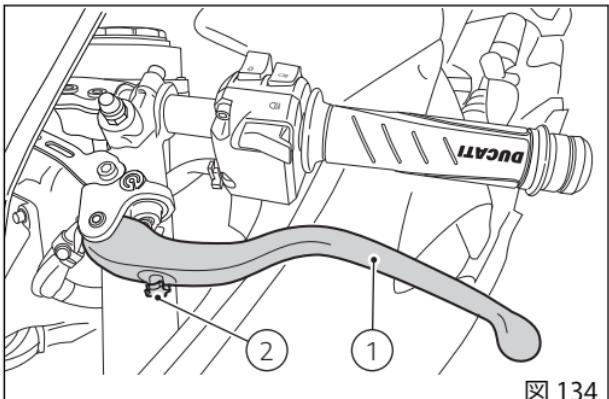


図 134



参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

ハンドルバー右側スイッチ

1) ON/OFF 赤色スイッチ。

2) DRL ボタン。

3) ハザードボタン。

スイッチ (1) には 3 つのポジションがあります。

上側位置：エンジンの停止

中央位置：エンジンを ON にする

下に押す：エンジンの始動

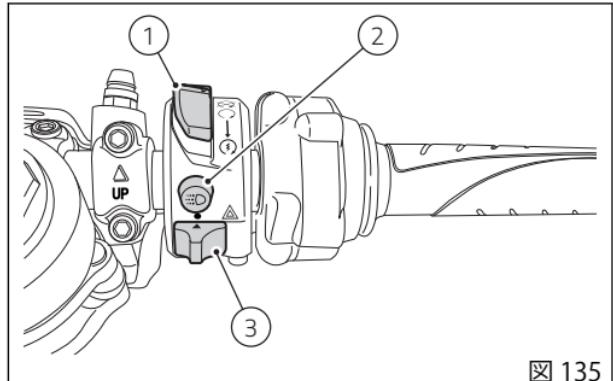


図 135

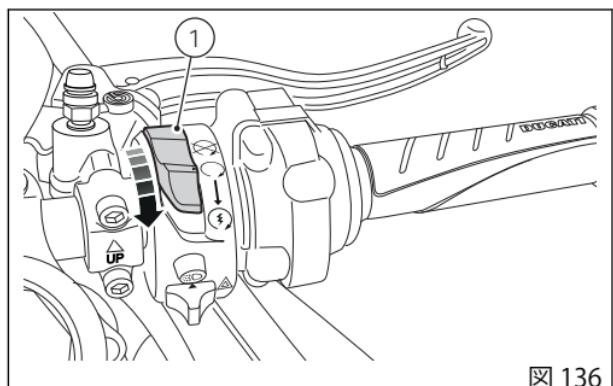


図 136

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ(1)は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。グリップを離すと、自動的に元の位置(アイドリング状態)に戻ります。

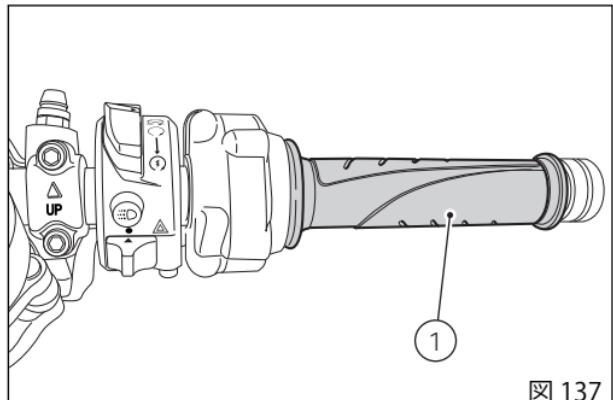


図 137

フロントブレーキレバー

レバー(1)をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。

コントロールレバー(1)にはアジャスター(2)が付いており、レバーとグリップとの間隔が調整することができます。

レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

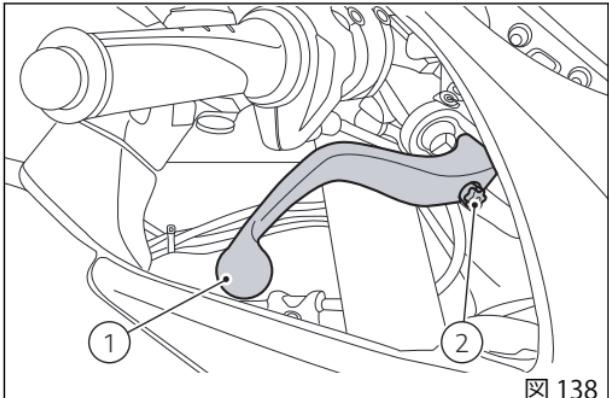


図 138

リアブレーキペダル

リアブレーキをかけるには、ペダル(1)を足で下に押してください。

制御システムは油圧式です。

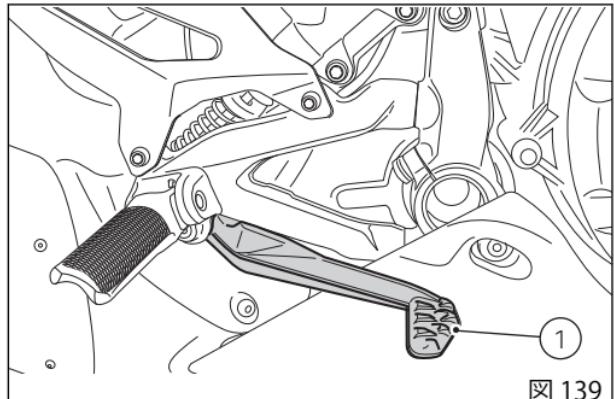


図 139

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルは一速ギアと二速ギア間にある中央のニュートラルポジションNに自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのランプNで表示されます。

ペダルは次のように動かせます。

- 下へ=シフトダウンおよび1速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプNが消えます。
- 上へ=ペダルを上へ上げることで、2速から順次3速、4速、5速、6速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

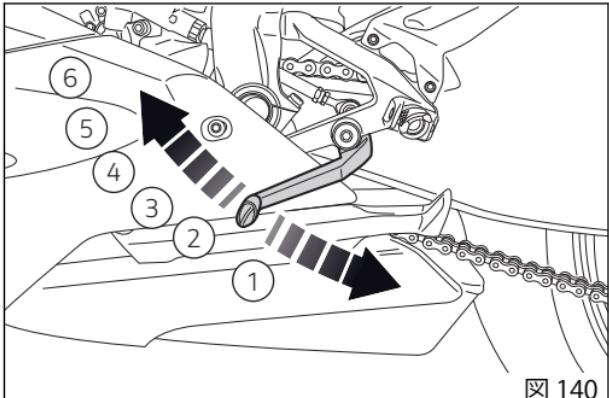


図 140

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。これらの調整は以下の手順で行ってください。

ギアチェンジペダル

ロッド(1)を所定のキーソケット(A)で固定し、ナット(2)を緩めます。

ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、スパナでロッド(1)の六角部分を回します。

ロッドにナット(2)を締め付けます。

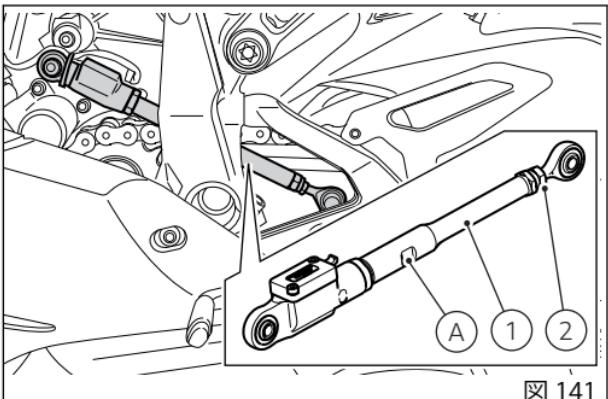


図 141

リアブレーキペダル

ロックナット(4)を緩めます。

ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー(3)を回します。ロックナット(4)を締め付けます。

ペダル(5)を手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約1.5~2 mmの遊びがあるかを確認します。上記のような遊びが確認できない場合は、マスターシリンダーのロッドの長さを調整します。



警告

ペダルの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

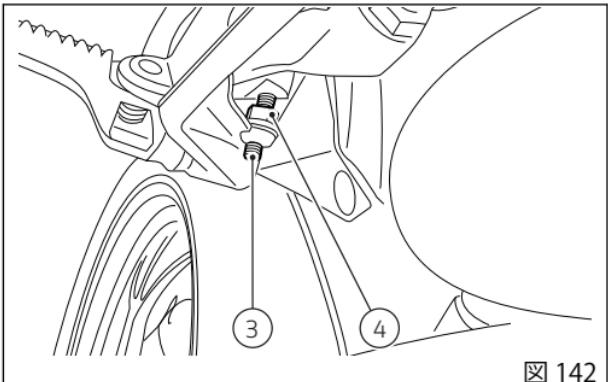


図 142

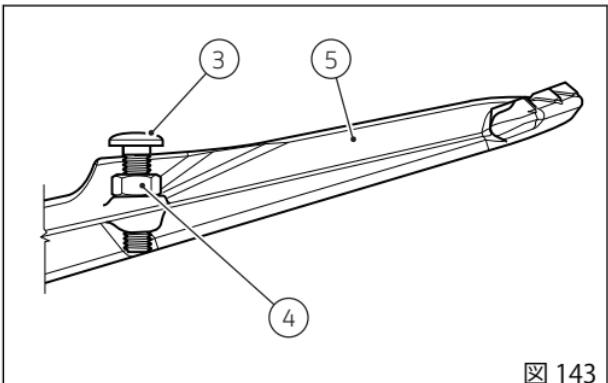


図 143

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

- 1) フィラープラグ
- 2) シートロック
- 3) サイドスタンド
- 4) リアビューミラー
- 5) フロントフォークアジャスター
- 6) リアショックアブソーバーアジャスター
- 7) 触媒コンバーター
- 8) エキゾーストサイレンサー

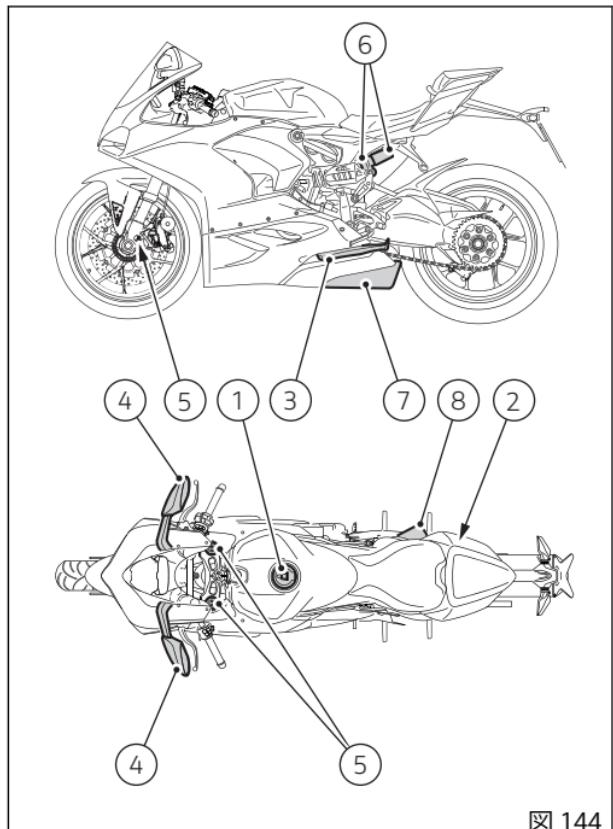


図 144

燃料フィラープラグ

開け方

- 保護カバー(1)を持ち上げ、キーをロックに挿入します。
- キーを時計回りに1/4回転させ、ロックを解除します。
- フィラープラグ(2)を起こします。

閉じ方

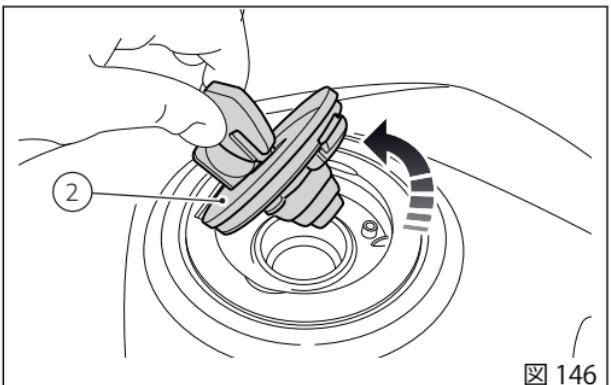
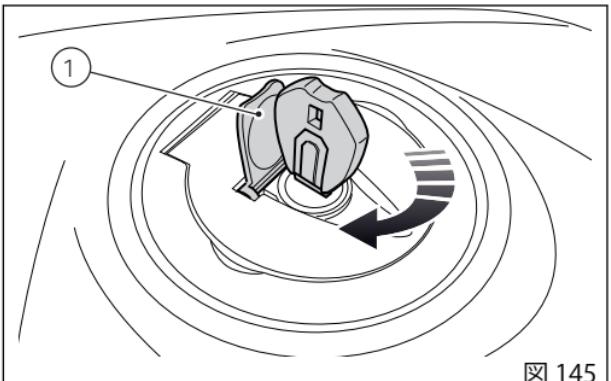
- キーを差し込んだ状態でプラグ(2)を閉じ、プラグを押します。
- キーを抜き取り、保護カバー(1)を閉じます。

参考

キーが挿入された状態でのみキャップを開めることができます。

警告

燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。



シートの取り外しおよび取り付け

鍵穴(1)を操作してパッセンジャーシート(2)を取り外し、テールボックスを利用できます。

パッセンジャーシートの取り外し

- 鍵穴(1)にキーを差し込みます。
- カチッと音が鳴りパッセンジャーシート(2)のロックが外れるまで、キーを左に回します。
- パッセンジャーシート(2)を車両の前方に抜き取ります。

パッセンジャーシートの取り付け

- パッセンジャーシート(2)の取り付けを行う前に、パッセンジャーベルト(3)が正しい位置にあることを確認してください。
- パッセンジャーシート(2)を、車両前側(A)からカチッとロックの音が鳴るまで後方(B)にスライドさせてください。



シートカバーを閉じる際は、車両前側からシートカバーを挿入し、カチッとロックの音が鳴るまで後方にスライドさせてください。

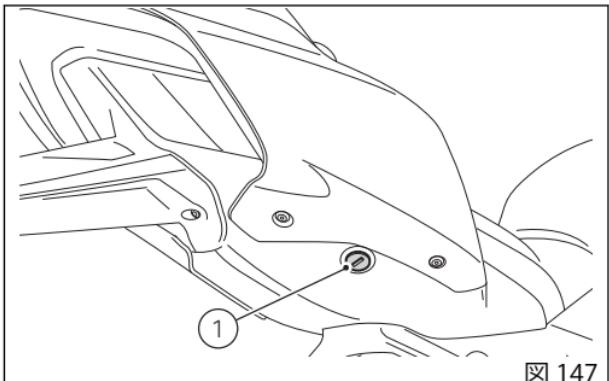


図 147

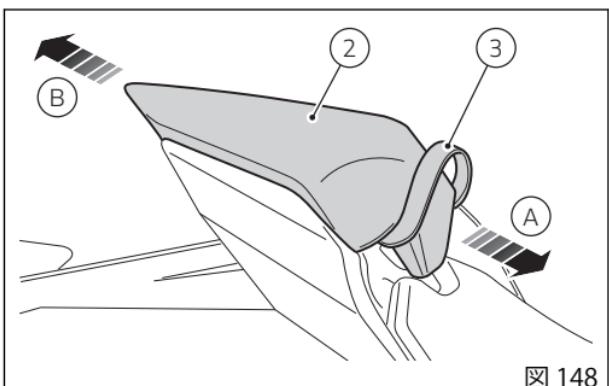


図 148

ライダーシートの取り外し

- テールボックスに付属の六角棒レンチを使用して、ライダーシート(5)の両側にある2本のスクリュー(4)を緩めて外します。
- 車両の後方からシートを抜き取ります。

ライダーシートの取り付け

- ライダーシート(5)をまず車両の前方から挿入し、次に後方に載せて取り付けます。
- シートの後端を持ち上げ、スクリュー(4)を締め付けて固定します。
- ライダーシートの前部を持ち上げてみて、正しく取り付けられていることを確認してください。

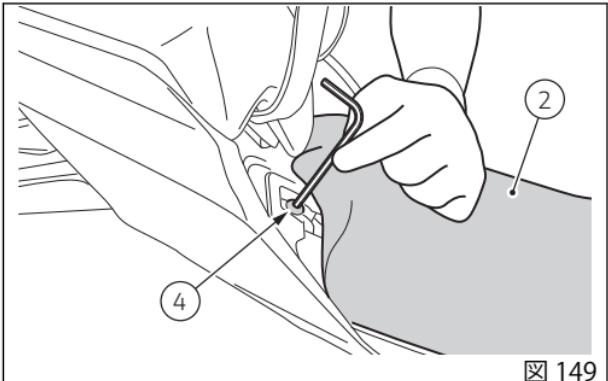


図 149

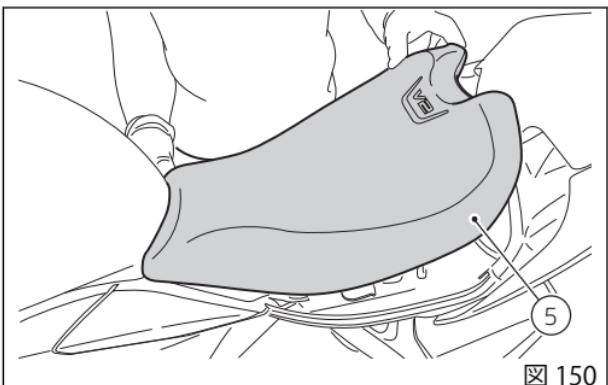


図 150

サイドスタンド



重要

短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなつたアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。

サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック(1)を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。

サイドスタンドを元の位置（水平位置）に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム(1)を持ち上げます。

サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。



警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

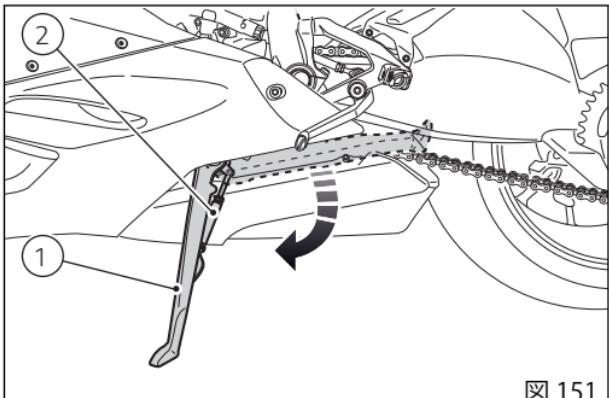


図 151



参考

定期的にスタンド（内側と外側2つのスプリングの状態）と安全センサー(2)の作動を点検することをお勧めします。



参考

スタンドが上がり、ギアがニュートラルの位置にある状態でエンジンを始動させることができます。

Bluetooth コントロールユニット

車両にはBluetoothコントロールユニットを装備することができます。これによりBluetoothに対応する電子機器間での通信が可能になります。

Bluetoothコントロールユニットは本車両に装備されおりません。Bluetoothコントロールユニットは、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターでお買い求めいただけます。

!**警告**

Bluetoothヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります(スマートフォン、ヘッドセット)。

!**警告**

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更がBluetoothヘッドセット(音楽共有、マルチメディア再生など)の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン(Bluetooth対応プロファイルによる)に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット(部品番号: 981029498)"に付属しないヘッドセット。
- 必要なBluetoothプロファイルに対応していないスマートフォン("Ducati キット 部品番号: 981029498"に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも)

!**警告**

外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット(部品番号: 981029498)ではライダーヘルメットからパッセンジャーへルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます(詳しくはDucati キット(部品番号: 981029498)に付属のヘッドセット取扱説明書を参照)。



参考

Ducati キット (部品番号 : 981029498) は、
Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお
求めいただけます。

スマートフォン本体が以下のプロフィールをサポート
していることを確認します。

- MAP プロフィール : SMS および MMS 受信通知を
正しく表示する。
- PBAP プロフィール : スマートフォンの電話帳デ
ータを正しく表示する。



警告

以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナ
ビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに
正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット



参考

上記Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーま
たはサービスセンターにてお求めいただけます。

ステアリングダンパー

ハンドルレバーの前にあり、ステアリングヘッドに固定されています。

このダンパーがステアリングのより正確で安定した操作に貢献し、あらゆるコンディションでの操縦性をアップします。

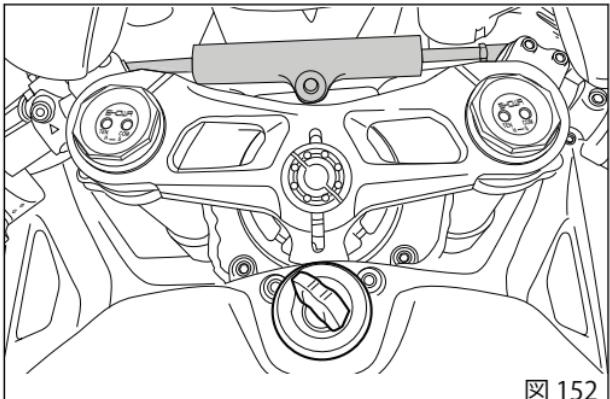


図 152

フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンドダンピング(リターン)、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。

調整はアジャスターを使用して行います。

- 1) リバウンドダンピングの調整 (1)
- 2) コンプレッションダンピングの調整 (2)
- 3) スプリングプリロード調整 (3)

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。

リバウンドダンピングを調整するには、各フォークレッグの先端にあるアジャスター(1)をマイナスドライバーで回します。

マイナスドライバーでそれぞれのフォークレッグの先端にあるアジャスター(2)を回転させ、コンプレッションダンピングを調整します。

アジャスタースクリューをいっぱいに締め込むと "0" 位置(すべて閉じた位置)になり、ダンピングが最強にセットされます。

各レッグのスプリングプリロードを調整するには、六角形のアジャスター(3)をすべて開いた位置から六角レンチで回します(反時計回り)。

標準設定：

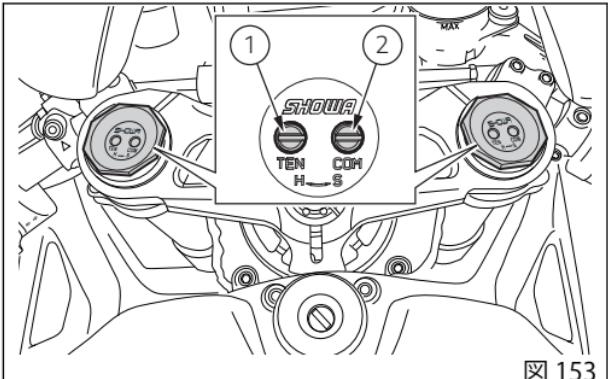


図 153

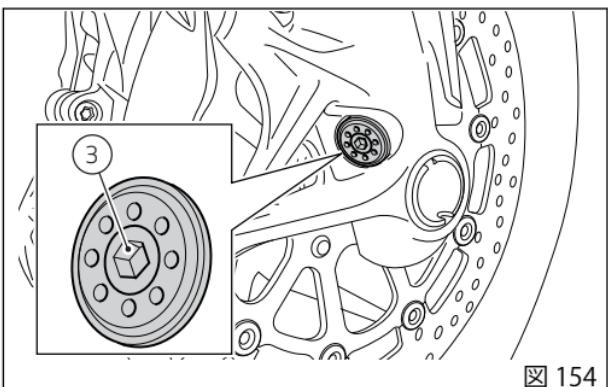


図 154

- リバウンド：両側のレッグで、すべて閉じた位置から反時計回りに 5.5 回転開く
- コンプレッション：両側のレッグで、すべて閉じた位置から反時計回りに 7 回転開く
- スプリングプリロード：すべて開いた位置から 7 回転。

サーキット走行時の推奨設定：

- リバウンド：両側のレッグで、すべて閉じた位置から反時計回りに 2.5 回転開く
- コンプレッション：両側のレッグで、すべて閉じた位置から反時計回りに 1 回転開きます
- スプリングプリロード：すべて開いた位置から 6 回転。



警告

アジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整してください。

リアショックアブソーバーの調整

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアジャスターを装備しています。クランクケースにフロントショックアブソーバーを固定している位置にあるアジャスター(1)は、リバウンドダンピング(リターン)を調整します。

ショックアブソーバーのリザーバータンクにあるアジャスター(2)は、コンプレッションダンピングを調整します。

リングナット(3)はショックアブソーバーのスプリングプリロードを調整します。

スプリングプリロードを変更するには、上部固定リングナットを緩めます。下部リングナットを締める、または緩めることでプリロードの強弱を調整します。希望のプリロードに調整したら、上部固定リングナットを締め付けます。

アジャスター(1)、(2)を時計回りに最後まで回すと、完全に閉じた状態になります。

標準設定：

- リバウンド(1)：すべて閉じた位置から反時計回りに13 クリック開く
- コンプレッション(2)：すべて閉じた位置から反時計回りに2.5 回転開く
- スプリングプリロード：スプリングを完全に緩めた状態から 14 mm (0.55 in)

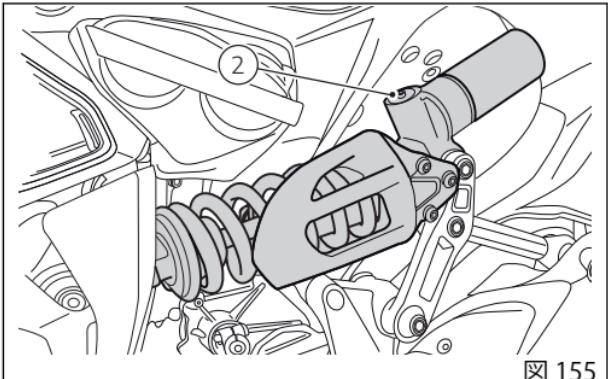


図 155

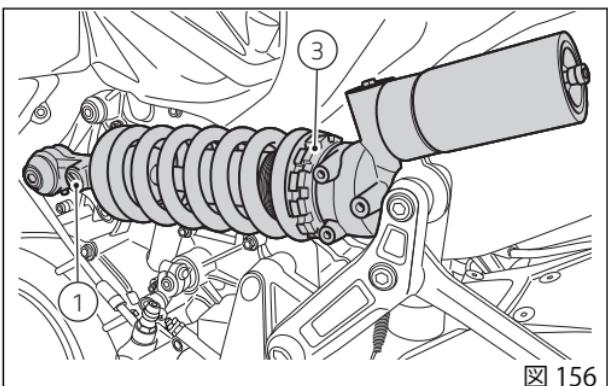


図 156

サーキット走行時の推奨設定：

- リバウンド(1)：すべて閉じた位置から反時計回りに8クリック開く
- コンプレッション(2)：すべて閉じた位置から反時計回りに2回転開く
- スプリングプリロード：スプリングを完全に緩めた状態から 14 mm (0.55 in)



警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

パッセンジャーと荷物を載せる場合は、リアショックアブソーバーのスプリングプリロードを最大に調整してください。これによりハンドリングを向上させ、車両が地面に接触するのを防ぎます。この場合、リバウンドダンピングの再調整が必要になることがあります。

販売されている車両の調整(前の章に記載されている標準調整)は、ストリートでの競技使用において最高のパフォーマンスを得られるよう、すべての使用条件(ライディング条件、ユーザーの能力およびニーズ)を考慮した調整に相当します。

運転の方法

慣らし運転の方法

エンジン最高許容回転数

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最高許容回転数：

- 1) 1,000 km (621 mi) まで
- 2) 1,000 km (621 mi) ~ 2,500 km (1,553 mi)

1,000 km (621 mi) まで

最初の 1,000 km (621.37 mi) まではタコメーターに注意し、5,500~6,000 回転 (rpm) を超えてはいけません。

最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。

最初の 100 km (62 mi) は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、

急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。

定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。



重要

走行距離が最初の 1000 km (621 mi)までの間(慣らし運転期間)、すなわちオドメーターが 1000 km (621 mi) 以下の値を表示している期間は、6000 rpm に達するとディスプレイにはオレンジ色で表示される予告ゾーン(オレンジゾーン)が棒グラフの目盛りとそれに相当する数字で表示されます。慣らし運転期間中はエンジン回転数を 6000 rpm 以下に維持すること、すなわちインストルメントパネルに棒グラフの "オレンジゾーン" が表示されないようにすることが推奨されます。

1,000 ~ 2,500 Km (621 ~ 1,553 mi)

エンジンからよりパワーを引き出すことは可能ですが、7,000 rpmを決して超えないようにしてください。

重要

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーター・ホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

走行前の点検事項



警告

走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量

タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください ("燃料の補給" をご覧ください)。

- エンジンオイル量

点検窓からオイルパン内のレベルを点検します。必要であれば補充してください ("エンジンオイルレベルの点検" をご覧ください)。

- ブレーキおよびクラッチフルード量

各フルードタンクのフルードレベルを点検してください ("ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検" をご覧ください)。

- クーラント量

リザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。必要であれば補充してください ("クーラントレベルの点検および補充" をご覧ください)。

- タイヤコンディション

タイヤ空気圧と摩耗度を点検します ("チューブレスタイヤ" をご覧ください)。

- コマンド機能

ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。

- ランプ類、インジケーター

ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合は交換してください ("ヘッドライト電球の交換" をご覧ください)。

- ロック類

フィラープラグのロックを点検します ("燃料フィラープラグ" をご覧ください)。

- サイドスタンド

サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します ("サイドスタンド" をご覧ください)。



警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

エンジンウォーターポンプが正常に作動するためにはベントを必要とします。そのため、クランクケース上部のベント穴から微量の冷却液が漏れることがあります。

すが、冷却システムやエンジン自体の正常な動作に影響を及ぼすことはありません。

ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプは点灯し続けます。

走行速度が 5 km/h (3 mph) を越えた時点でランプが消灯して、ABS システムが正常に作動していることを示します。



警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

ABS 装置

フロントフォニックホイール(1)とリアフォニックホイール(2)が汚れていないことを確認します。



警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時にはABSシステムがうまく機能しない場合があります。システムをOFFにしておくことをお勧めします。



警告

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。

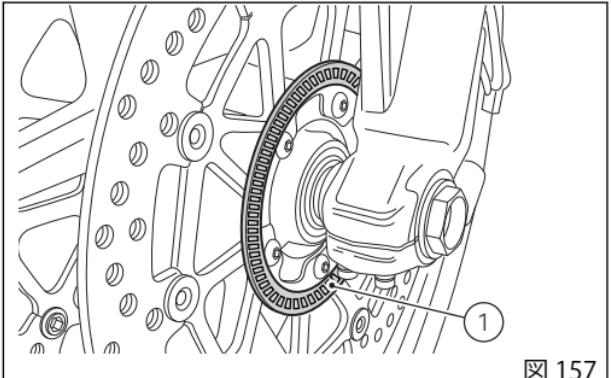


図 157

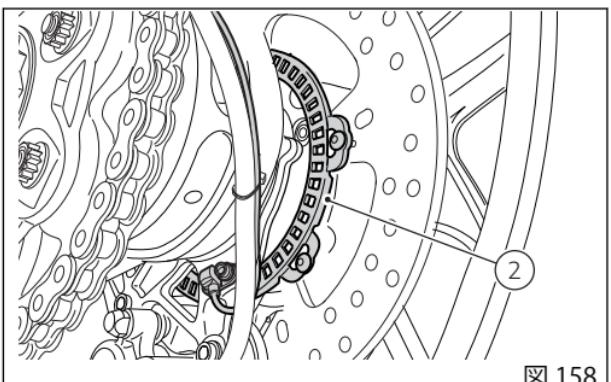


図 158

エンジンの始動



警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。



警告

屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

イグニッションスイッチをポジション(B)に動かします。インストルメントパネルの緑のランプN(C)と赤色ランプ(△)(D)が点灯していることを確認してください。



重要

オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。

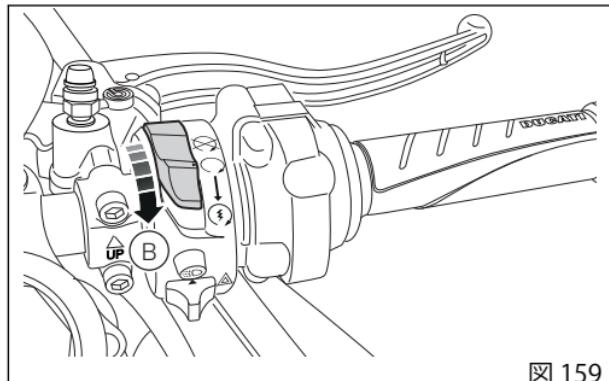


図 159

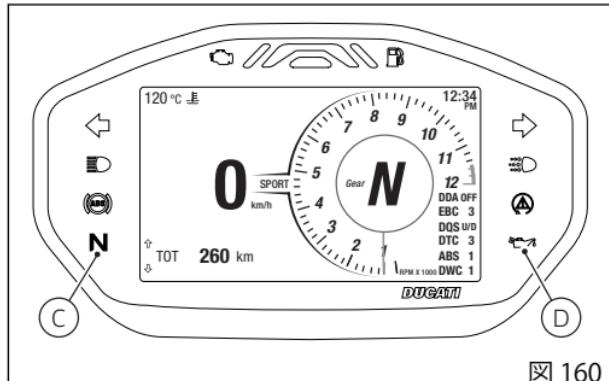


図 160

⚠ 警告

サイドスタンドが完全に上げられて(水平)いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていないければなりません)。

非常用起動/停止スイッチがポジション(A) ⓠ (RUN)にあることを確認してください。

スイッチを下(B)に押して放します。

スロットルコントロールを操作せず、車両が自然に起動するまで待ちます。

参考

バッテリーが上がっている場合、システムは自動的にスターターモーターの起動を停止します。

重要

エンジン冷間時は回転数を上げすぎないください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

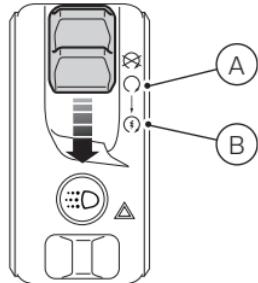


図 161

車両の発進

- 1) クラッチレバーを引いてクラッチを切れます。
- 2) ギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを1速に入れます。
- 3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと車両は発進し始めます。
- 4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
- 5) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。

これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けてください。



警告

急な加速操作は、オーバーフローやトランスマッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。



警告

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム(ABS)は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABSは電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントローラユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントローラユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロックのリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返します。ブレーキング時ABSが作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗を感じられます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、ABSもフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながら1速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。

ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。

エンジンを停止するには、キーを OFF 位置に回します。“イグニッションスイッチとステアリングロック”をご覧ください。

パーキング

停止車両をサイドスタンドで支えて駐車します。盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーをLOCK位置に回します。

車両をガレージやその他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認してください。

重要

 監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないでください。

警告

 エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告

 発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック(ディスクロック、リアスプロケットロック等)は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーの安全をも損なうおそれがあります。

燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグが収まる給油口より低くなければなりません。

警告

極端な場合には、キャップを開ける時にタンク内の圧力によって燃料が噴き出る可能性があります。

キャップを開ける時は十分注意して、ゆっくりと開けるようにしてください。

キャップを開けている時にシューという音が聞こいたら、音が聞こえなくなるのを待ってからキャップを完全に開けてください。

このノイズは燃料タンク内の圧力が外に逃げている時に鳴る音です。音がしなくなったということは、残っていた圧力が完全に外へ逃げたことを意味します。上記のような状況は、特に暑い気候の時に起こりやすくなります。

警告

オクタン価が95以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。

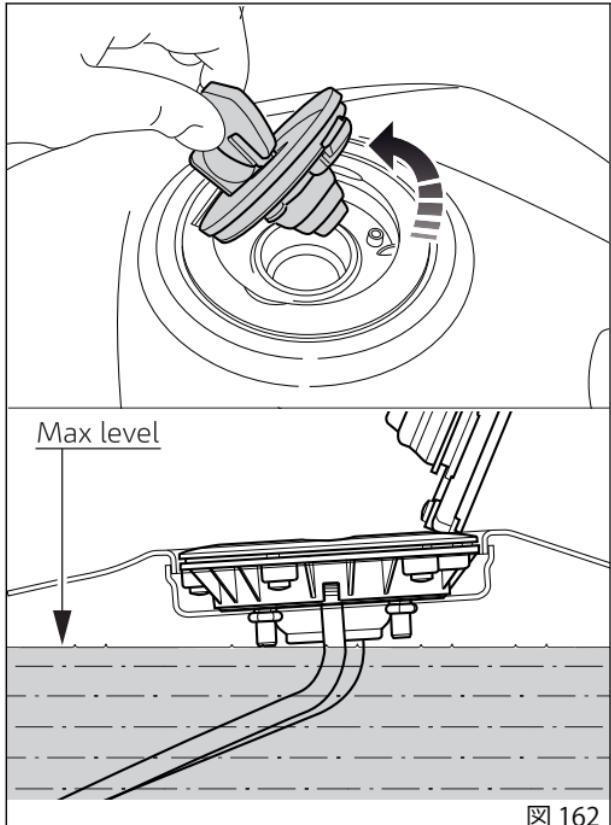


図 162



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

付属アクセサリー

パッセンジャーシート下に設けられている小物入れスペースには、付属のL型六角棒レンチ(1) 4 mm (0.16 in)が収納されています。

シート下のスペースを利用するには、"シートの取り外しおよび取り付け"の章を参照しながら、パッセンジャーシートを取り外す必要があります。

以下の付属部品の取り付けは、必ず Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。
- パッセンジャーシート
- 左右リアフットペグ

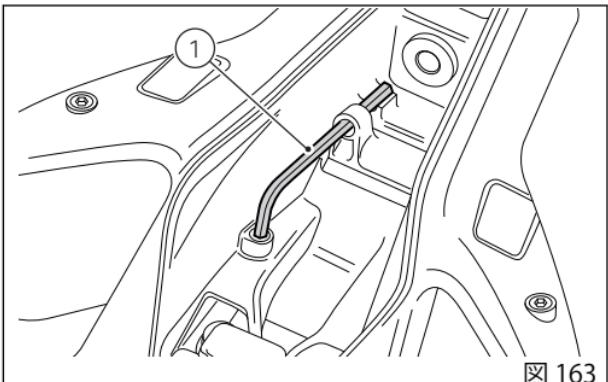


図 163

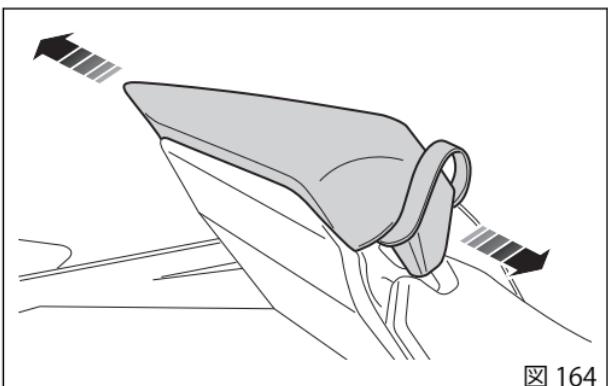


図 164

主な整備作業とメンテナンス

フェアリングの取り外し

メンテナンスまたは修理作業を実施するために、モーターサイクルのいくつかのフェアリング部品を外すことがあります。

警告

取り外した部品を再度取り付けていなかったり、正しく取り付けられていないと、走行中に突然外れ、車両の制御がきかなくなるおそれがあります。

重要

ヘッドライトフェアリングの塗装済み部品およびウインドスクリーンを破損しないよう、取り付けの際には必ずナイロンワッシャーを固定スクリューの位置に合わせて配置してください。

重要

フェアリングの取り外し作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

クーラントレベルの点検および補充

フロントホイールのスペースから内側の点検用開口部から、車両右側にあるリザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。

クーラントレベルがリザーバータンク脇にある MIN (1) 及び MAX (2) の目盛の間にあることを確認します。クーラントレベルが MIN より下の場合は補充します。

!**警告**

この作業はエンジン冷間時に、水平な場所で車両を垂直に立てた状態で実施してください。

!**重要**

クーラントの補充は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

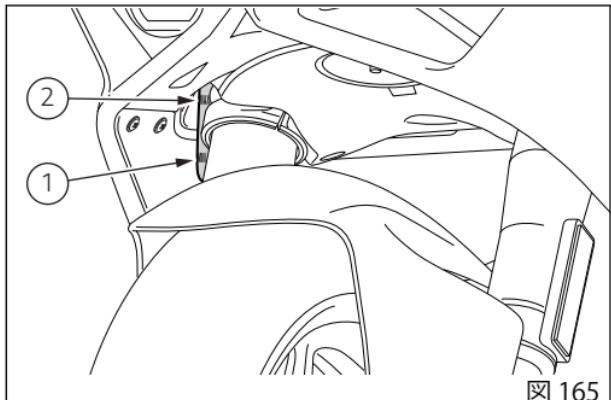


図 165

ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検

ブレーキ/クラッチフルードのレベルは、絶対に各リザーバータンクの MIN 目盛以下になってはいけません。

フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。

また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。



警告

ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えるので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。

これらの液体は腐食性での損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

クラッチシステム

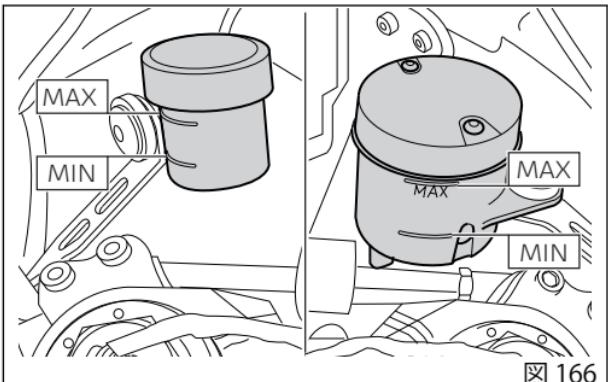


図 166

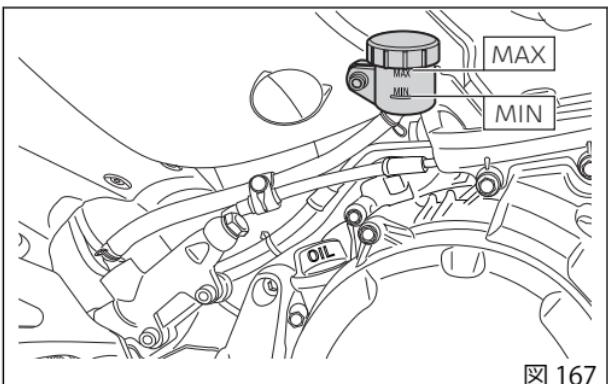


図 167

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際にエンジンがノッキングしたり止まったりする時は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検とエア抜きを行う必要があるため、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください(最低レベル上3mm (0.12 in))。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。どちらか片方でもパッドの厚さが約 1 mm (0.04 in) になっている場合は、両方のパッドを交換します。



警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。



重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

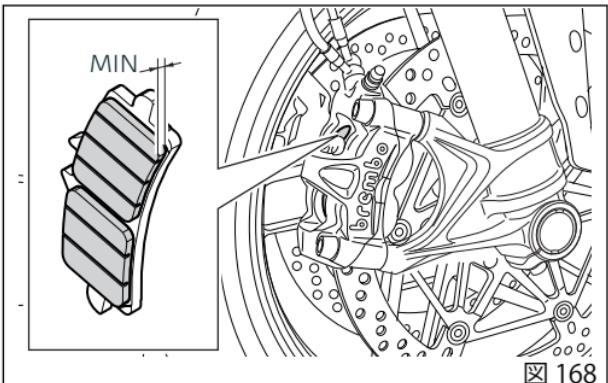


図 168

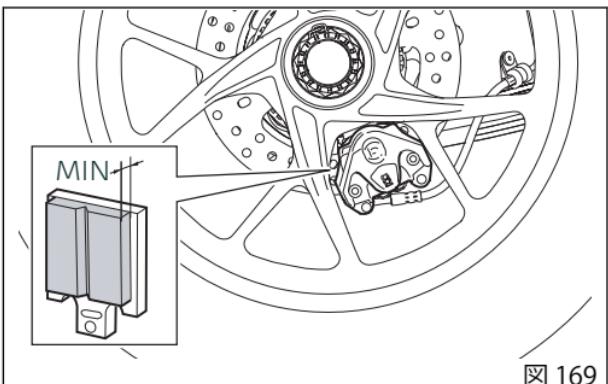


図 169

バッテリーの充電

バッテリーを充電する際は、バッテリーを車両から取り外してください。

バッテリーの取り外し

- 左側フェアリングを取り外します。
- スクリュー(1)を緩め、バッテリー固定力バー(2)を取り外します。
- バッテリー(3)を取り付け位置から抜き取ります。
- 必ずマイナス極(-)からスタートし、スクリュー(4)を緩めます。
- マイナス極からマイナスケーブル(7)とエンジンアースケーブル(8)を取り外します。
- プラス極からプラス極ケーブル(5)とABSプラスケーブル(6)を取り外します。

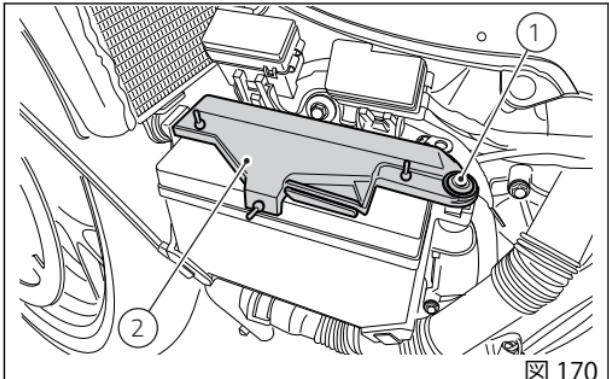


図 170

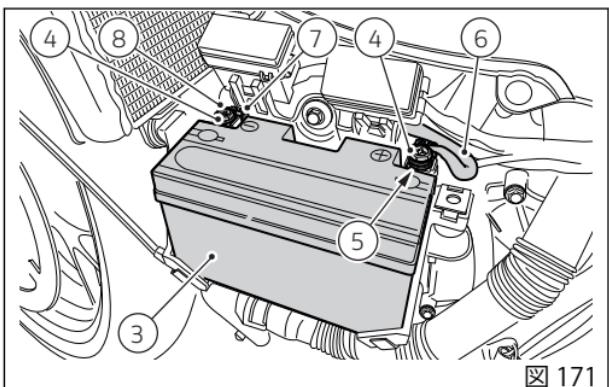


図 171

バッテリーの充電

- 端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス(+)、黒い端子がマイナス(-)です。
- バッテリーを0.9Aで5~10時間充電します。

!**警告**

バッテリーは爆発性のガスを発生させます。熱源から遠ざけてください。

!**警告**

バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

!**重要**

バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス(+)端子から行ってください。

!**警告**

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

バッテリーの取り付け

- ABS システムのプラスケーブル (6) をプラスケーブル(5)の上に置き、スクリュー(4)をその上に差し込みます。

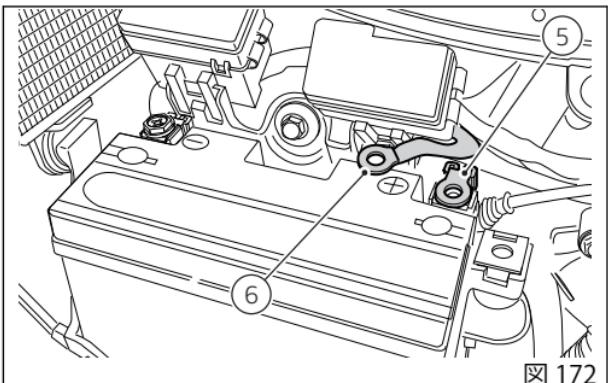


図 172

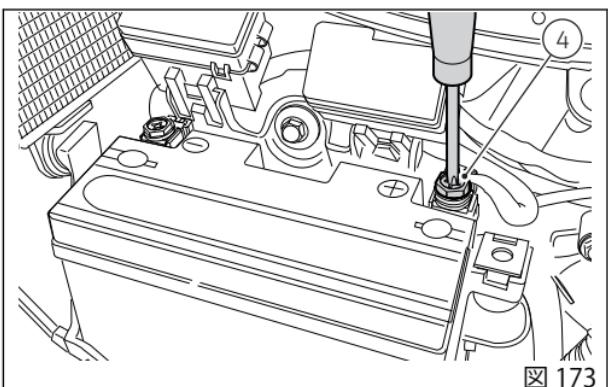


図 173

- エンジンアースケーブル(8)をマイナスケーブル(7)の上に置き、スクリュー(4)をその上に差し込みます。
- 電極のスクリュー(4)を締め付けます。
- 酸化を防ぐためにバッテリー電極周辺にグリースを塗布します。
- ケーブルを(図171)に示すように向け、バッテリー(3)をマウントに配置します。
- バッテリー固定カバー(2)を取り付け、スクリュー(1)を締め付けてカバーを固定します。
- 左側フェアリングを取り付けます。

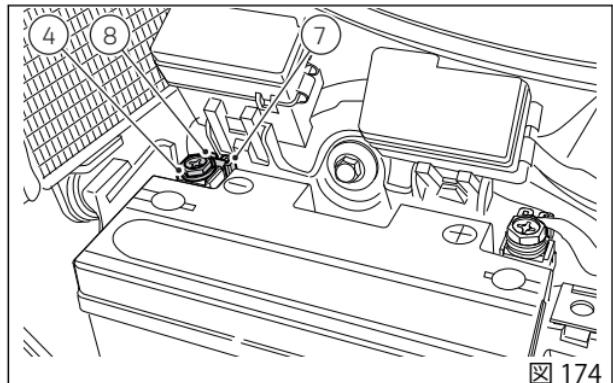


図 174

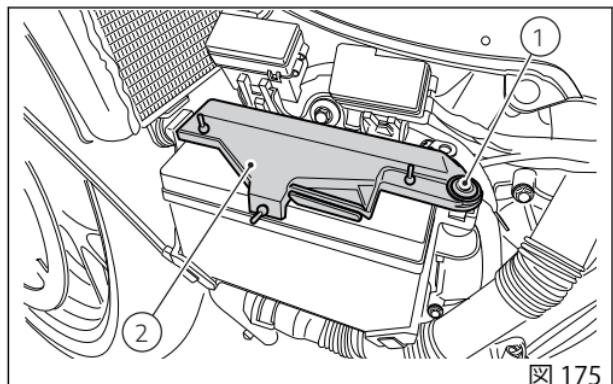


図 175

冬季のバッテリー充電およびメンテナンス



警告

本車両のエレクトリカルシステムは、エンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は車両を使用していない期間や環境条件によって変化します。

バッテリー充電器/メンテナーを使用してバッテリー電圧の最小値が維持されず電圧値が8Vを下回ると、バッテリーが影響を受けるおそれがあります。

コネクター(1)はライダーシート(2)下、車両左側に設けられています。

作業を行うには、両側から2本のスクリュー(3)を外してライダーシート(2)を取り外してください。

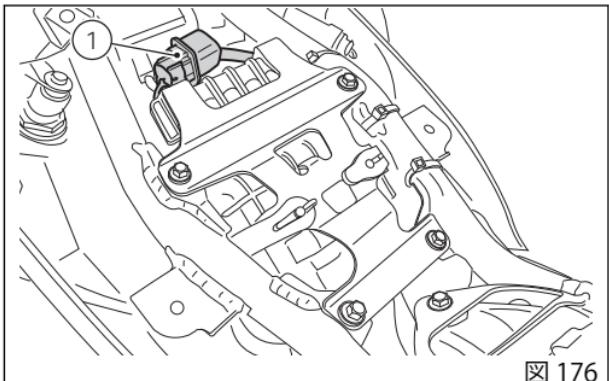


図 176

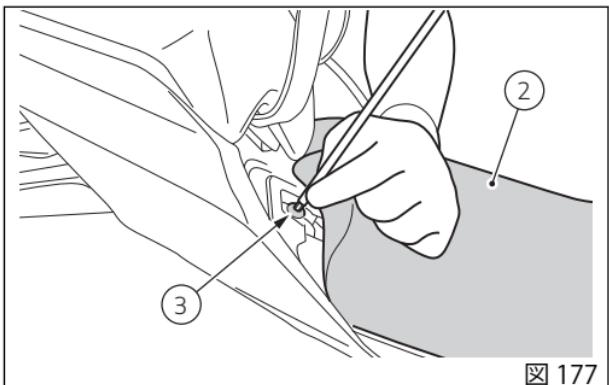


図 177

!**警告**

バッテリーメンテナーとして使用する場合にも、必ずドゥカティ純正リチウム電池用バッテリー充電器(A)を使用してください。

バッテリーメンテナーキット(部品番号: 69924601A(各国)またはバッテリーメンテナーキット(部品番号: 69924601AX(日本、中国、オーストラリア))は鉛バッテリー専用ですので、絶対に使用しないでください。

メンテナーを車両後部にある診断ソケットに接続します。

必ずドゥカティ純正リチウム電池用バッテリー充電器(A)を使用してください。

!**参考**

Ducati純正リチウム電池用バッテリー充電器以外のバッテリーメンテナーや充電器を使用すると、車両のエレクトリカルシステムやリチウムバッテリーに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。

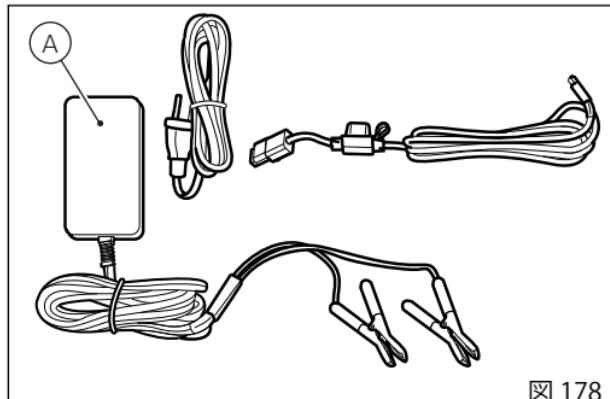


図 178

!**重要**

リチウム電池を搭載する車両については、エンジンを始動できないレベルまでリチウム電池が放電した場合に、ジャンプスターター やリチウム電池に並列に接続する補助バッテリーなどの装置は絶対に使用しないでください。ジャンプスターとの接続や充電されたバッテリーとの並列接続などのように無制限の電流で充電すると、深放電を起こしているリチウム電池のセルに修復不可能な損傷を与えるおそれがあります。

トランスミッションチェーン張力の点検



重要

チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

- リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。
- チェーンの測定位置を指で下に押して放します。
- サイドスタンドで車両を支えて駐車します。
- 固定スクリュー (B) 前のプラスチックとスイングアーム間にメジャーを挿入し、チェーンピンの中心までの距離 (A) を測定します。距離 A = 45~47mm (1.77~1.85 in) でなければなりません。



重要

この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

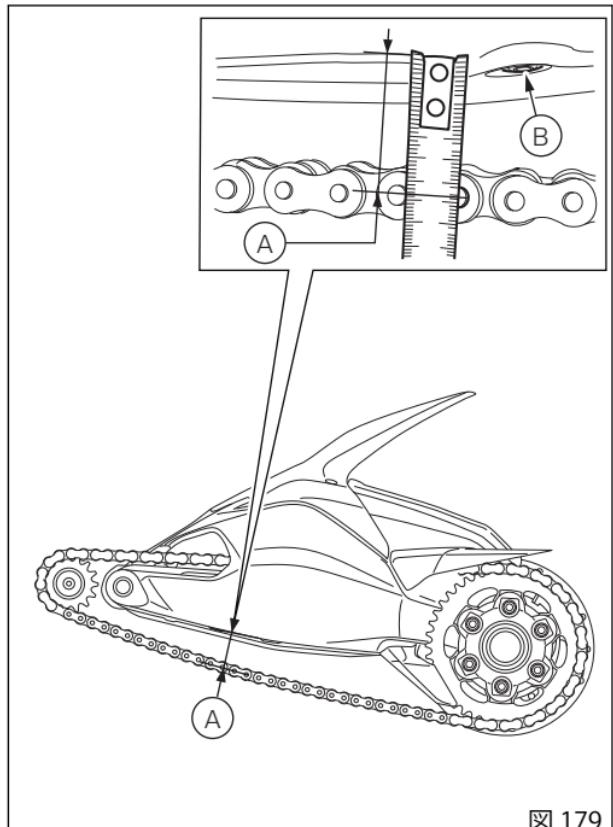


図 179



警告

安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー(1)を正しく締め付けることが重要です。



重要

チェーンの張りが不適切だとトランスマッション部品の磨耗を早めます。



重要

チェーンが常に最高レベルの性能を維持し、かつ長持ちするようにするために、チェーンの洗浄、チェック、張りに関する情報に従うことを推奨します。

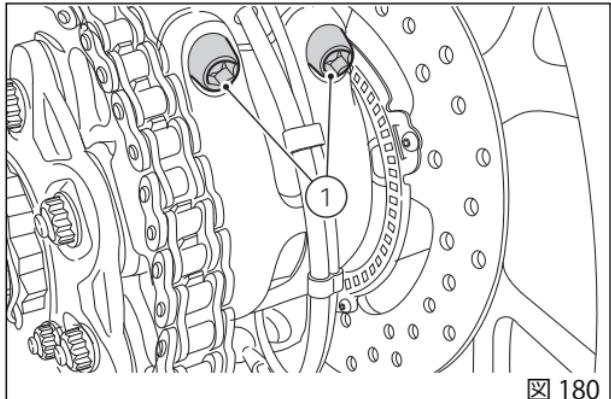


図 180

チェーンの潤滑



重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ドライブチェーンの清掃および潤滑

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つオーリングガスケット付きチェーンが装着されています。

チェーンの潤滑を行う前に、チェーンを正しく洗浄し、清掃することが重要です。

チェーンの清掃は、その寿命を伸ばすために非常に重要なことです。従って、チェーン上に泥や土、砂、その他一般的な汚れが見られる場合は、それらの汚れをウォータージェットで取り除き、その後すぐに 30cm (11.81 インチ) 以上離れたところから圧縮空気で乾燥させてください。



警告

蒸気やガソリン、溶剤、硬いブラシやその他、Oリングを傷つけるものは使用しないでください。さらにバッテリー電解液との接触を避けてください。図のように、リンクに小さなひび割れができるおそれがあります。



警告

特にバイクをオフロードで使用する場合は、チェーンガイドスライダーとの接触により、リンクが過度に摩耗することがあります。摩擦によりチェーンが過熱し、チェーンの熱処理が損なわれ、その結果特にリンクがもろくなるおそれがあります。

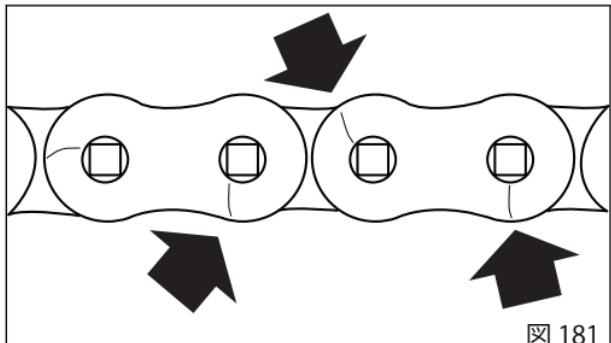


図 181

ドライブチェーンの潤滑

重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

警告

潤滑には SHELL Advance Chain を使用してください。規定以外の潤滑剤を使用すると O リングや、それに伴ってトランスミッションシステム内部を損傷することがあります。

チェーンの潤滑は、新しい潤滑剤がリンク間の内外に染み込み、保護作用がより効果的に発揮されるよう、バイクの使用後、車両が冷えるのを待たずに行ってください。

リアパドックスタンドに車両を駐車します。リアホイールを進行方向とは逆の方向に速く回転させてください。

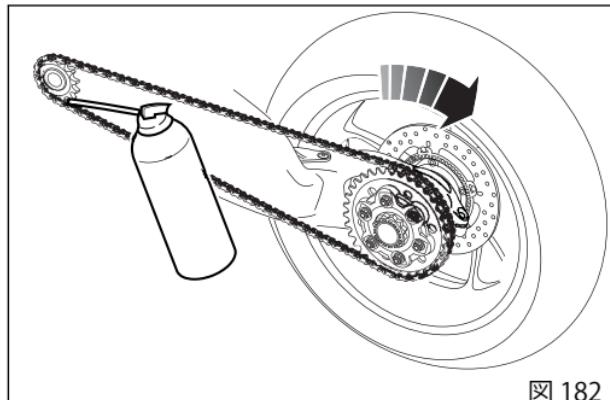


図 182

チェーン内部のリンクの内側と外側に、スプロケットとのかみ合わせの直前の箇所(2)で、潤滑剤(1)のジェットを噴射します。

遠心力によりスプレーの中身が液状になり、潤滑剤がピンとブッシュの間の作動部分に行き渡り、完璧な潤滑を保証します。

潤滑剤のジェットをチェーンの中央部(5)に配置して作業を繰り返し、図のようにニードルベアリング(4)および外側のプレート(6)を潤滑します。

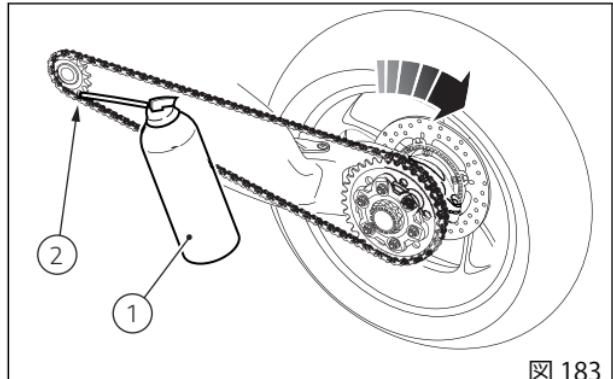


図 183

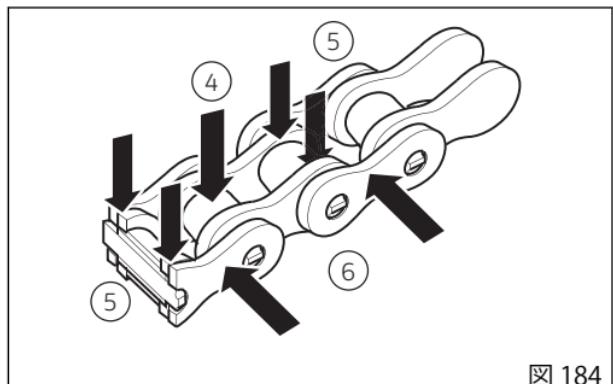


図 184

潤滑の終了後 10～15 分待ち、チェーンの内側と外側表面に潤滑剤を行き渡らせ、その後余分な潤滑剤を布でふき取ります。

!**重要**

チェーンの潤滑後、すぐにバイクを使用しないでください。潤滑の直後は潤滑剤がまだ流れやすく、外側に向かって飛び散り、後輪やライダーフットペグを汚す可能性があります。

!**重要**

チェーンのチェックを頻繁に行い、プログラムされた表に従って、少なくとも 1000 km (621 マイル) 毎に行ってください。外気温度が高い (40° C) 土地での使用時、または長距離におよぶ高速道路での走行の後は、より頻繁 (約 400 km (248 マイル) 毎) に潤滑を行ってください。

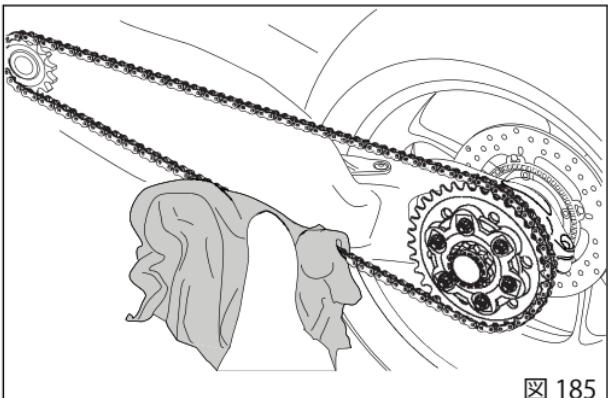


図 185

ハイビーム/ロービーム電球の交換

ヘッドライトユニットはフルLEDですので、メンテナンスの必要はありません。図ではハイビームランプ(HI)、ロービームランプ(LO)、パーキングランプ(1)の位置を示しています。ランプの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアターンインジケーター

ターンインジケーターライトはLED電球なのでメンテナンスの必要はありません。

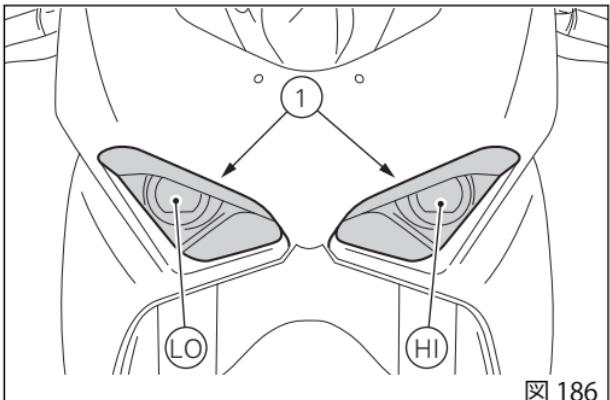


図 186

ヘッドライトの光軸調整

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員1名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前10メートルの場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯し、左右の光軸調整を行います。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの $\frac{9}{10}$ 以下でなければなりません。

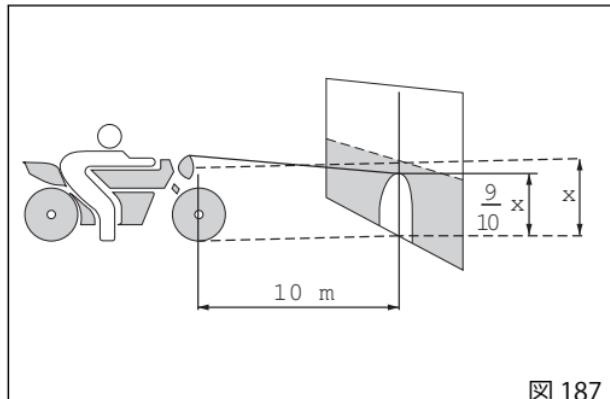


図 187

参考

この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したもので、車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

ヘッドライトの光軸調整を行うには、車両前部、左右に設けられたスクリュー(1)または(2)を回します。

左側のスクリュー(1)でハイビームランプを調整します。

- 時計回りに回すと光軸が下がります。
- 反時計回りに回すと光軸が上がります。

右側のスクリュー(2)でロービームランプを調整します。

- 時計回りに回すと光軸が下がります。
- 反時計回りに回すと光軸が上がります。

警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

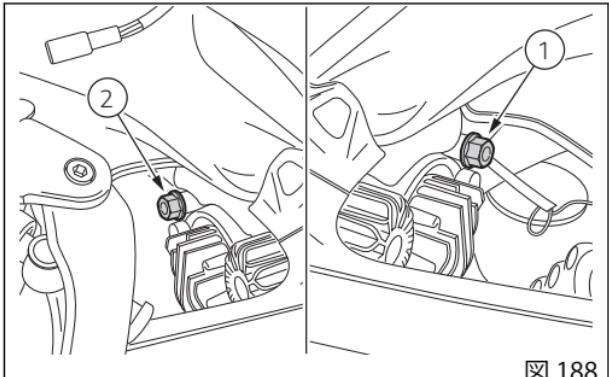


図 188

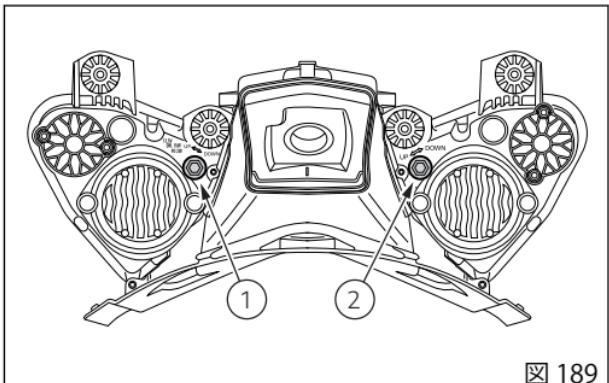


図 189

リアビューミラーの調整

ポイント(A)を押しながらミラーを手動で調整します。

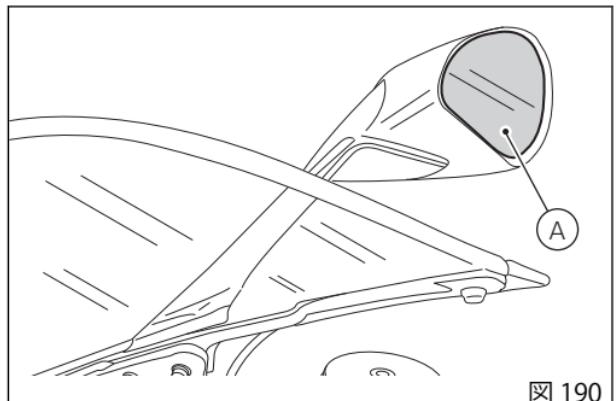


図 190

チューブレスタイヤ

タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

用途	フロント	リア
公道(ライダーのみ):	2.5 bar (36.26 psi)	2.5 bar (36.26 psi)
公道(ライダーとパッセンジャー)	2.5 bar (36.26 psi)	2.7 bar (39.16 psi)
サーキット(ライダーのみ):	2.3 bar (33.36 psi)	2.1 bar (30.45 psi)

!**警告**

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を0.2~0.3 bar (2.90 ~4.35 PSI) 上げてください。

タイヤの修理、交換(チューブレス)

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

!**警告**

パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかりと締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。

!**警告**

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。

!**参考**

タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどのABSシステム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所(S)の溝の深さを測定します。溝の深さは2 mm (0.08 in)以上でなければならず、また現地法で定めた規定値以下であってはなりません。



重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドの溝に入り込んだ石や異物は取り除いてください。

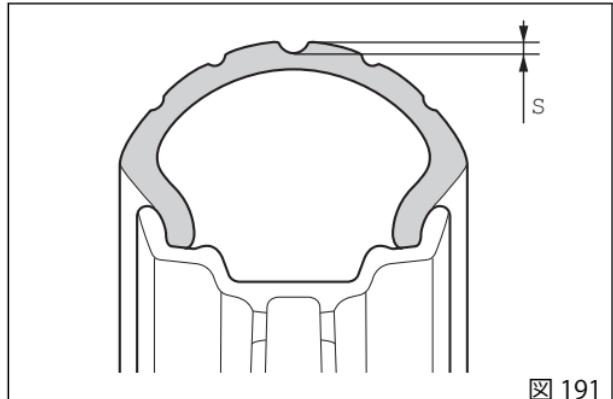


図 191

エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓(1)から見ることができます。

オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。

ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 です (JASO : MA2、API : SN)。

フィラーキャップ(2)を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。フィラーキャップ(2)を取り付けます。

重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルレベルの正確な点検を実施するには、以下に記載する作業をよく読んで指示に従ってください。

1) オイルレベル点検はエンジンが熱い状態で実施します。そのため少なくとも 20~30 分間走行した後すぐに実施しなかった場合は、もう一度エンジンを温める必要があります。

エンジンが冷めた状態であればエンジンを始動し、最低でもラジエーターファンが二回連続して作動するま

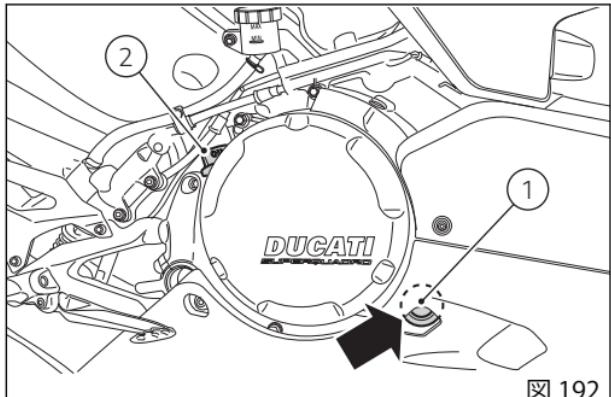


図 192

でエンジンを温めてください (エンジンオイルがオイル通路に沿って潤滑にオイルパンまで到達するには、オイルが熱くなければなりません)。

エンジンを温めている間は、車両をサイドスタンドで駐車していてもかまいません。

2) エンジンを停止し、オイルが完全にオイルパンに戻るまで 10~15 分待ちます。

3) 平坦な場所に両方の車輪を地面に着け、直立に駐車します。

4) この時点で、エンジンオイル点検窓からオイルレベルを点検します。

5) オイルレベルが MIN と MAX 目盛りの中央より下であれば、MAX 目盛りまでオイルを補充してください。

警告

MAX 目盛りは絶対に超えないようにしてください。

オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格：SN
- JASO 規格：MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API(米国での分類) および JASO(日本標準) は、オイルが有する特徴を表します。

車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。

プレキシガラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤を使用してください。

アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

 研磨材付きスポンジやスチールワールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象なりません。

重要

 走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。洗車には温水ジェットや高压洗浄機を使用しないでください。

洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露(くもり)を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。

エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統(チェーン、フロント/リアスプロケット等)に脱脂剤が付着しないように注意してください。

車両をぬるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

警告

 洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドラランプレンズにくもりが生じことがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABSシステムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンターを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けください。

ホイールリムにはアルミニウム加工が施されていますので、清掃には十分に注意してください。車両を使用するたびに、ホイールリムを清掃して乾燥させてください。

重要

ドライブチェーンの清掃や潤滑は、「ドライブチェーンの潤滑」を参照してください。

警告

インストルメントパネルのクリアカバーにオイルや燃料が直接付着しないようにしてください。シミや損傷の原因となり情報を読み取りにくくなるおそれがあります。この部分の清掃にはアルコール系洗剤、溶剤や研磨剤入りの洗剤を使用しないでください。表面の硬いザラついたスポンジや布はキズが付くおそれがありますので使用しないでください。

参考

インストルメントパネルのクリアカバーは、やわらかい布を使用して水と中性洗剤、もしくはクリアプラスチック部品専用の洗剤で清掃してください。

参考

インストルメントパネルの清掃には、アルコールやアルコール由来の製品を使用しないでください。

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。

スパークプラグの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

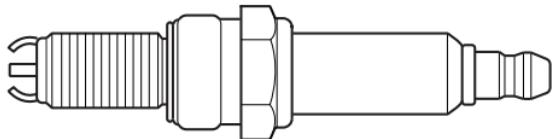


図 193

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- 接続を切り離し、バッテリーを取り外します。バッテリーメンテナーで定期的に充電します。
- 結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。車体力カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

重要注意事項

国によっては(フランス、ドイツ、イギリス、ヨーロッパ、イス等)排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。

法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム：ディーラーでおこなうメンテナンス



警告

このメンテナンスプログラムは Panigale V2 の公道での使用を想定しています。サーキットで使用する場合、競技でなくても車両のすべてのシステムに多大な負荷がかかりますので、定期点検をより頻繁におこなう必要があります。



警告

Panigale V2 を競技で使用するためのパーソナルアドバイスをお受けになられたい場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	12	24	36	48	期間(月)
		0.6	7.5	15	22.5	30	
DDS 2.0 による不具合メモリー読み取り、コントロールユニットのソフトウェアバージョン更新の確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデートおよびリコールの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルおよびフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークメッシュフィルターアセンブリの交換				●		●	-

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000	1	12	24	36	48	期間(月)
	マイル x1000	0.6	7.5	15	22.5	30	
バルブクリアランスの点検と調整			●			●	-
スパークプラグの交換			●			●	-
エアフィルターの点検と清掃		●		●			-
エアフィルターの交換			●		●		-
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	●	●	●	●	●	12	
ブレーキ / クラッチフルードの交換						24	
ブレーキパッドの摩耗点検必要な場合は交換		●	●	●	●	12	
フロント / リアブレーキキャリパースクリュー、フロントブレーキディスクスクリューの締め付け点検		●	●	●	●	12	
リアブレーキディスクおよびフォニックフォイールのスクリュー締め付け点検			●		●	-	
フロント、リアホイールナットの締め付け、リアスプロケットナットの締め付け点検		●	●	●	●	12	
フロント、リアホイールハブベアリングの点検			●		●	-	
リアスプロケットのダンパーの点検			●		●	-	
リアホイールシャフトの点検と潤滑			●		●	-	

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	12	24	36	48	期間(月)
		0.6	7.5	15	22.5	30	
ファイナルドライブ(チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット)、およびチェーンスライダーの磨耗点検 ドライブチェーンの伸びの点検。測定値：_____		●	●	●	●	●	12
ドライブチェーン張力の点検と潤滑		●	●	●	●	●	12
セカンダリーエアリードバルブの点検、必要であれば交換				●		●	-
ステアリングチューブベアリングの遊び点検				●		●	24
フロントフォークオイルの交換							36
フロントフォーク、リヤショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検		●	●	●	●	●	12
フレーム-エンジン、スイングアームの締め付け点検			●	●	●	●	-
サイドスタンドの作動、締め付け点検		●	●	●	●	●	12
目視できるすべてのカバーやフレキシブルホース(燃料供給、ブレーキ、クラッチ、冷却システムのフレキシブルホース、ブリーザーホース、ドレンホースなど)に亀裂や漏れなどがなく、正しく取り回されていることを点検する		●	●	●	●	●	12
クーラントレベルの目視点検		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	12	24	36	48	期間(月)
		0.6	7.5	15	22.5	30	
クーラントの交換						●	48
タイヤ空気圧、磨耗点検	●	●	●	●	●		12
バッテリー充電レベルの点検	●	●	●	●	●		12
電気安全装置の作動点検(サンドスタンドとクラッチセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー)	●	●	●	●	●		12
ランプ類、ターンインジケーター、警告ホーン、コマンド類の動作点検	●	●	●	●	●		12
DDS 2.0 を介したサービスインジケーターのリセット	●	●	●	●	●		12
安全装置(ABS、DTCなど)、アイドリングの機能点検を兼ねた最終点検および路上での走行テスト	●	●	●	●	●		12
エレクトリックファンの起動/停止点検、干渉の有無の確認							
車両のソフトクリーニング	●	●	●	●	●		12
定期点検実施の車載書類(サービスブック)への記入	●	●	●	●	●		12

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

メンテナンスプログラム：お客様がおこなうメンテナンス



重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000	1
	マイルx1000	0.6
月	月	6
エンジンオイルレベルの点検		●
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検		●
タイヤ空気圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

テクニカル仕様

重量

車両重量 (燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠)	200 kg (440.92 lb)
車両重量 (液体類、バッテリーを含まない)	176 kg (388 lb)
車両総重量 (最大負荷)	400 kg (881.85 lb)



警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

サイズ

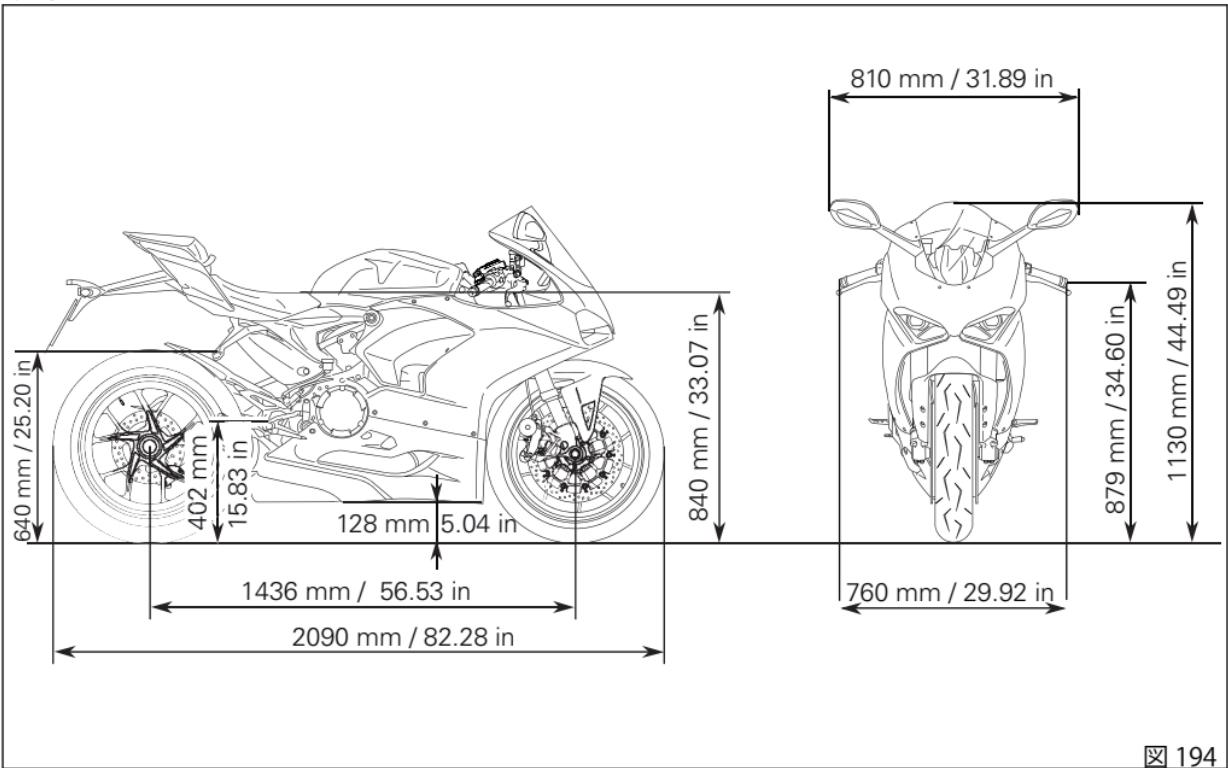


図 194

補給

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 5 リットル (1.10 オクтан価が 95 以上の無鉛ガソリン SHELL 17 リットル UK ガロン) を含む	V-Power を使用してください。	(3.74 UK ガロン)
エンジンクランクケースおよびフィルタ -	ドゥカティ社推奨オイルは SHELL Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO: MA2、API : SN) です。	3.8 リットル (0.84 UK ガロン)
フロント/リアブレーキシステム、クラッ チ	-	
電極保護液	電気系統の保護スプレー	-
フロントフォーク	SHELL Donax TA	92 mm (3.62 in)
冷却システム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄めず 2.3 リットル に使用)	(0.50 UK ガロン)

重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

4ストローク 90° "L"型 2気筒、低タンクダイキャストクランクケース

ボア：100 mm (3.94 in)

ストローク：60.8 mm (2.39 in)

総排気量：955 cm³ (58.28 cu in)

圧縮比：12.5:1 ± 0.5

クランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014
添付 X、kW/HP：

113.7 kW/155 HP / 10750 rpm

クランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014、
添付 X、kW/HP、ベルギーバージョンのみ：
83 kW/113 HP / 8750 rpm

クランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014、
添付 X、kW/HP、ロシアバージョンのみ：

110 kW/150 HP / 8750 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No. 134/2014
添付 X：

104 Nm / 10.6 Kgm / 9000 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No.
134/2014、添付 X、ベルギーバージョンのみ：

94 Nm / 9.5 Kgm / 8250 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No.
134/2014、添付 X、ロシアバージョンのみ：
103 Nm / 10.5 Kgm / 9000 rpm

最高回転数、rpm : 11,500



重要

走行中いかなる状況においても、決して最高回転数を超えてはいけません。



参考

記載されている出力/トルクデータは、基準適合規則に従って静的テストベンチを使用して測定されたもので、認証時に測定され車両登録証に記載されているデータと同じになります。

タイミングシステム

チェーンおよびスプロケット駆動ダブルオーバーヘッ
ドカムシャフト、シリンダーごとに4バルブ、デスマ
ドロミックシステム

デスマドロミックタイミングシステム

- 1) オープニング(アッパー)ロッカーアーム
- 2) オープニングロッカーシム
- 3) クロージング(ロア)ロッカーシム
- 4) ロッカーアームリターンスプリング
- 5) クロージング(ロア)ロッカーアーム
- 6) カムシャフト
- 7) バルブ

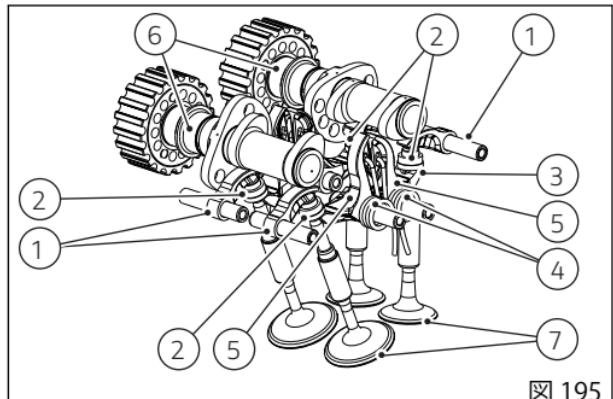


図 195

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

重要

! これらの条件が守られなかつた結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：NGK

タイプ：MAR9A-J

燃料供給

誘導放電型間接噴射タイプ電子制御式インジェクションシステム

横円スロットルボディ（相当径）：

62 mm (2.44 in)。

シリンダーごとのインジェクター数：2

インジェクター孔数：12

ガソリン燃料：95-98 RON



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

フロント

穴付きセミフローティングダブルディスク

ブレーキシュー材質：ステンレススチール

ハウジング材質：アルミニウム

ディスク径：320 mm (12.60 in)。

ディスクブレーキ面積：219 cm² (33.94 in²)

ブレーキディスク厚：4.5 mm (0.18 in)。

ディスクの摩耗限界：4.0 mm (0.16 in)。

右側ハンドルレバーによる油圧コントロール

ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO

タイプ：Stylema® M4.32 モノブロックラジアルマウント (コーナリング ABS EVO)

キャリパーのピストン数：4

ブレーキパッド材質：BRM11E HH

ブレーキレバーポンプシリンダー径：18 mm (0.71 in)。

リア

穴あき固定ディスク、スチール製

ディスク径：245 mm (9.6 in)。

ディスクブレーキ面積：190 cm² (29.45 in²)

ブレーキディスク厚：5 mm (0.2 in)。

ディスクの摩耗限界：4.5 mm (0.18 in)。

車体右側ペダルによる油圧コントロール

キャリパーメーカー：BREMBO

キャリパーのピストン数：2

キャリパーピストン径：34 mm (1.73 in)。

Bosch コーナリング ABS EVO 標準装備。

ブレーキパッド材質：Ferodo Ferit I/D 450 FF

ポンプタイプ：PS 13

ポンプ径：13 mm (0.51 in)。

警告

ブレーキフルードは腐食性があります。

万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスミッション

湿式多板、油圧式制御、左ハンドルレバーによる操作、セルフサーボ機構およびスリッパークラッチ機構付き。

エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達。

一次減速比：1.80:1

エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：
30/53

6速ギア、ドゥカティクイックシフト (DQS) UP/DOWN EVO2、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/43

変速比：

1速 15/37

2速 16/30

3速 18/27

4速 20/25

5速 22/24

6速 24/23

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達

メーカー、モデル：REGINA 520 ZRDK
リンク数：106

! 重要

上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

この車両を競技用に仕様変更を望まれるお客様に、Ducati モーター・ホールディング社から特別なギア比に関する情報を提供することが可能です。Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

! 警告

リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

フレーム

アルミニウム合金キャスト製モノコックフレーム

キャスター角：24°

ステアリングアングル：左側 24° / 右側 24°

トレール：94 mm (3.7 in.)

ホイール

フロント

5本スポーク軽合金鋳造リム

寸法：MT3.50x17"

リア

5本スポーク軽合金鋳造リム

寸法：MT5.50x17"

タイヤ

フロント

チューブレスラジアルタイヤ Pirelli Diablo Rosso

Corsa II

寸法：120/70 ZR17 M/C (58W)

リア

チューブレスラジアルタイヤ Pirelli Diablo Rosso

Corsa II

寸法：180/60 ZR17 M/C (75W)

サスペンション

フロントフォーク

SHOWA 製 BPF クロムメッキスチール倒立フォーク、フルアジャスタブル

インナーチューブ径：43 mm (1.7 in.)

ホイールトラベル：120 mm (4.7 in.)

リアショックアブソーバー

SACHS 製モノショックアブソーバー、リバウンド/コンプレッションダンピングのフルアジャスタブル。片持ち式スイングアーム。

ホイールトラベル：130 mm (5.1 in)。

ショックアブソーバーストローク：65 mm (2.5 in)。

ステアリングダンパー

SACHS 製ステアリングダンパー、調節不可。

エキゾーストシステム

「2 in 1」レイアウト

ラムダセンサー 2 個、触媒コンバーター 2 個

カラーバリエーション

ドゥカティレッド

- ベース(プライマー)：アクリフレックスホワイト、
部品番号：L0040652
- エナメル(ニス)：アクリプラストレッドストーン
SF、部品番号：LMC06017
- リムカラー：ブラック

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

ヘッドライトタイプ：

LED Luxeon Altilon 1 個 + LED Luxeon F Plus (ロービーム) 2 個

LED Luxeon Altilon (ハイビーム) 1 個

LED Luxeon F ES (パーキングライト/DRL) 4 個

LED フロントターンインジケータータイプ：

LED OSRAM LYE65F 15 個

LED リアターンインジケーター (ヨーロッパバージョン) タイプ：

LED PHILIPS LXM2-PL01 1 個

リアターンインジケーター電球(USAバージョン) タイプ：

RY10W (12V-10W) オレンジ色

テールライトタイプ：

LED OSRAM LAA67F 18 個

LED ストップランプタイプ：

LED OSRAM LAE6SF 18 個

LED ナンバープレートランプタイプ：

LED CREE CLA1A-WKW 3 個

警告ホーン

ストップランプスイッチ

電解液を含む密閉型バッテリー：

YUASA YT 7B-BS (12V - 6.5Ah)

ジェネレーター：

14V - 510W。

電子レギュレーターは、バッテリー横のスターターコンタクター上に設けられた30Aヒューズで保護されています。

スターターモーター：

Denso 12V - 0.6 kW



参考
電球の交換は、"ハイ/ロービーム電球の交換"を参照してください。

ヒューズ

電装品の保護装置はフロントヒューズボックス内にヒューズがあり、スターターコンタクター上にヒューズが1個あります。各ヒューズボックス内には予備ヒューズが1個あります。

ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。

左フロントヒューズボックス(A)および右フロントヒューズボックス(B)は、バッテリー上に配置されています。

ヒューズで作業するには、左フェアリングを取り外します。

ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。

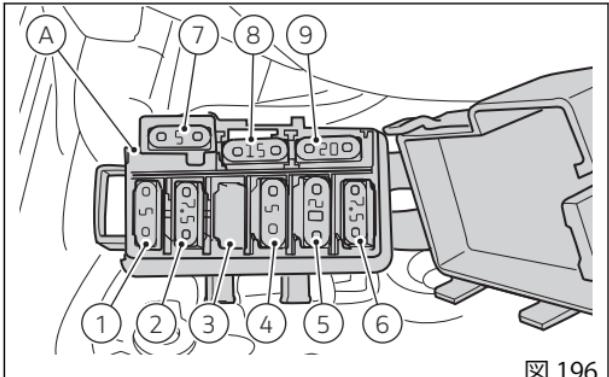


図 196

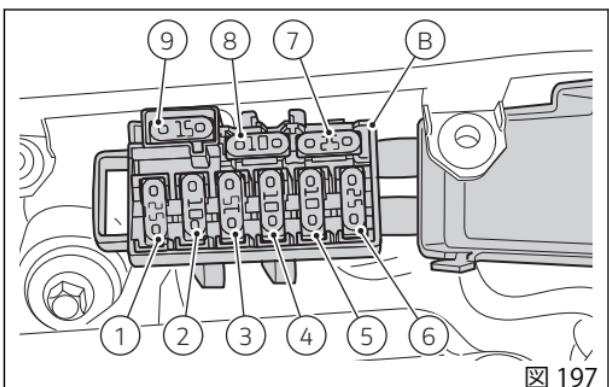


図 197

左フロントヒューズボックス凡例(A)		
配置	保護装置	容量
1	EMS / ABS / IMU	5 A
2	DASH / BBS / SMEC	7.5 A
3	-	-
4	アクセサリー(SW)	5 A
5	インジェクションリレー -	20 A
6	診断 / 充電	7.5 A
7	スペア	5 A
8	スペア	15 A
9	スペア	20 A

右フロントヒューズボックス凡例(B)		
4	Black Box システム (BBS)	10 A
5	燃料ポンプリレー	10 A
6	EMS 負荷リレー	25 A
7	スペア	15 A
8	スペア	10A
9	スペア	25 A

右フロントヒューズボックス凡例(B)		
配置	保護装置	容量
1	ABS 1	25 A
2	ABS 2	10 A
3	インストルメントパネル	15 A

スターターのメインヒューズで作業を行うには、左フェアリングを取り外します。

スターターのメインヒューズ 30A (C) はヒューズボックス右側のバッテリー近くにあります。このヒューズで作業するには、保護キャップを取り外してください。

予備ヒューズ 30A (D) はスターターコンタクター (E) 上に設けられています。このヒューズで作業するには、保護キャップを取り外してください。

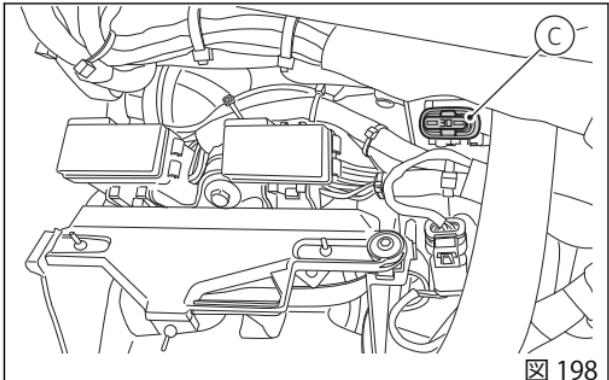


図 198

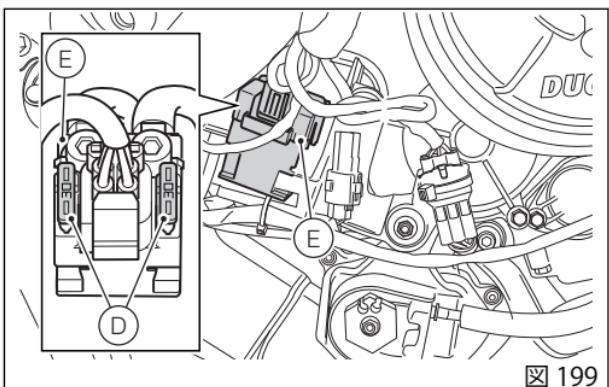


図 199

切れたヒューズは、インナーフィラメント(F)が溶断しているかどうかで確認することができます。



重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーをOFFにしてください。



警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすことがあります。

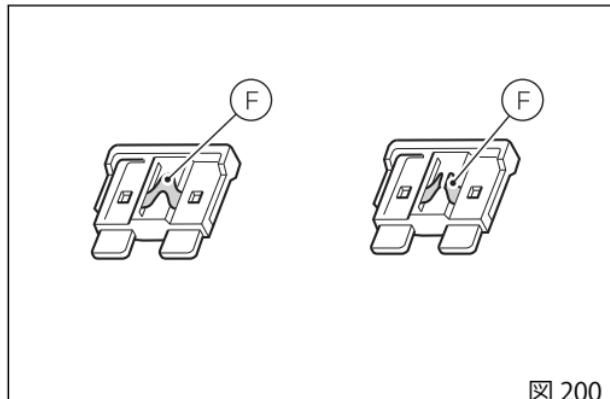


図 200

定期点検メモ

定期点検メモ

キロメートル 名	走行距離	日付
1000		
12000		
24000		
36000		
48000		
60000		

A standard linear barcode consisting of vertical black bars of varying widths on a white background.

91374581JA



Ducati Motor Holding spa
ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company
A Company subject to the Management
and Coordination activities of AUDI AG